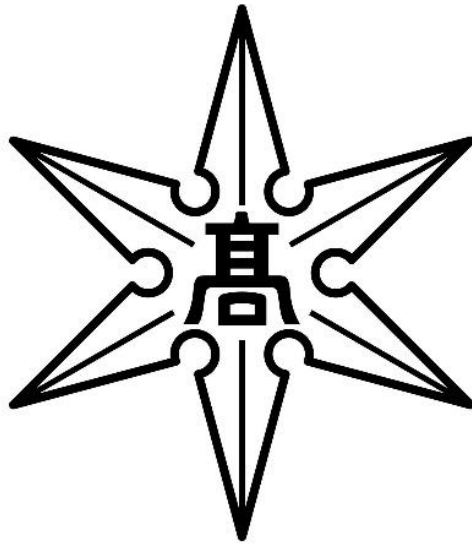


個人情報保護の観点から、生徒
個人の報告書は氏名を削除して
掲載しています。

令和5年度
2学年 MC探究II
東京研修 報告書



新潟県立高田高等学校



明治7年(1874年)創立の本校は、令和6年に創立150周年を迎えます。上記ロゴが生徒により製作されました。

巻頭言

主体的に学ぶということ

校長 山田 喜昭

本校では、多様な体験活動をとおして自己理解を深め、社会を知り、そして自分自身を社会で活かすためのキャリアアップを目的として、体系的なキャリア教育「高高未来Clue Plan（高高ミラクルプラン）」を立ち上げ、取り組んできました。そして、その取組のひとつ、「東京企業研修」は平成21年に始まりました。その後、平成25年に本校が文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業校に指定されたことを機に、高高未来Clue PlanをSSH事業に組み込むとともに、東京企業研修を中核に据えて、普通科の探究学習の充実、発展を目指してきました。東京企業研修は今年で、15年目となり高田高校の伝統行事となっています。

今年度は、新しい学習指導要領に沿い、「主体的・対話的な深い学び」を実現すべく、個人での探究活動を試みることとなりました。それぞれが1年半かけて探究した主題を各企業でプレゼンテーションするとともに、企業の担当者様から助言をいただいたり、意見交換をしたりしました。一人ひとりの発表ということで、少々心配もしていたのですが、企業の皆様からは、「高田高校の生徒のポテンシャルの高さを感じた。」「我々ではなかなか思いつかない、高校生らしい発想に感心した。」など、お褒めの言葉をたくさんいただき、安堵しました。その後、10月25日には探究学習ゼミ発表会を開催。前日にクラスで発表会を行い、クラス代表を選出して全体会を実施し、2学年全員が参加しました。これらの活動をとおして、課題を発見し、検証、分析をして課題解決を目指すという探究活動の目的を十分に達成できたと感じています。今後は、こうした探究活動で得た知見を他者の意見と突き合わせ、自他の意見や主張の違いを十分に認識した上ですり合わせを行い、合意形成を目指す活動が重要となります。是非、自ら設定した課題に対して友達や家族などと議論をしてみてください。

さて、現代世界は、VUCAの時代といわれています。「Volatility：変動性」、「Uncertainty：不確実性」、「Complexity：複雑性」、「Ambiguity：曖昧性」の4つの単語の頭文字をとった造語ですが、近年は価値観や社会構造の変化、AIに代表されるテクノロジーの進化などによって予測できないほどの大きな変化が起きており、将来の見通しを立てることが難しい状況です。また、経済活動を中心としたグローバル化の進展によって地球規模で起こる課題もより複雑化し、これまでの常識が通じなくなっています。そして、こうした課題には絶対的な答えがなく、何が正解か分からない状況が生まれています。

これから生きる皆さんに必要なのは、便利さよりも人が人らしく豊かに生きられる社会を目指すことだと思います。AIなどは確かに素晴らしい技術です。しかし、機械はインプットされた大量のデータをもとに最適解を導き出せはしますが、自ら新しいものを生み出すことはありません。現代世界は環境問題、人口問題、貧困や飢餓、エネルギー問題、地域紛争や戦争、人権問題など、実に多くの課題を抱えています。また、我が国は、少子高齢化による急激な人口減と人手不足、実感を伴わない経済循環、輸入資源・原料や製品の高騰に伴う物価高といった多くの難問に直面しています。このような状況を打破するためには、今までは違う、「Something New（何か新しいもの）」を生み出す力が必要で、それはヒト以外にはできません。

皆さんは、この探究活動に意欲的に取り組めたでしょうか。皆さんが探究活動で身に付けたものは、この何か新しいものを生み出す力だと考えています。無論、現段階ではそれはポテンシャル（潜在能力）であって、可能性にすぎません。今後も、進んで課題を見つけ、それを解決しようと試行錯誤することを大切にしてください。

末筆になりますが、東京企業研修の実施にあたり、ご尽力を賜りました校友会東京支部長の内山郁夫様、元支部長の佐久間昇二様、探究学習発表会に審査員としてご出席いただいた久島士郎様、小竹斉様に御礼申し上げます。あわせて、お忙しい中、本校の東京企業研修にご協力いただきました全ての企業、大学等の御担当者様に改めて感謝申し上げ、巻頭の御挨拶といたします。

巻頭言	1
目次	2
MC探究Ⅱ 令和5年度の取組	3
探究発表会 生徒会長挨拶	5
生徒報告書（発表させていただいた企業・大学順に掲載）	
株式会社みずほフィナンシャルグループ	6
住友生命保険相互会社	11
日本電気株式会社	23
シティユーワ法律事務所	32
富士通株式会社	42
キヤノン株式会社	50
株式会社ベネッセコーポレーション	55
数研出版株式会社	66
横浜ゴム株式会社	76
石油資源開発株式会社(JAPEX)	82
株式会社朝日新聞社	93
株式会社ぐるなび	103
大日本印刷株式会社	108
野村ホールディングス株式会社	113
日本ケミコン株式会社	120
信越化学工業株式会社	126
株式会社東芝	131
パナソニック株式会社	139
株式会社FCEエデュケーション	149
日本大学医学部附属板橋病院	164
ビジネス・ブレークスルー大学	172
本田技研工業株式会社	179
明星大学	189
JCCソフト株式会社東京本社	194

MC探究Ⅱ 令和5年度の取組

1 目的

- (1) 自律促進、主体性向上、職業観の育成、目的意識の明確化、「社会貢献マインドセット」の育成
- (2) 協働的・論理的・批判的・建設的コミュニケーションスキル向上

上記資質育成のために、「日本／世界が抱える課題に対して、自分がキャリアを通じてどのようにアプローチし、社会貢献できるのか」というテーマを設定し、データサイエンスの手法を用いた探究を行った。

2 年間指導計画（概要）

1 学期	2 学期	3 学期
グループではなく生徒 1 人 1 人で探究テーマに基づく問い、課題、仮説をレポートにまとめて提出。 *英語での発表を希望する生徒は英語で発表する前提で進めた。 *3 学期の発表は日本語のみ。	①東京研修企業訪問にて各自の探究をプレゼンにまとめて発表。 ②探究学習発表会にて各クラス 2 名・英語発表 1 名、計 11 名が 1・2 年生に向けてプレゼンを実施。 ③生徒個々の発表を動画にまとめたものを提出させ、評価。	「東京研修からの学びを今後の自分にどう生かすか」、「SDGs の目標と自己の職業選択・進路選択との関わり」、「次年度の探究の展望」の 3 点をまとめたプレゼンを個々が行い、クラス代表（各クラス 2 名）による学年発表会を実施。

*新学習指導要領対応として、グループによる探究ではなく、個人での探究に切り替えた。

*来年度は、本校の教育目標の 1 つである「国際社会に貢献する人材を育成する」ために、SDGs から逆算したキャリアプランを考え、職業観や目的意識を高めることを目指す探究を行う。3 学期はそのためのつなぎ。

3 内容

①レポート作成

a 実施期間 1 学期

b 目的

探究テーマに対して個々で何ができるかを、データや根拠に基づいて論理的に思考する力を高める。

c 内容

「日本／世界が抱える課題」、「課題が生じる原因や背景」、「課題の深刻さを示す論拠となる事実やデータ」、「課題の改善や解決のために必要と思われること」、「課題に対して、将来自身がどの職に就いてアプローチするか」、「そのアプローチがどのように課題の改善／解決に有効なのか（仮説）」、「仮説の有効性を示す論拠・事実・データ等」をレポートにまとめて提出させた。

②企業訪問（今年度は企業以外にも大学や病院からの受け入れもあった）

a 実施時期 10 月 4 日（水）

b 目的

探究成果を企業の方に聞いてもらい、得られたフィードバックを探究のブラッシュアップに活用する。

c 内容

生徒が司会をする形で、企業の方 1 名に対して生徒 4～5 人グループでプレゼンを実施。生徒個々の探究成果の発表に加え、「企業へのプレゼントコメント」を用意し、企業の方に喜んでもらう工夫も施した。10 名の生徒が英語での発表に挑戦した。

③探究学習発表会

a 実施日 10 月 25 日（水）

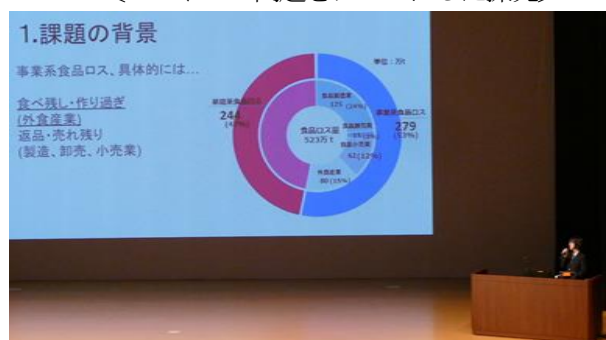
b 目的

1・2 学年全体で探究成果を共有し、学びを深める。

c 内容

前日の選考会を経て、各クラス代表 10 名、英語発表 1 名が全体向けに発表を行った。質疑応答も盛り上がり、盛況だった。

[フードロス問題をテーマにした探究]



④報告書作成、「これからの自分」発表会

- a 実施期間 3学期
- b 目的
これまでの学びの整理、3年生での探究活動へのスムーズな接続。
- c 内容
 - ・東京研修報告書の作成を個々で行い、個々の探究からの学びを整理した。
 - ・「東京研修からの学びを今後の自分にどう生かすか」、「SDGsの目標と自己の職業選択・進路選択との関わり」、「次年度の探究の展望」の3点をまとめたプレゼンを個々が行い、クラス代表（各クラス2名）による学年発表会を実施した（2月8日）。

4 MC探究Ⅱの成果と課題

a 成果

科目で育成したい力の伸長に対する生徒の意識の推移を知るために、以下の質問を用いて、5月11日、10月26日に同じ内容でアンケートを実施した。

- ①社会貢献を意識して進路（キャリア）選択をしたいという気持がある。
- ②自分には、論理的思考力があると思う。
- ③自分には、批判的思考力があると思う。
- ④自分には、建設的コミュニケーションスキルがあると思う。
- ⑤科学的思考を活用して課題の解決策を考えることに関心がある。
- ⑥自分には、自身の考えの信ぴょう性を高めるために、客観的事実やデータ等を活用するスキルがあると思う。
- ⑦自分には、科学的思考を活用して物事の解決策を考えたり、提案したりする力があると思う。

以下の表に、肯定的回答の割合（「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」の合計）の推移を示す。この結果から、育成したい資質の向上に探究の取り組みが奏功したと考えている。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
5月	72.7%	71.6%	77.8%	66.8%	78.9%	75.3%	61%
11月	89.8%	75%	84.5%	76.6%	79.8%	80.3%	73.4%
増減	+17.1%	+3.4%	+6.7%	+9.8%	+0.9%	+5%	+12.4%

今年度初めて訪問を受け入れてくださった企業の方からは、「生徒さんたちの一生懸命な姿にとっても感銘を受けました。プレゼン内容もとても素敵なものばかりで、弊社の社員も本当に高校生ですか?!という声も上がっておりました。」や「大人の方が生徒の発表からヒントをもたえました」という声があり、その他にも生徒たちのプレゼンスキルや課題設定等を称賛する声が多く寄せられ、確かな手応えを得ることができた。

また、昨年度までとは違い、グループではなく個人での発表に切り替えた点について、例年お世話になっている企業の方から、「生徒個々のポテンシャルがよく発揮され、今まで感じていたモヤモヤがすっきりして非常に良かった」という好意的なフィードバックをいただき、個人発表に切り替えた判断も成功だったと捉えている。

b 課題

「科学的な探究」を目指してデータサイエンスの活用を指導したものの、既存の外部機関のデータやインターネットの情報だけで発表を行う生徒が多く、自らアンケートを実施・結果の分析をして発表に結び付ける生徒は少数だった。探究的な学びの充実という点において、この点は課題として残った。

上記のアンケートからも分かる通り、育成したい資質が育っていないと自覚している生徒が2割近くいる。

来年度は、「国際社会に貢献する人材を育成する」ことを目的とした探究活動を予定しているが、その中で、ここに挙げた課題改善につながる手立てを考え、状況改善につなげていきたい。

探究発表会

令和5年10月25日（水） 高田城公園オーレンプラザにて

生徒代表挨拶

本日は、高田高校 SSH 探究学習発表会にご参加いただきありがとうございます。

我々2年生は、この発表会のために多くの探究活動の時間を使い練習を重ねてきました。昨年度はふるさとの活性化を、そして今年度は、世界／日本の課題解決をテーマにそれぞれ活動に取り組み、企業訪問での発表をしました。東京研修を実施できたことを大変嬉しく思っております。このような機会を与えてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。

さて、今年度は例年と大きく異なることが2つあります。

1つ目は、テーマです。例年は、社会に貢献できる製品を企業様に提案するというものでしたが、今年度は世界／日本の課題解決というよりスケールの大きな、そして抽象的なテーマとなりました。先輩方からのノウハウのない中、生徒たちは悪戦苦闘しながらも一意探究に取り組みました。

2つ目は発表形式です。例年は数人で1つのグループになって発表していましたが、今年度は生徒1人1人がそれぞれのテーマを設定し、1人で発表します。テーマが違うため仲間と協力することが難しかったですが、似たテーマの人や、時には全く違うテーマの人から意見をもらい、それぞれのプレゼンテーションをよりレベルの高いものに仕上げました。また、今年度は、グローバル班の代わりに英語発表者がいます。通常の発表者よりも練習を重ねた彼らの英語力にもご期待ください。

最後になりますが、今この場にいる全ての方々にとってこの時間が有意義になることを願っております。私たちに何ができるか少しでも考えていただけたら幸いです。ありがとうございます。

(1) 探究テーマ [若者の自殺者数と精神疾患の増加傾向]

(2) 探究内容

近年、日本では若者の自殺者と精神疾患を抱える患者数は年々増加しております。自殺と精神疾患の共通している原因が2つあります。

1つ目は思春期なども重なり、人に相談することに対して恥じらいを持ちやすくなっていることです。私自身もそう感じております。悩みを相談できず、自問自答を繰り返してしまい、より一層不安が大きくなってしまいます。

2つ目は、ストレスです。ストレスは年齢関係なく抱えてしまうものです。しかし、若者特有のストレスの原因として学校問題が挙げられます。他の年代では、健康問題が大きな割合を占めているのに対して10～20代では学校問題が一番多いです。学校問題とは、いじめや進級、成績、進学に対するプレッシャーなどです。これらは時間が経過すれば大きな問題ではないのかもしれませんが、学校という狭い世界しか知らない学生達にとってはそれらを重要な問題として捉えてしまう傾向が強くあります。

私の考えた解決策は、学校と地域以外に新たなコミュニティを築くというものです。これにより、学校という狭い世界しか知らない学生たちの視野を広げることができます。また、学校以外にも親しい仲間をつくることができます。そうすることで、学校生活が辛くなった時に逃げられるような環境を作り出せます。新たなコミュニティでは悩みを解決するためのカウンセリングを中心としたサポートが受けられます。カウンセリングは継続して利用することが重要です。そこで新しいコミュニティを築き、カウンセリングを受けやすい環境を作り、日常の一部として組み込むことができます。私は新たなコミュニティを築くために福祉や心理学を学び、カウンセラーになって実際に悩みを聞いて解決する方法と一緒に考えます。悩みを抱えて辛い思いをする前に解決できるような場所を作ることが私の目標です。

(3) 訪問先 [株式会社みずほフィナンシャルグループ]

(4) (3) からの学び

みずほフィナンシャルグループのご担当者様から課題への着眼点や考察の方法等に、共感する点が多いとの評価を受け、自信を持ちました。支援をするに当たり、若者の悩みを解決することに焦点を当て検討していましたが、「そもそも悩みができないようにする教育や助言などを行って見たら良いのでは」と全く異なる視点からのアドバイスをいただきました。私には、問題に対してアプローチをするという視点で検討していた為、ご助言の問題を根本から解決するという発想を学ばさせていただきました。

また、内容が少々難しいという意見も頂きました。確かに、私自身も自殺や精神疾患、カウンセリングに対して専門的な知識は持っていません。そのため表現に欠落している部分があったのだと思います。完全な状態でプレゼンすることができなかったことを後悔しています。そのため、大学でしっかりと知識を身につけていきたいと改めて感じました。みずほファイナンスグループのご担当者様が聞きながら聞いてくださったので安心して話すことができました。私もこのように誰かがはなしているときは聞きながら聞き安心感を与えられるようになりたいです。また、見学させて頂いたときに皆様笑顔で挨拶をしてくださって緊張がほぐれました。これらはカウンセラーとしても重要なことだと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分が将来どのようなことを成し遂げたいのか、より明確にすることができ、そのためには何が必要なのか学ぶことが出来ました。ただ大学に行くのではなく、しっかりと目的や目標を定めることが出来ました。もちろん今回発表したことを実践できるかは分かりませんが、将来について深く考えたこの経験はきっと役立つ事です。また、友人やみずほファイナンスグループのご担当者様へのプレゼンを通して客観的な視点からのアドバイスの重要性を学びました。これは、ご助言を頂いただけではありません。最初は、自分ではこの探究の正統性を判断することができませんでした。しかし、自分の考えを肯定してくださったことで自信を持つことができました。プレゼンを行う上で大事なことは、スライドに必要最小限の情報と視覚からも分かりやすいようにグラフを載せる、自信を持って発表することです。私はこの二つを、MC探究Ⅱを通して実践できました。

これからのプレゼンでも実践することはもちろんのこと、聞き手を惹きつけられるようなプレゼンを目指して精進していきたいと思っております。大変充実した時間を過ごさせていただきました。

(1) 探究テーマ [地方の過疎化]

(2) 探究内容

地方の過疎化を少しでも解決するための一般論と自分の将来を考えて、地方公務員として課題にアプローチしたいと考えている。効果的な取り組みができるよう、住民の声を聴きながら町おこしをしたい。

(3) 訪問先 [みずほフィナンシャルグループ]

(4) (3) からの学び

自分の仮説の有効性を示すためには実際に成功した事例を紹介するべきだ、と指摘していただき、その後の発表に活かすことができた。自分の仮説に自信が無かったがアドバイスを活かしたことで、有効性を示すことができ、自信が少しだけついた。また、深刻な過疎化に悩んでいる地域の方のお話を教えていただいて、インターネットで調べるよりも具体的で深刻さを感じた。課題や現状を調査するには、インターネットの情報よりも実際の声を聞いた方が具体的かつ信憑性があると学んだ。今後の活動で今回いただいたアドバイスを活かし、より論理的で説得力があるものを作り出せるようになりたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分ですべてやらなければならなかったため、非常に精神的に追い込まれた時もあったけれど、そのような課題をなんとかやりぬく力とメンタルが身についた。

1年の時よりもスライド作りの技術は大きく成長することができた。苦手な発表面も、アドリブを使いながらちょうど良い時間におさめる力がついたと思う。これからもMC探究について悩み、追い込まれるはずだろうけど、周りの人と助け合いながら自分に自信を持ってやりぬきたい。

(1) 探究テーマ [日本企業における後継者不足問題]

(2) 探究内容

日本企業では後継者不足が大きな問題となっている。その背景には少子高齢化や家督相続に対する考え方の変化が挙げられる。また、後継者不足へのアプローチとしては親族内や社内で承継者を決定するとともに、事業承継計画の策定を進めるが、それでも決まらない場合は専門の企業などに相談し、社外承継を検討するのが一般的である。一般的な社外承継では、承継者のターゲットを社会人とするのが一般的であるが、私が考えるアプローチは、ターゲットを高校生や大学生などの学生とする。事業承継を望む側と、承継者のマッチングに取り組み、企業の存続に貢献し、学生の新たな可能性を活用できるのが大きな利点である。

(3) 訪問先 [株式会社みずほフィナンシャルグループ]

(4) (3) からの学び

多くの企業の経営相談に乗ってきたみずほグループの社員さんから、承継者をどのように教育していくのか、どのように募るのか、まだある問題点が可視化することがさらなる構想の綿密化につながることを学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

はじめの問題提起から、全ての根幹である、日本の重大な問題かつ自分が解決に貢献できそうな課題を探すことに対して熱心に向き合うことはとても重要であると感じました。また資料作りに関しても、読み手のことを考えて製作することは後の社会活動においても重要かつ不可欠なことだと感じました。また実際の企業研修を通して、現役で働き、社会に大きく貢献しているみずほグループの社員さんと交流し、社会で生きていくための術を感じ取れた気がしました。

(1) 探究テーマ [世界子どもの貧困問題]

(2) 探究内容

現在世界では6人に1人の子どもが貧困に苦しんでいて、大変な生活を強いられている中で、どのようなことをすれば、そのような子ども達の生活をより良い方向に導けるかを探究の題材としました。解決する上で私は募金活動を活性化させる必要があると考え、募金に焦点を当てて探究を進めました。そこで募金のアプリを開発・改善して問題解決にアプローチすることにしました。具体的な内容は、現在多く広まっているスマホのポイントアプリを参考にし、歩いたりアンケートに答えたりするとそれがポイントに変換され、そのポイントを募金として貧困地域に送れるというもの、PayPayなどの電子マネーのアプリからも募金ができる仕組みを作るということです。また使えなくなったり、いらなくなったものを貧困地域に送り、送った側にはポイントが貯まり、送られたものはリサイクルして貧困地域で活用するという仕組みを作ることとも考えました。そうすることで環境にも優しくSDGsの取り組みにもつながります。

(3) 訪問先 [株式会社みずほフィナンシャルグループ]

(4) (3)からの学び

企業の方からのフィードバックから、様々な物事を解決する際に一つの視点からだけではなく、いろいろな視点から解決策を考えることが大切だと学びました。振り返って考えてみると、私は貧困地域の外側からのアプローチしか考えておらず、実際に貧困に苦しんでいる地域自体からの解決方法を考えていませんでした。今後はいろいろな角度から物事を見てアプローチを考えることが大切だと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

以前は世界の様々なところで起こっている問題に対して自分ではどうしようもできないと考えていたのですが、探究活動でそのような問題と向き合う機会が設けられ、考えているうちに、わたしたち高校生でも少しはその問題を変えられるのではないのかと思えるようになりました。実際探究を進めていく中でその考えは正当なものであるとわかりました。わたしたち高校生は本当に世界の人々のほんの一部ではありますが、持っている若々しさ、情熱、活気はとても大きいです。だから一人一人が何をすべきか考えて、実行に移すことが本当に大切です。このMC探究でそれを明らかにできたことが大きな収穫だと感じています。これから生きていく上でプラスになる探究となりました。

(1) 探究テーマ [日本の看護師不足問題]

(2) 探究内容

日本の看護師が不足しているという現状を問題として提示した後、問題が生じた原因について考察を行った。そして解決策を考えた。

(3) 訪問先 [株式会社みずほフィナンシャルグループ]

(4) (3) からの学び

発表後の質疑応答を通じて、問題解決の方法はひとつだけではなく様々な方法が存在するため、物事を多角的に捉えることが重要だと学んだ。このことを活かして今後は、ひとつの考えだけにとらわれることなく、たくさんの考えを比較して最善策を見つけ出していきたい。金融経済教育・キャリア教育の講義をしていただき、銀行や金融について詳しく知ることができた。将来を見据えて今のうちから、お金の重要さをしっかりと理解しておきたい。また、自分で責任をもって管理するだけでなく銀行の力も借りていきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私が探究テーマを日本の看護師不足問題にした理由は、将来看護師になりたいと考えているからだ。探究活動に伴い、看護師について調べていく中で看護師の仕事や医療の現状についての情報をたくさん得ることができた。そのため、将来看護師として働くときのイメージをもつことができたし、今まで以上に看護師になりたいという気持ちが高まった。また、インターネット上の情報だけではなく、実際に看護師の方と話をしたときに感じたことも用いたため、よりリアルな探究になった。解決策を考える際は、現時点で実現可能かどうかを重要視したが、医療現場は日々変化を続けており、現時点では不可能でも将来的には可能な場合もあると思う。様々な解決策を考えることは極めて重要だと思うので現状の問題点に適した解決策を考えていきたい。

今回の探究は、社会貢献を目的としていた。テーマが大きかったため、私には難しいように思われて良い探究ができるかどうか心配だった。そこで、友人やグループの仲間と協力して意見し合った。そしてブラッシュアップを繰り返すうちに自分の発表に自信がもてるようになった。この経験から、難しい課題こそ多くの人と協力することが重要だと学んだ。なぜなら、さまざまな考えに触れることがより良いアイデアを生むきっかけをつくるからだ。これからはこの経験を活かして、難問を一人で抱え込むのではなく積極的に身近な人に協力を仰いでいきたい。また、探究活動ならびに授業の運営は、多くの方々のお力があってこそ成り立っているものだというのを改めて実感することができた。だから今後は今まで以上に感謝の気持ちを伝えていきたい。加えて、ご協力くださる方の中には、私たち生徒と直接的な関わりがない方もいると思う。つまりは、自分の見えない場所で活動を支えてくださっている方がいらっしゃるということだ。これからは自分の視野を広く持ち多くの人に感謝しながら生活していきたい。

(1) 探究テーマ [ファストファッションの問題解決]

(2) 探究内容

ファストファッションは、二酸化炭素の排出や水の大量使用、服の廃棄量の増加、労働者への負担など、環境や人に様々な悪影響を与える。その原因として、化学的な染料や繊維を使用していることや、多大な量の綿を新たに栽培すること、生産拠点を発展途上国に置いていることなどが挙げられる。私はそれらの問題に対する解決策として、アパレルプランナーの立場からアパレル企業に、次の項目をクリアした古着ブランドを提案する。まず、新しく生み出す服には再生繊維が使用されていること。次に、破損部分が小さい衣服には最小限のクリーニングや修繕をすること。そして、破損部分が大きい衣服には流行やニーズに合わせたリメイクを施すこと。具体的には、古くからの繊維機械が備わっている工場や、既にリサイクル活動を実施している企業と連携して進めていく。この活動は、近年の古着市場の拡大と、サステイナブルファッションへの注目を活用したものである。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

私の発表に、企業の方から「古着のメリットは分かったが、デメリットはなんだと思うか」という質問をいただいた。でも、その質問にうまく答えられず、古着についてのメリットにしか目を向けず、柔軟な考えができていなかったことに気づいた。これから自分で感じた問題に対して解決策を打ち立てる時、ある要素の一面だけをみるのではなく、メリットやデメリットを様々な視点から観察して、書き出してみようと思った。そうすることでその解決策がより有効的なものになると思う。また、発表後の住友生命の事業についてのお話から、人の心理的な特徴や環境を配慮した事業を行っていることを聞いて、より一層、様々な視点から物事を観察し提案することの重要性を感じた。そして、その提案を聞いた人が興味を持つようなユニークさがあると、魅力を感じやすいと思った。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回自分ひとりで課題をあげ、それに対してのアプローチを提案してみて、説得力があり、まだ誰も打ち出しておらず、且つ現実味のある解決策を考えるのはとても難しかった。また、データを用いて自分の仮説の有用性を高めるデータサイエンスの知識と技術がまだまだ自分には足りておらず、もっと習得できるようにしたいし、その際は自分の仮説の説得力を高めるために有益な情報を後から持ってくるのではなく、実際のデータを客観的に分析して、そこからより良い仮説を打ち出せるような柔軟性を鍛えたい。そして今回、インターネットで様々な企業や団体の取り組み例を調べたり、実際に企業に行き現場を実感し、お話を聞いたことによって、未来の社会に貢献するための進路選択をしようという気持ちが強くなった。そのためにも、日常に溢れる小さなことにでも問題意識を持ったら考え、興味を持つことがヒントになると思った。

(1) 探究テーマ [日本における自殺者と失業率の関係]

(2) 探究内容

日本では、自殺件数が多い傾向にあり、世界から見ても第3位と非常に高い順位となっています。私はその原因が無職者の多さと関係があり、失業率を減らすことで、自殺件数も減らすことに繋がると考えました。その理由として挙げられるのは、自殺件数に占める無職者の割合が多いこと、自殺に関わっている問題が失業によって引き起こされる可能性が高いことです。私は自殺を考える人の原因に多い、健康問題を失業率と関連させて解決することを考えました。この問題へのアプローチは、心のケア→就職を一気にできる会社をつくることです。仕事を紹介してくれる会社、サイトと連携をし、また、自分自身がカウンセラー側になることで、直接的にアプローチをします。この流れを一気に行えることで、利用者の負担を減らすことができ、就職につながりやすくなります。これは成り手不足が問題視されている伝統産業などともつなげることで、地域の活性化につながります。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

無職者が人口に占める割合は少ないため、自殺者を多く減らすためのアプローチにはならないのではないかと、これを踏まえて、もう少し踏み込んだ解決策を考えるともっとより良くなるというフィードバックをいただきました。このフィードバックから、私は、固定の層だけに効果があるアプローチだけではなく、その問題をもっと広く捉えて解決策を考えることが大事だと実感することができました。また、住友生命保険相互会社様の活動理念や、SDGsへの取り組み、社会貢献で行なっている活動などを詳しく説明していただき、これからの生き方や生活に活かしていきたいと思えることがたくさんでした。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回のMC探究を考え始めるにあたって、日本や世界にはどんな問題があるのか、またその問題を解決するために、どのような人がどのような活動をしているのか、たくさん調べました。その結果、日本や世界の問題に対する視野が広がり、その問題に対して自分の意見を持つことができるようになったと感じました。特に今回取り上げた自殺者の問題は、自分自身が思っていた進路と重なる部分があり、この問題を取り上げましたが、自分の将来についても深く考える良い機会になったと考えます。解決策を考えるということは、その問題について深く知り、考えることが必要で、その作業はすごく根気のいることだと学ぶことができました。この活動がこれだけで終わることがないように、日々の生活でも活かし、これからの進路を考える上でも活用していきたいです。

(1) 探究テーマ [部活動の地域移行]

(2) 探究内容

教員の勤務負担軽減のために現在日本各地で行われようとしている部活動の地域移行が、円滑に進んでいない背景と、その解決案を導き出す。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

御社の方々から具体性のあるフィードバックをいただき、私のプレゼンには、給料、子供からの目線など、多面的に見ることができていなかった点があったと感じました。このような問題を解決するためには技術と、そして多様な視点から物事を考えるということが大切であると感じました。

本当に、ありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

私は今まで、現代社会で起きているさまざまな問題に目を向けることをしてきませんでした。しかしこの研修を通して、起きている問題に目を向け、その現状を知り、解決案を考えることの大切さ、解決案を出すことの難しさを学びました。

(1) 探究テーマ [日本の少子化について]

(2) 探究内容

日本の少子化の現状や、少子化が進んでいる主な原因を調べ、原因の一つである「未婚化」を解消するため、教師として生徒が結婚することを前向きに考えることができるよう、結婚や妊娠に関する教育をするというアプローチを考えました。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

貴社でプレゼンをさせていただいた際に、社員の方からアプローチの仕方について、もう少し詳しく説明した方がわかりやすいとご指摘をいただき、自分の将来について、具体的に考えるきっかけになりました。社員の方からいただいたご指摘やアドバイスをもとに、今後の展望についてより現実的に問題を解決する方法を考え、問題解決に近づけるよう努力していきます。このたびは本当にありがとうございました。来年度以降も高田高校生の探究活動にお力添えいただきたいです。よろしくお願いいたします。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

日本の現状と今後について調べてみると、思った以上に状況が悪いことを知り危機感を覚えました。他人事だと思わず、自分事としてこの状況を受け止め、将来の日本のためにも、自分のためにも、解決について真面目に考えていく必要があると感じることができました。貴社で行われている活動のように、行動にしないと始まらないとわかったため、確実に行動に移せるよう努力していきます。本当にありがとうございました。

(1) 探究テーマ [日本の老老介護問題について]

(2) 探究内容

超高齢社会である日本では、高齢化に伴い老老介護も深刻化している。そこで私はアウトリーチとしてこの課題にアプローチしたい。取り組むことは老老介護である家に訪問し、介護の手伝いや食事の指導をし、趣味を充実できるようにすることである。それによって介護者も、要介護者も幸せに暮らせると考える。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

広い視野が必要だと思った。企業の方から「どのように老老介護の状況を把握するのか」という質問をいただいて、自分の視野がいかに狭かったか実感した。そのため、これから一つの視野にとらわれず、広い視野で考えていきたいと思う。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分で世界や日本の課題を見つけ、調べて、その解決策を考えるということはこれからの世の中に非常に必要になってくると思った。そのためこのような探究を通して考えることができてよかった。世界の課題や自分の考えをわかりやすく伝えることの難しさを学んだ。この経験を活かしていきたい。

(1) 探究テーマ [孤食と健康の関係]

(2) 探究内容

近年日本で増加している孤食を取り上げ、探究活動に取り組みました。孤食は心疾患や低栄養のきっかけとなるため、健康寿命の低下につながるということがわかりました。孤食に対する取り組みとして食堂の設置や栄養弁当の定期配達などが行われています。私はこの課題に対し行政栄養士としてのアプローチを考えました。現段階で考えているのは家庭訪問や講習会を通しての栄養指導や定期的な食事会の開催です。これらを通して共食のよさを伝え、課題の改善に取り組んでいきます。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

貴社でのプレゼン発表を通して、現在地方公共団体で行われている孤食に対する活動をあまり調べていないことを痛感し、これからは詳しく調べた上で自分の考えた活動に取り入れられる部分を活用していきたいと思いました。この度は誠にありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

日本の課題というテーマで色々調べてみたところ日本にはあまり知られていないが深刻な問題が沢山あることがわかりました。初めは自分にできることはあまりなさそうで他人事にも思えていましたが、今回のMC探究を通して目的意識を持ち、課題に対して十分な知識を得ることで自分にできることを多く見つけることができると思いました。そのため、これからは様々な課題に対し自分にできることを些細なことからも取り組んでいきたいと思えます。

(1) 探究テーマ [高齢化社会での医療従事者不足]

(2) 探究内容

離島や十分な医療が整っていない地域の人達は いざとなったとき治療や診察に時間がかかる。そこで、日頃からリモートなどで健康診断などを行うことで、まず病気になるリスクを減らし医療従事者の負担を少なくすることが大切だと思い、またドローンなどを使い処方することも有効な手段なのではないかと考えた。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

住友生命様は人の寿命をただ伸ばすだけでなく、健康寿命を伸ばす事が重要だと考えていて、人がまず病気にならないようにすることが大切だという点で、私の考え方とリンクしていた。また、自分が発表していた内容の一部はもう既に取り組んでいると言われたため、企業にとって有益なプレゼンにするためにはもう少しアイデアを練る必要があったと思った。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

最初は地域貢献から始まったMC探究を日々続けていくことで、だんだん自分のやりたいことが見えてきた。そのおかげで企業にとってよいプレゼンはどんなものか、自分はこれからどのように社会貢献をするのか考えることができるようになった。しかし、考えるにつれて正解のないこれからの考えることはとても難しいことだと思った。企業は新しい発想を求めていると思うので、日頃から世の中に目を向けて、なにかしらの発見、気づきが生まれる習慣を付けるといいのではないかと考えた。

(1) 探究テーマ [児童虐待増加問題]

(2) 探究内容

日本の児童相談所への児童虐待相談対応件数は年々増加しています。虐待は、保護者・子供・環境の3つの要因が複雑に絡み合うことで起こるリスクが高まると言われており、解決には要因となるものを1つずつ取り除いていくことが大切だといえます。そのため私は、この状況を改善するために助産師という職に就き、主に保護者の要因にアプローチしていきたいと考えています。助産師として、お産や育児に関する豊富な知識を生かし、妊婦さんやその家族の相談にのったり、正しい情報を提供することで、不安な気持ちを軽減することができるのではないかと思います。その結果、子供に対しても気持ちに余裕が生まれ、虐待といわれる行為をしてしまう確率が減っていくと考えています。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3)からの学び

発表に対し、いくつかアドバイスをして頂きました。企業の方とお話しするなかで、この問題を解決に関わることができる数多くある職業の中でなぜ助産師を選んだのか、についても触れるとよりこの課題と職業に繋がりが出ること学びました。また、相手の方に伝わりやすいプレゼンテーションの仕方についても教えていただき、話すスピードや身振り手振りを取り入れた発表方法を身につけることができました。企業の方から学んだことを今後も活かしていきたいと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

日本が抱えている課題に向き合い、現状や原因を調べていく中で、自分が動いたところで何も変わらないという気持ちから、少しでも自分が動けば状況が改善していくかもしれないという気持ちに変わりました。児童虐待が増加している今、それぞれの役職ができる支援などの対策をしていくことが大切であることを学び、この探究活動を通して自分自身、助産師を目指す明確な目的を持つことができました。この探究活動の成果を生かし、今後も強い意志を持って夢にむかって進んでいきたいと思っています。

(1) 探究テーマ [介護問題について]

(2) 探究内容

私は、介護問題の中でも特に老老介護、認認介護の危険性と改善策を研究した。老老介護とは、65歳以上の高齢者が65歳以上の高齢者を介護すること、認認介護とは、介護する人と介護される人の双方が認知症を発症しているケースのことを指す。調査結果により、現在介護する人の約半数が70歳以上であり、さらに80歳以上の方が介護しているケースも多いことが分かった。老老介護や認認介護の原因には、医療の進歩と核家族化があげられる。医療の進歩により、平均寿命と健康寿命の差が拡大したことから介護が必要な人が増加した。また、核家族化が進むことにより子供に助けを求めづらく、高齢夫婦間での介護を余儀なくされると考えられる。問題点としては、負担が大きいことや身の回りの管理がうまくできないことがあげられる。その改善点として、国や地域のサービス(デイサービス、訪問介護)を利用することがあげられる。私は将来訪問看護師という職に就いて介護問題にアプローチしていきたい。近年は在宅医療を選ぶ人が増加していることから、利用者は右肩上がりだと言える。自宅に通いケアをすることにより、介護する側の負担軽減や介護される側の安心に繋がり、家庭で安心して過ごすことができると考える。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

住友生命Vitalityについてのお話を聞き、問題についての解決策だけを考えるのではなく、予防策も考えることの大切さを学んだ。予防策を考えることで、問題の根本を知り、それに対応することにより、問題が起こることが減少するという良い循環が生まれると感じた。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

MC探究を通して改めて友達に相談して、新しい意見を大切にし、探究することが重要だということ学んだ。また、住友生命株式会社さんに訪問した際に教えていただいた、視野を広く持つことや聞き手を意識して話すポイントをこれからの生活で活かせるように努力したいと思う。

(1) 探究テーマ [日本の家庭におけるフードロス問題]

(2) 探究内容

3Dプリンターと分離工学の融合により、残飯からタンパク質やグルコースなどの利用可能な物質だけを抽出し、それを3Dプリンターによって新たな料理を調理できるような技術を開発し、フードロスの大幅な削減を目指す。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

企業研修では大きく分けて二つのことを学びました。一つ目は、物事を多面的に捉えるということです。実際のディベートでは私の解決策によって多くの人が職を失う可能性について指摘され、自分にとっての「よかれ」が、実際は社会にとっての利益につながらないことがあるという事実を突きつけられました。実際、自身の「よかれ」の穴を自身で見つけることは困難であるので、定期的に相互評価を挟むようにしたいと思います。二つ目は、相手に力を発揮させるということです。プレゼンの際、私はもちろん極度に緊張していましたが、企業の方も緊張していますとおっしゃいました。

また、自己紹介の際には冗談を言ったりして私の緊張をほぐしていただきました。おかげで私は力を発揮することができました。私は、相手が誰であろうと力を最大限発揮し、発揮させ、双方にとって有意義な仕事にしようとする姿勢に感銘を受け、深い学びとなりました。これからは私も、相手が年下であろうと、もちろん年上であろうと、敬意をもって接し、相手の良いところを学び取っていけるような人間になりたいと思いました。本当に、ありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

受験に向けた学習と並行して探究活動を行うことは、個人での活動であったこともあり、大変でした。しかし、解決したい問題を取り上げ、それについて調べて知識を増やしていったり、プレゼンで意見を交換したりすることで解決策がより研ぎ澄まされていく感覚があり、楽しかったです。また学年全員、あるいは世界全体で一人ひとりが問題と向き合い、解決に向けて少しでも行動を起こすようになれば、世界は大きく変わると思ったし、みんなの幸せにつながる素晴らしいことだと思いました。

(1) 探究テーマ [看護師不足]

(2) 探究内容

看護師不足の主な原因として高齢化が進むことによる看護需要の拡大、離職率の高さ、潜在看護師が多いことなどが考えられます。この状況を改善するためのアプローチとして、まずは私が看護師の資格を取り病院等で働くこと、また、ライフスタイルの変化による退職が多いという課題に対しては育児休暇を取得しやすいような制度や環境作りを積極的に行うこと、そして潜在看護師が多いという状況に対して、積極的な情報発信等の復職支援活動を行うことで、復職を視野に入れやすい状況をつくっていくことができると考えます。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3) からの学び

住友生命Vitalityという取り組みを教えていただき、そこから、ただ潜在看護師への復職支援などを行うだけではなく、1人1人が健康に気を使い、リスクを減らすということでも、看護需要の拡大による看護師不足の課題の改善に繋がっていくのではないかと、という新たな視点を得ることができました。そのため、潜在看護師に対する復職支援などの取り組みだけではなく、身近な存在の看護師として、地域住民の健康増進や病気予防のサポートなど、地域の健康づくりに貢献する取り組みも行っていきたいと考えました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

日本や世界には多くの課題があるため、1人1人が小さな社会課題に気づき、向き合うことが大きな社会課題解決に向けた第1歩であると感じました。個人でできることは少ないかもしれませんが、1人1人の行動や選択によって、その積み重ねや集団化が状況を変え、持続可能な社会の実現につながると考えました。私たちが住む世界がより良い方向へ進めるよう、できることに積極的に取り組んでいきたいと思いました。

(1) 探究テーマ [介護離職問題]

(2) 探究内容

介護離職問題とは、家族の介護のために勤めている会社を辞めたり、店を畳んだりする人が増えることをいう。原因としては超高齢社会と核家族化が考えられる。私は超高齢社会について考える。現在、高齢者の人数が年々増加している。よって、介護を受ける人が増え、離職しなければならない人も増えると考えられる。改善策として介護休業制度を利用することで離職率減少につながると考える。介護休業制度とは、怪我や病気、身体もしくは精神上的の障害などにより2週間以上休みを取得できる制度のことを指す。対象家族1人につき3回、通算93日まで休みを取得できる。現在は介護休業制度についてあまり知られておらず、制度があっても利用している人が少ない。そこで、会社側が雇用する際に制度について説明することを義務化して、誰でも利用できるように環境を作ることが大切だと考える。もし介護休業制度の休みを使い切ってしまったら、介護のための労働時間の短縮措置勤務や1日単位で利用できる介護休暇制度などを利用しながら、仕事と介護の両立を目指していくことが良いと考える。私は介護士として、介護のサポートをしつつ高齢者の方の社会参加を支援し、家族の方とのコミュニケーションの円滑化の手助けをすることでアプローチしていきたいと考えている。高齢者の方の社会参加を支援することで、健康に生きて介護を受ける回数を減らしていけるようにする。

(3) 訪問先 [住友生命保険相互会社]

(4) (3)からの学び

フィードバックとして、制度は今もあるが普及率が低いことが問題であるため、どう普及させていくのが良いのか、考えると良いという意見をいただいた。そこまで広い視点を持って考えることができていなかったのも、今後の探究活動で解決策を考えていきたいと思った。また、健康推進型保険“住友生命「Vitality」”でリスクに備え、リスクを減らすという新しい発想の保険があることを知った。このプログラムによって運動や健康診断などの取り組みを、ポイントを貯めながら行うことができ、自分の健康状態を把握することができる。介護を受けるようになってから気をつけるようになるのではなく、若いうちから健康に配慮しながら生活すると、これからの社会において健康寿命を伸ばすことができると考える。また、介護士が高齢者の方のデータを利用することで仕事のしやすさにつながり、健康状態の改善が見込まれるかもしれない。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

高校生の私たちでも、社会貢献のために行動できることが多くあることがわかった。探究活動をしていくにつれて地域貢献から社会貢献、社会貢献から国際貢献へと繋げていくことで徐々にできることが増えていった。これから将来仕事をするときにこの探究で学んだ貢献活動について考えながら行動したい。また、大人になったらできる貢献活動が増えると考えられるので、そのときにできる貢献活動を少しずつ進めていきたい。

(1) 探究テーマ [オーバーツーリズムについて]

(2) 探究内容

日本におけるオーバーツーリズムについて探究活動を行いました。オーバーツーリズムとは観光客の増加に伴って観光地が混雑し、渋滞やゴミのポイ捨てなどの問題が発生して地域住民の生活や自然環境に悪い影響を与えることを言います。その原因を説明し、その深刻さを伝えるために、例として京都府と鎌倉市を取り上げました。そして、この問題を解決するには、観光客を日本中に分散させることが必要だと考えました。そこで、ツアープランナーになって人気観光地以外の場所をメインにしたツアーを企画するというアプローチを紹介しました。そのツアーは観光庁の調査を参考に、日本食、自然、買い物を楽しめる、さらに、移動がしやすい場所を選びたいと考えている事を説明しました。また、このツアーに興味を持ってもらうために、ウェブサイトを作ってそこに紹介動画を載せたり、SNSを通じて情報発信をしたいと考えていることを説明しました。

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3) からの学び

企業からは「最近是中国からの旅行客によるインバウンドに注目されている。そうするとこの問題はより深刻になりそうだ。」というご意見をいただきました。今回は将来のキャリアを通じて探究活動を行いました。現在の自分に少しでも力になることができなかと考えさせられる機会になりました。また、発表に対するフィードバックだけでなく、社内見学までさせていただき、会社の雰囲気や実際の社会人の皆様が働く姿を見ることができて、とても良い経験になりました。さらに、NEC Future Creation Hub での顔認証の体験やクイズを交えたNECの紹介もユーモア溢れる楽しい時間でした。

今回の東京研修で、探究活動に関係することだけでなく、人間としての面でも多くの学びがありました。働いている社員の方々の姿を見て、将来への希望を持ち、より一層学習に励まなくてはと思う一つのきっかけになりましたし、私たちのために貴重な時間を割いていただいた皆さんのように、誰かに笑顔を届けることができ、自分の仕事に誇りを持ちながら働けるような人間になっていきたいと思いました。そして、最後にお話いただいた、「これから自分と異なる個性を持った人にたくさん会おうと思うが、誰かに自分を否定されても自分を大切にしてほしい」というお話を聞いて、自分の軸をしっかり持って生きていく大切さを学びました。この度は、国、世界に貢献されている日本電気株式会社様に企業訪問させていただき、一生忘れられない大切な経験になりました。ありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

MC探究Ⅱのテーマが日本または世界の課題についてという規模が非常に大きなテーマだったので、それを決めるまでに時間がかかりました。私は以前から、旅行業界に興味があり、ニュースで目にしたことのあったオーバーツーリズムについて探究活動を行うことにしました。実際に私が観光地に行った時に感じたことがオーバーツーリズムに当てはまるものもあり、多くの人がこの問題で困っているのではないかと思ったことから探究活動を始めました。また、今回の探究活動が、自身のキャリアを通じて課題を解決していくというものだったので、どのようにアプローチすれば有効的な解決策になるのか、どんな職業に就けば効果的なアプローチができるのか、何度も試行錯誤を行いました。そして、今回私は英語での発表を選択したため、英語の学習にも力を入れました。十分に伝わる発音になるように、何度も何度も練習を重ねていくうちに、上達していくのを感じ、改めて練習の大切さを感じました。私は人前で話すとき、緊張して声が震えたり、何を言いたいのか忘れてきたり、苦手意識を持っていますが、今回の英語での発表を通して、英語力はもちろん、英語で話すことに自信も持てるようになりました。このような成長ができたのも、企業訪問を受け入れていただいた企業の皆さまのおかげだと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。東京研修で得たたくさんの学びは、これからの将来に役立てていきたいと思っています。

(1) 探究テーマ [日本の子どもの貧困]

(2) 探究内容

日本では相対的貧困が課題となっている。(貧困家庭：世帯収入が全体の中央値の半分以下の家庭)特に子どもの貧困率は約7人に1人と深刻だ。そこで子どもの貧困がおこる原因や現状を調べ、解決策を提案した。根本的な原因は親の収入が少ないことであり、それにより教育格差、子どもの低学力・低学歴、不安定な就職が引き起こされている。貧困家庭では食べ物や衣服が買えなかったり、公共料金の支払いが行えなかったり、虐待の発生率が全体の40%を占めたりしているなどの問題がある。また今の状況を改善しなかった場合、約4兆円の社会的損失があると試算されている。解決のため政府などの公的機関ができることとして、低所得者への給付金の配布や親への就学支援、子ども食堂の開設などが挙げられる。また、自分自身としては養護教諭となり、積極的に保健室の外に出て日常的にコミュニケーションをよく取ることで、貧困状態にある子どもにいち早く気づき対策をとったり、キャリア形成後や退職後にほかの養護教諭と事例についてその時の状況や対応を共有する場を設けたりすることを提案した。

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3)からの学び

「最近ではなんでもデジタルが解決の一番最初の糸口になっている。そしてデジタルがリアルをより良くしている。」このことを今現在、社会に出て働いている方々が実感しているのだということを知った。この傾向を踏まえ、デジタル社会と呼ばれる今、ITリテラシーや情報モラルを身につけることがこれからの世代では一層大切だと改めて感じた。また企業ではコミュニケーションを大切にされていることを学んだ。会議をするための快適なスペースを作ったり、反対に働く場を制限せずに会議などを基本的にリモートで行なっていたり、充実した設備を食堂にそろえていたり、階ごとに違った机のレイアウトにしていたりと社員の働きやすい環境を整えていることを知った。環境を整えることはどんなことにおいても大切なことだと学んだ。自身の探究については、「そもそもこの問題について知らない人が多いのではないか」との助言をいただいた。「知ってもらおう」ことの大切さを感じた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

探究を通して調べる中で、先進国と呼ばれる日本でも貧困の問題があり、特に深刻な問題である子供の貧困は教育において制限をかけてしまうことがあり(塾に通えなかったり高校・大学進学を諦めたり)、そのためなかなか貧困から抜け出せなくなってしまうことが最大の問題だと感じた。また自身が相対的貧困の状態にあると気づいておらず、支援制度や相談機関があるにもかかわらず支援を受けていない人が多いことも知った。貧困状態の知り合いがいた時に私たちが直接できることは少ないが、相談機関や支援制度を紹介することは、身近な人にしかできないことだと思った。他の人の探究内容を見ていると、日本や世界には本当にたくさん問題、課題があることが分かった。それらは複雑に絡み合っているため解決は容易ではないが、今回のMC探究のように一人一人が問題に目を向け、それについて知り、自身ができることを模索することが大切だと思った。また、その問題を解決しようとしなくても、まず「知る」ということが解決への第一歩であると思う。

(1) 探究テーマ [Over Tourism]

(2) 探究内容

オーバーツーリズム問題についての考察
問題解決策の模索
自身の将来のキャリアに絡めた解決策の提案

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3) からの学び

自分のプレゼンテーションに対するフィードバックをいただきました。自分では今まで思い付かなかった案や、新たな視点からの考え方を教えていただきとても参考になりました。

NECで行っている様々な活動も紹介していただいて、世界の人々の生活をより豊かにしてくれる最先端の技術にとっても驚かされました。またNEC会社のみなさんが働いている姿も見せていただきました。とても働きやすく、グローバルで自由そうな社風に心惹かれました。自分もこのような会社で働きたい、また世界に貢献できる人材になりたいと強く思いました。

私たちのプレゼン研修にご協力してくださった方々、この度は本当にありがとうございました。NECで行っている様々な活動をとってもユニークに教えていただいたり、私たちの緊張をほぐすために優しく接していただけたおかげで、とても楽しく、有意義な時間となりました。これからも高田高校生の成長のためにご協力いただけると幸いです。貴重なお時間をいただきありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

まず1年生で地域貢献活動について探究活動し、その派生としてこの2年生のMC活動行いました。今回は自身のキャリアを通じて日本または世界の問題解決を模索していくというものでした。僕は世界の問題について考え、英語で発表しました。実際にその仕事に就くわけでもないし、自分たちがたった半年程度考えただけの解決策で複雑に絡み合う世界中の問題を解消できるとは到底思いませんでしたが、なにか少しでも1つの問題について深く考察し解決策を模索できたことには意味があったと思います。

問題についてグラフやデータなどの論拠を示し相手を納得させることのできるプレゼンを目指したことは、将来の仕事にも役立つものがありました。また僕は英語での発表をしたので、純粋に英語力向上にもいい経験になりました。上記で自分たちが少し考えただけでは世界の問題解決には直結しないと言いましたが、これらの問題に対して1人1人が向き合い、多くの人が問題意識を高めていくことはとても重要だと思うのでこれからもニュースなどに興味を持ち、世界に目を向けていくことを続けていきたいと考えました。

(1) 探究テーマ [地域看護の需要と看護師の人材不足]

(2) 探究内容

入院中心から在宅中心の医療への転換が進む中で、病院外の地域で働く看護師が少なく、在宅中心の医療への転換に十分に対応することができないという現状を踏まえた地域看護の需要と看護師の人材不足について探究し、看護師という職に見合った収入の調整やライフスタイルの変化に対応するための休暇を取得しやすくするべきだと思案した。

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3) からの学び

自分の好きなことや興味をもったことについて探究をしたり、仕事にしたりするということは意欲向上に繋がりやすく、自分自身にとって追い風となり、糧になる。

また、一方的な視点に囚われずに多角的な視点をもって物事を考えると行き詰まりを打開することができたり、創造的な問題解決ができたりするため、新たな可能性を見出すことができる。併せて、見解に相違がある人と共同して同じものを創り上げると、互いの良さが相交わってより良いものとなる。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2 学期全体を通じて)

高校生になって初めて耳にした、地域看護というものについて今回の探究を通して日本の現状や優位性に加え、難点についても十分に知見を広げ、有用な解決策について思索することができた。看護師の離職率がかなり高く、諸外国と比べても圧倒的に看護師数が少ない日本では、少子高齢化社会や生活習慣病の増加などの課題を踏まえても、病院中心の生活ではなく在宅中心の地域看護が今後にとってかなり有用であり、重要だと学んだ。看護師の離職率が高い要因として、看護師 1 に対する業務負担が大きい、勤務形態が不規則、ライフスタイルの変化などが挙げられたため、そのような看護師という職に見合った策をたてる必要があると考えた。

引き続き、看護師と地域看護について多角的に捉え、どういった策が今後の日本の社会にとって有用なのか、さらに考察を深めていきたい。

(1) 探究テーマ [日本の高齢社会]

(2) 探究内容

日本には超高齢社会という課題があります。この問題は将来的には2人の生産年齢人口で、1人の高齢者を支える計算になります。この問題を解決するためには、多くの人に今の日本の現状がどれだけ大きな問題か知ってもらう必要があります。そこで私がイベントプランナーになり、この現状を詳しく知れるような、イベントを開催したいと思っています。そうすることで、より多くの人に問題を知ってもらえるきっかけになると思います。また、介護問題などを知るために福祉が発達している北欧に留学したいです。留学する場合もしない場合も、現場を自分の目で見て改善点や優れている点について確認した上でイベントを企画したいです。イベントの内容には介護体験や高齢者疑似体験など若い人でも高齢者について学びやすいものを取り入れたいと思っています。

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3) からの学び

訪問先の方から同じカテゴリーの問題を扱っている人と協力して問題解決に取り組むとより良いと聞いて、何事も問題解決に向かうには誰かと協力することが大切だと学びました。また、「現場を見る」という考えも良いと聞いて、何かを始めるときは必ず自分の目で現場を見てから行動をしたいと思っています。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分の仕事と社会問題を関連づけて考えることで自分が社会に貢献するためにやるべきこと、また自分が社会に貢献するためにできることが明確に見えてきました。この先社会はどのように変容していくかわからないので、今回行なったように自分の仕事と今起きている問題を結びつけて未来の地球のために私ができることについて考えたいです。さらに、今まで自分の仕事の将来や仕事に就くことでできることを深く考えたことがなかったので、今回のMC探究は私にとっていい機会になりました。次のMC探究も自分にとっていいものとなるように取り組みたいです。

(1) 探究テーマ [人手不足]

(2) 探究内容

少子高齢化や専門的な知識やスキルを要する人材の不足から生じる人手不足の問題を間接的に解決する方法を考えた。今起きている課題の深刻さとして自分が住んでいる地域を実例としてあげた。さらに人手不足に陥っている業界の共通点を見つけ、様々なアプローチの仕方を考えた。そこからアプローチとして、研修を増やすことで人材を有効活用して、人手不足を間接的に解決できるという方法を考え出した。研修は人材育成にとってとても大切な過程の一つである。さらに良い研修と悪い研修がある。悪い研修をしても意味がない。したがって、良い研修だけを増やせるようなサポートや提供をしていきたい。これから、働く人にとって何が本当に良い研修で、何が悪い研修かを深めていって、良い研修を提供できるような場を作っていきたい。そのためにもまず、世の中の事態や問題を知り、自分がどうアプローチをできるか、常日頃から考えていきたい。

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3) からの学び

様々な場面で、テクノロジーを有効活用していた。これからの社会についても考えていた。このように、自分の能力を有効活用して、これからの自分の将来について考えられるような大人になっていきたい。すごい技術やシステムを見てみて、このようなものが世界をより良くすると思い、とても刺激を受けた。とてもいい経験になった。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

地域や社会貢献を通して様々な問題に対して、多角的に捉えることができた。さらに様々な人と関わることができた。自分の能力を有効活用して、これからの自分の将来について考えられるような大人になっていきたい。手順を追ってスライドを作ることで、自分の考えを深められるので、アウトプットが大切であると実感した。アウトプットするための知識を蓄えるインプットも同じくらい大切である。さらにニュースなどを見る際も、自分には関係ないと思って見るのではなく、自分も社会の一員だと自覚を持って、自分はその問題に対して、どのようなアプローチができるか、どうすれば解決、改善できるかを考えていきたい。企業を訪問して、企業の方々は、自分ができることや、社会問題に対してどうアプローチしていくかを考えていてとても参考になった。さらに目標もしっかりしていた。このため私も、目標をしっかり持ち先を見通した考えを持っていきたいと思った。

(1) 探究テーマ [難病に苦しむ子どもたち]

(2) 探究内容

様々な難病と闘う子どもたちへの血圧、体温、脈拍、呼吸状態の観察などの日常的なケアや持続的なモニタリングを通して、表皮水疱症などそれぞれの難病についての知識や理解を深め、子ども一人ひとりに合ったケアを考案する。例えば、表皮水疱症などの皮膚の難病は皮膚に優しく食べても痛くない食べ物の提供をケアとして考案する。

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3) からの学び

NECの様々な歴史、方針などについて新しく学ぶことができました。特に印象に残ったのが、AIなどを用いたがん免疫療法です。これは自身の探究テーマと関連しているためもっと活動の内容を深く知りたいと感じました。また、プレゼンスキルやコミュニケーション力の大切さについても学ぶことができました。

NECの方々のプレゼンやお話はどれも聞き手の興味を引き、深い感銘を与えてくださいました。なので、今後は、プレゼンスキルとコミュニケーション力を大切にしながら、社会の課題解決に向けて自らのキャリアを生かしていきたいです。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私が以前から常に考えていた、どうしたら難病で苦しむ子どもたちを1人でも多く救えるのかという課題について、日本の現状を踏まえた上で解決策を考えることができました。将来看護師になってたくさんの人と関わるなかで、探究内容のような活動の幅を、コミュニケーションを大切にしながら広げ、日本が一丸となって課題を解決できるような社会を目指していきたいと感じました。

(1) 探究テーマ [宇宙ゴミの課題と宇宙開発の資金問題について]

(2) 探究内容

自分が興味を持った宇宙ゴミと宇宙開発の問題に着目し、考えられる解決策についてそれぞれ分析しました。宇宙開発にかかる莫大な資金と、増加した宇宙ゴミの危険性に対して、宇宙ゴミに関わるゲームの制作というアプローチをしました。実際の事例である社会問題の解決を目的としたシリアスゲームを参考にし、ゲームを制作することで、この問題に対する注目を高め、社会問題の中での重要度を上げることで問題の解決に繋げることができると考えました。

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3) からの学び

いただいたコメントから、自分の興味のあることや、好きなことに関する仕事に就くことは努力を続けることで実現可能になることを学ぶことができました。

また、今回のように、その仕事を通じて他人に貢献ができるということを知ることができ、今後の進路選択の上でとても勉強になりました。見学では、実際の職場の様子などを見学させていただき、今まで知る機会がなかった仕事についての様子や雰囲気を初めて知ることができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

1、2学期を通じて社会問題に対しての改善策を考え、社会問題の解決とその中で自分ができることの難しさを学ぶことができました。特に、難しい問題に対して自分が持っている知識の範囲でのアプローチを考える必要があったため、矛盾点やアプローチの方向性の誤りがないような自分の考えの提示を心掛けることができました。加えて、問題の十分な根拠を示すには自分の持っている考えではなく、客観的な実際のデータを示すことが問題や主張の提示において非常に重要であることもプレゼンを制作する中で知ることができました。当日の企業訪問では、普段あまり知ることができない仕事についての生活の様子を実際に目で見て学ぶことができたり、企業の方々の前でプレゼンをさせていただいたりする貴重な経験をすることができ、今後の生活に活かしていきたいと思いました。

(1) 探究テーマ [現代の不登校問題について]

(2) 探究内容

中学校、高校で不登校になってしまった人に対して、家族がどのように接していくべきなのかを2つの方法を使って調べました。最初に基本的な知識を得るためにインターネットを使って情報を集めました。注意すべき点がいくつかあり、基本的に子どもに無理をさせたり負担をかけさせる言動を避けることが大切だという情報が多くありました。次に、厚生労働省のホームページで紹介している不登校生徒の支援、相談ができる場所を探し、上越市にある「すこやかなくらし包括支援センター」に自身で調べたことを踏まえ、質問をしてきました。質問内容として、不登校生徒が学校にいけない理由を3つの状況に分けて、それぞれの場合に家族がどのように接するべきか、また家族がとってはいけない接し方を質問しました。その内容を整理してまとめ、Youtubeや新聞を使って情報を広める方法を挙げました。

(3) 訪問先 [日本電気株式会社]

(4) (3) からの学び

日本電気の企業紹介担当の人のプレゼンを実際に聞き、聴衆への語りかけや、飽きさせないように、虹彩、音声を使った認証やクイズを入れてきたり、移動しながらプレゼンをするなどの工夫が多くあり、参考になりました。また、探究については、情報を調べる方法は良かったが、情報が詳しく出ているので対応策の内容が不十分だという指摘を受けました。今後このような探究があったら、情報集めの方法は継続し、対策を考える時間をもっと増やして効果的な具体案を考えられるようにしていきたいです。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今年の探究は今までの探究とテーマが変わり、自分自身で内容を選んで探究していくので、興味のあるテーマについて探究できて良かったです。一つのテーマについて深く探究するのは初めてで、うまくいかなかったことはいくつかあったけど、企業へのプレゼンまで終えることができて良かったです。今回は情報集めの作業はうまくいったけど、対策の提案はうまく行かなかったので、次回同じようなことをする機会があったら対策までこなせるようにしていきたいです。

(1) 探究テーマ [LGBTQ+差別問題に化粧品業界からアプローチできること]

(2) 探究内容

私はLGBTQ+の当事者が社会で受ける偏見による差別、不当な扱いについて過去の経験から興味を持ち、それについて調べ、それらの改善に向けて自分の将来のキャリアを通して何ができるかを考えました。調べてみるとLGBTQ+の当事者が受ける偏見による差別、不当な扱いは様々な場面、観点で生じていることがわかりました。具体的には学校、職場、就職試験、医療の場、容姿などです。まず、これらの差別の原因はLGBTQ+への認識が足りていない、ヒト科分類学における潜在的意識により偏見的な目を持ってしまっているということがあります。そして、改善に向けて全体的に言える必要なこととして、LGBTQ+について認識してもらい正しい知識をつけてもらうことがあげられると考えました。さらに私はこの中の容姿における差別に対して将来のキャリアを通じてアプローチできることを考えていきました。私の目指している将来の職業は外資系化粧品会社のマーケティング職です。私が、この職に就いて課題解決に向けて行おうと考えているアプローチは、レインボーコスメというLGBTQ+についての認識を広めるために作られたコスメを広告、さらには商品展開していくことです。このアプローチが有効性のあるものだと考える理由は、まず化粧品は多くの、そして様々な年代の人々が利用するため、認識を広めるという点において効果的だという点です。さらに、このアプローチは当事者の化粧への抵抗感削減にも効果的だといえます。最後に、これらの取り組みはSDGsの「5. ジェンダー平等を実現しよう」にも繋がっていると考えます。

(3) 訪問先 [シティニューワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

シティニューワ法律事務所様に訪問し発表を踏まえて頂いたアドバイスは「自分の考えていることを専門的な学問に当てはめていった際に、何に当てはまるのかを調べてみると良い」というものでした。その際、ヒト科分類学的な視点や考えが私のプレゼンには多く含まれていると教えていただきました。そのため訪問後、ヒト科分類学について調べました。そして、プレゼンにヒト科分類学と自分のプレゼン内容との関係性についての記載を増やしたことによって、より論理的な発表を行うことが出来ました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

1、2学期全体のMC探究を通して私は、次世代を担っていく人材として、今ある世界の課題について知っているだけではいけないと学びました。具体的には、自分事として課題解決のためにはどのようなアプローチが必要か、また自分にはどのようなことが出来るのかを考えることが大切だということです。さらに、取り組みたいことの実現性をあげるために専門的な視点から自分の考えを見つめ直すことの重要さも学びました。これらの事を学ぶことが出来たために将来の目標をより明確化することが出来ました。

(1) 探究テーマ [日本の不正・不適切会計]

(2) 探究内容

不正な会計が生じる原因として会計監査に携わる人材不足という点に注目し、公認会計士の職に就くことで改善につなげることができると考えました。監査、会計の専門家であるこの職業は課題に対して直接的にアプローチでき、また活動の領域の幅も広がっているので、キャリアイベントやセミナーなどの開催による広報活動を行うことは原因に対して有効な方法であると思いました。

(3) 訪問先 [シティニューワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

課題へのアプローチについて職業の紹介をただけになっていたため、具体的な方法を考えた方が良いというアドバイスを頂きました。公認会計士になること自体が状況改善に効果的であると考えていましたが決してそうではなく、明確なプランをもって取り組む必要があると分かりました。また、グローバル化が進む世の中で、全ての職業において視野を世界に広げて思考する姿勢が大切であることを知りました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

探究活動を通して、自身の将来についてよく考えることができました。その際、自分のやりたいことや自分の適性から職業を選ぶだけでなく、社会の一員としてどう貢献するかという点も考える必要があると知りました。また、企業訪問を通して、広い視野を持って考えることの大切さを知りました。最初は、私が選択した職業は日本の経済のために活動するのであって、世界という視点で見ると活躍の場はあまりないと考えていたけれど、アドバイスを頂いて再度調べてみたところ、企業の海外進出に伴ってグローバルなフィールドで業務を行う可能性があることが分かりました。自分には関係ないと思わずに、多角的な視点で物事を捉えていく必要があると感じさせられました。

(1) 探究テーマ [不適切なインターネット広告の問題点 ステルスマーケティングについて]

(2) 探究内容

私は、不適切なインターネット広告の問題を取り上げました。その中でも、2023年10月から法規制が実施されるステルスマーケティング(以下、ステマと記載)について探究しました。毎日インターネットに触れる中で、無意識のうちにたくさんの広告を目にしていることに気付き、調べていく中で最近規制の対象となったステマの存在を知ってこのテーマを取り上げました。ステマは、広告であることを隠して宣伝を行う行為で、SNSが普及した近年問題視されています。ステマにはなりすまし型、利益提供秘匿型の2つのタイプがあります。その中でも、特に高校生に身近なSNSや動画投稿サイトを中心に行われる利益提供秘匿型について、私がSNSを見ていてステマではないかと思った投稿を例に挙げて発表しました。ステマが絶えない理由には、「おすすめされた商品が広告、PRであると分かった場合、購入を控える」という消費者の心理がありますが、この問題は早急に解決されなければいけません。しかし、現行の法律の、広告主のみが規制の対象となるという点には課題があると感じました。広告主だけでなく、ステマを行い消費者の目に触れるインフルエンサー等も規制の対象とすべきだと考え、海外の状況とも比較して発表を行いました。

(3) 訪問先 [シティニューワ法律事務所]

(4) (3)からの学び

発表に関して、シティニューワ法律事務所の方からは、「ホットなテーマを取り上げていた」「ステマの例を挙げ、身近な問題と感じられた」「法律についてよく調べられている」「インフルエンサーはなぜ規制されるべきか、もっと深掘りした方がよい」などご意見をいただきました。ステマについてよく調べ、ステマの問題点をどうしたら伝わりやすく説明できるか工夫したので、お褒めの言葉をいただけて嬉しく思いました。しかし、説明の言葉が長く、自分の主張がかなり弱くなってしまったので、頂いたフィードバックを参考に、今後の探究学習では改善していきたいです。発表前には、企業見学をさせていただきました。弁護士の方々がどんな仕事を、どんな環境で行っているのか知ることができ、弁護士という職業に興味が湧きました。発表へのアドバイスと見学、とても貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

まず、探究のテーマ設定には非常に悩みました。迷った結果、私がインターネットや広告に少し興味をもっていたのに加えて、私たち高校生に身近な課題であるステマをテーマに選びましたが、どうしたら解決できるのか考えるのがとても難しかったです。探究の評価のポイントの1つである「課題に対して、自身がキャリアを通じてどのようにアプローチするか」に関しては、このテーマと職業をうまく結びつけることができず、この項目は満たせませんでした。探究を通して調べていく中で、ステマへの理解が深まったことは良かったのですが、どのようにアプローチするか結論から最初に考えてテーマを設定すれば良かったのではないかと、少し後悔しています。発表の技術に関しては、やはり練習を積み重ねることが重要だと改めて感じました。企業での発表の直前まで練習したことで、発表への不安を少しでも少なくすることができたと思います。また、スライドは本当に必要な情報だけに絞ることを心がけました。他の人のスライドを見て、どのくらいの文字の大きさが見やすいか、どうしたら伝えたい部分を強調できるのか学ぶことができました。まだまだ改善すべき部分は多いですが、自分なりに精一杯の発表を行うことができました。この東京研修での経験を、今後様々な場面で活かしていければと思います。

(1) 探究テーマ [日本における児童虐待問題]

(2) 探究内容

ニュースや新聞で多くの児童虐待の記事を見て自分に何かできないだろうかと思い、このようなテーマを設定しました。児童虐待には親・こども・環境の3つの要因があり、これらが複雑に絡まって生じます。近年、児童相談所への児童虐待相談対応数は増加し続けており、日本の深刻な社会問題の一つです。児童虐待がなくなる理由として、核家族化が進んでいることが考えられます。核家族であると、大人数で暮らしていた昔と比べて、子育てへの親の負担が増加したり家庭が地域から孤立する危険性が高くなったりするからです。そのため、この問題を改善していくには周囲の力が非常に重要であると考えました。虐待をしている当事者は、自分が虐待をしていることに気づかなかつたりそれが悪いことだと思っていなかつたりします。よって、虐待をしている当事者と被害者の二者だけでは解決することが困難なため、周囲が介入する必要があります。

そこで、私は将来警察官として児童虐待の早期発見や対応・防止に努めることで、児童虐待問題の改善に取り組むことができるのではないかと仮説を立てました。このような仮説にした理由は三つあります。一つ目は、警察は児童相談所の援助を行うことができるからです。児童虐待防止法でこのように定められており、児童相談所と共に速やかに対応することができます。二つ目は、警察には捜査権があるからです。児童虐待が大きな事件に発展してしまった場合に、捜査を行って真実を究明することができます。三つ目は、警察官は普段から地域住民と関わる機会が多いからです。そのため、地域住民の小さな変化に気づきやすく、児童虐待の早期発見や防止に努めることができますと思います。また、実際の児童虐待相談経路の内訳では警察等が約半数を占めています。よって、私は警察官が児童虐待問題の改善に有効だと考えます。

(3) 訪問先 [シティユーワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

弁護士の方々からいただいたフィードバックから国際比較の重要性を学びました。私はこの発表も含め、今まで国際比較をほとんどしてきませんでした。しかし、国際比較をすることで日本の児童虐待問題の深刻さがより分かって発表の説得性が上がり、また、現在のグローバル化が進んでいる社会で世界規模の目で物事を見ることはとても必要な力だと思いました。したがって、これからは普段から「これは世界ではどうなのだろう」と思い、より広い視野を持って考え行動できる人になりたいと思います。

また、発表の前には社内見学をさせていただき、皆様がどのようにお仕事をされているのか知ることができた貴重な体験となりました。私は法学部を希望しているため、実際に法律事務所を見学し弁護士の方々とお話をしたことで、よりいっそう法律を学びたいと思いました。

お忙しい中、貴重なお時間をいただき本当にありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

企業訪問や校内発表会で他の人の発表を聞き、自分の発表の詰めの甘さを実感しました。特に、私は問題の説明を長くしてしまい、自身のアプローチ方法を詳しく具体的に話せませんでした。しかし、発表が上手な人は、発表のスキルがあることに加えて自分のアプローチが詳しく述べられていました。そのため、これから発表を行う際は自分の意見に重点を置いて、より良い発表が行えるようにしたいと思います。

また、1、2学期とMC探究Ⅱを行う中で日本の課題に対する考え方が少し変わりました。探究を行う前は、自分が日本規模の大きな課題に対してできることはあまりないと消極的に考えていました。けれども探究後は、小さなことでも自分にできることはあると前向きに考えています。今回の探究活動を通して、改めて一人一人が大きな課題を自分ごととして捉え、改善のために何ができるかを考えることが非常に重要であることを学びました。私も今回探究したことを探究で終わらせることなく、社会を構成する一員として少しでも実現できるように努力していきます。

(1) 探究テーマ [グローバル人材の育成]

(2) 探究内容

近年グローバル人材を必要としている企業がたくさん出てきています。その中で、なかなかそのような力を持った人材が育ちづらい現状がある理由を、データを基に今後の考察と自分のキャリアである商社でどのようなアプローチができるかを考えました。

具体的にグローバル人材の育成に困難が生じる原因として、多くの人がグローバル人材＝英語が堪能な人ということをはかばかしく捉えてしまうことが挙げられます。私はこの課題に立ち向かうために、三つの改善案を考えました。一つ目に、外部セミナーへの参加です。これは長期的な目線で人材を育成できるため、将来性を期待することができます。二つ目に海外支社への派遣です。実際に海外で働くことによって、自国で働くよりもストレスや緊張感が大きく関わってくるため、本格的に学べるかつ、成長のスピード面でも活かせることができます。三つ目はeラーニングの活用です。eラーニングとは、時間と場所に縛られずに自由に取り組むというところが、最大のメリットです。私はこれらの案を生かして、課題に立ち向かおうと思いました。

(3) 訪問先 [シティニューワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

実際に企業の方へ発表を行ったことで、今までにない緊張感を感じながら発表を行うことができました。さらに、実際に企業の方から、「キャリアを通じてどのようにスキルを磨くのかをもっと追求した方がいい。」というアドバイスを頂いたことで、まだまだ自分の考えが浅はかであることを認識し、より探究する必要があると強く感じました。また、全体として、フィードバック内で、自分のアプローチの中で何が良くてどこをより良くした方が良いのかを明確にすることができたため、それをしっかりと受け止めて、次の実際にアプローチするというステップへ進みたいと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

初めはまだ大学生にもなっていないのに未来の自分になりたいキャリアに就く。アプローチする。このように未来を想定し、自らの課題に向けて考えると、なった時に、とても無理難題であると感じていました。しかし、探究活動に取り組んでいくうちに段々と作業にのめり込んでいき、自分がこの課題について全力で取り組もう！と実感するようになっていきました。私はこの活動を通して、1つの課題だけでなく、できる限りのことは全て自分の力で立ち向かおうと思えるきっかけになりました。言葉だけでなく、行動で示せるようにまずは他の課題や目先のことで目を配れるように意識したいと思います。

(1) 探究テーマ [待機児童問題]

(2) 探究内容

現在の待機児童問題は、待機児童に数えられず明らかにされない隠れ待機児童の人数が年々増加していることが問題視されている。待機児童が発生する主な原因は保育士・保育園の不足である。そこで私は行政の立場から特に保育士の不足について大きく二つの解決策を考えた。

一つ目は潜在保育士の復職支援を行うことである。育児や低賃金に起因する経済的困難といった理由から退職してしまった方々に向けて金銭的支援や就職支援研修を行いスムーズな復職を促すことができるのではないかと考えた。しかし労働環境自体に不安や不満を持っている方々には解決策にならないと考えた。

そこで二つ目はICTシステムの導入である。これにより多くの事務仕事が効率化され、事務員の負担が減りクラス運営のサポートに回れるようになることで保育士の負担やストレスが軽減されると考える。しかし現在は普及が不十分なため各自治体や厚生労働省でICT補助金を取り入れられており、一定の申請時期に申請すると一部導入の際の費用を担ってくれる。しかし、この点についても様々なデータを分析した結果、周知は十分されているが普及は不十分であると明らかになった。そこで申請時期が一年のうちで短く、思い立った時に申請できないことが問題であると感じ、専門家を招いた部署を設置し、協議・審査などの仕事を効率よく行うことで一年のうちに申請できる時期を複数回設けるなど申請時期を延ばすことが重要であると考えた。

(3) 訪問先 [シティユーワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

キャリアを通して解決するというテーマなのでもっと長期的な視線で考えることが大切というアドバイスを受けた。そのために、特に解決に必要なあらゆるデータを集めることが大事で、今回においては現状の待機児童数や保育園の数、また解決のために必要な保育園数をしっかり把握して考えることが大切と聞き、やはり自分の主張を理論たてたり問題を解決していくいろんな場面でデータはとても重要だと改めて感じられた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今まで待機児童問題についてはニュースで見た情報のみで、原因や行政が行なっている取り組みはあまり知らなかったが、今回の探究で将来自分達が考えていくべき問題の一つをキャリアを通じて深く学ぶことができた。また待機児童問題について調べ始めてからニュースで保育関連のものを見るたびに探究と結びついているのを感じ、より情勢に関心をもてた。

(1) 探究テーマ [日本の過疎問題]

(2) 探究内容

私は日本の少子高齢化に伴い、地方から都市部へ人口が流出したことで生じた過疎問題を問題視した。この問題を解決するためには都心部と地方との差を縮めることが必要だと考えた。そうすることで、わざわざ都心部へ行く必要がなくなり、都心部への人口流出を防ぐことができると考えた。差を縮めるためには国による対策と地方による対策の二つが必要だと考えた。

国による対策では、生活基盤となる教育や医療、買い物などのインフラ整備をする。学校や病院、スーパーマーケットまでの距離が極端に遠い地域をなくすことで、人口が減少している地方でも都心部と変わらない生活水準を維持できるようにすることができると考えた。

地方による対策では、地域ごとの課題に適した独自の方針を決める。例えば、医師の不足という問題に対し、卒業後に指定した診療科で働くことを条件に修学賃金の貸付を行う。

地方公務員には各自治体が抱える課題解決への政策を立案し、実行する役割がある。私は将来、地方公務員として過疎問題について対策を考え、アプローチしていきたい。

(3) 訪問先 [シティニューワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

とても興味深い内容であったが、地方による対策をもっと具体的に述べると良いというアドバイスをいただいた。自分の発表を振り返り、国による対策では具体的な国を一つ挙げて説明していた。しかし、地方による対策では具体的な地方をあげて説明しなかったため、私の調査不足だと感じた。過疎問題にアプローチしている地方について調査し、その中から一つを取り上げ、自分の発表に取り入れたいと思った。発表内容がより具体的な方が、説得力が増し相手の関心をさらに集めることができると学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

まず、情報収集能力の大切さを学んだ。インターネットの普及により、膨大な情報の中から信憑性のある情報を判断することが難しくなった。しかし、情報を適切に集め、活用することで意思決定を正しく行うことができると気付いた。この能力は、今後の受験にも影響すると思うので、情報収集のコツを掴んで高めていきたい。

そして、聞き手の注目を集められるような発表スキルを学んだ。身近な例や自分を含め、聞き手も聞いて驚くような例を出すことでより印象に残りやすくなるとわかった。自分の発表をこの点について重点的に客観的に評価することでよりよい発表となると考えた。MC探究Ⅱから学んだことを今後の発表に生かしていきたい。

(1) 探究テーマ [日本の看護師数の減少と地方医療の貧窮化]

(2) 探究内容

職場環境の過酷さから成り手の減少や離職率の高さが顕著に見られる看護師数の減少についてと、医療の行き届かない過疎地域における医療の受けづらさについて、新潟県と、東京などの都会の人口の差異に着目した対比を展開しながら、主に機械や人工知能の活用の観点から改善策を提示する。

(3) 訪問先 [シティユーワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

私はシティユーワ法律事務所様で自分のプレゼンを発表し、大きく2つのことを学びました。

1つ目は、データを良く調べ、見極めることです。私のプレゼンを聞いて下さった方々からのフィードバックから、私は自分の情報収集が不十分な点があったことに気づけた他、前半と後半の話題のつなぎ方に改善の余地があることなども指摘していただき、東京研修後の探究活動の目印になりました。もっとたくさんのデータに目を向け、より多角的な視点で探究活動に向き合えば、さらに深い学びが得られると教わりました。

2つ目は、おもてなしの精神です。わざわざそちらのお時間をとってまで訪問させていただいたにも関わらず、お菓子やその他のお土産、さらには社内見学まで用意していただき、私は心から感動しました。このおもてなしの数々により、私の発表の緊張もほぐれました。私も将来働く際、このようにして人を笑顔にさせ、感動させることのできるようなおもてなしができるようにしたいです。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

この1、2学期のMC探究を通して、私はデータを利用することの重要性や、日本や世界の抱える課題について、まだほんの氷山の一角ではありますが、知ることが出来ました。また、他の方の発表から、自分の取り上げたもの以外の課題や、発表をする際の大事なスキル(抑揚やアイコンタクトなど)も学びました。テストに出るような、答えのある問いとは根本的に性格が異なる課題の数々に、どう対応すればいいのか頭を悩ますことも多々ありましたが、この経験が将来の役に立つと信じ、周りとは切磋琢磨しながら頑張ってきました。大学受験をゴールとするのではなく、その先の社会に出た際の将来像を思い浮かべながら、これからもこの探究活動を頑張っていきたい次第です。

(1) 探究テーマ [日本の児童虐待]

(2) 探究内容

ここ数年の児童虐待件数は増加し、過去最高を更新し続けている。また、公になっていないケースも多くこれは氷山の一角に過ぎない。解決のために様々な機関が活動を行っているにも関わらず、児童虐待件数は増加している。また、児童相談所の在り方にも課題があり、子どものケアを優先するため保護者や、虐待者は指導だけで終わらせてしまう。このように課題が山積みな児童虐待問題に対して私は、地方公務員になりアプローチしていきたいと考えた。各自治体が実際に児童虐待に関する政策を遂行している。また児童相談所の在り方として保護者、虐待者を指導だけで終わらせるのではなく、徹底したケアを行いつつ、当然のことだが子どものケアも怠らないシステムを構築する。また、人手の不足といった児童相談所自体の問題も解決していくために、各自治体の庁舎あるいは、自治体病院に併合を行う。これらのことを踏まえた上でたてた仮説は虐待者のケアを優先し、児童相談所の連携を強化するとともに在り方を考え、より良いシステムを作り上げることである。

(3) 訪問先 [シティユーワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

企業の方からは児童相談所の在り方をさらに広げ、具体性を追求すると良い。また様々な視点から問題を解析しているといったフィードバックをいただいた。いただいたフィードバックをもとに、さらなる解決策の具体性を持たせるヒントを得ることができた。また、児童虐待問題に対してさらに深く調べ、日本の他問題との関連性も調べて見つけ、さらなる自身の学びに繋げることができた。社会で活躍されている方に実際に発表を見てもらい評価していただくことで、私の探究への新たな課題、さらに追求すべきポイントを発見することができた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2 学期全体を通じて)

今年のMC探究はどのようなことを学ぶことができるのかと思いつつ迎えた1 学期、学年集会で言われた今回の探究内容を聞いてとてもやりがいがある探究だと感じていた。しかし、情報の収集に苦労した。なかなか欲しい情報がピンポイントで出てこない。また、データサイエンスを活用するといった課題もあり、探究内容の組み立てに多くの時間を費やした。インターネットの情報だけでなく、ニュース番組や新聞などさまざまなメディアから児童虐待や関連する情報を片っ端から収集し取捨選択を行なった。情報収集を細かく行なったため、児童虐待問題に絡んで児童相談所の在り方の課題や子どもの貧困との関連などといった問題が浮かび上がってきた。このように、児童虐待問題はさまざまな問題と密接に関わっていると言える調べていくうちに感じるようになった。このように情報収集に苦労しながらも、ハードなタスクにやりがいを感じながら探究活動を行った1 学期であった。

2 学期になると発表練習が始まり班員からのありがたいアドバイス、時には厳しい指摘を受けながらお互いにブラッシュアップを何回も何回も重ねて質の高い発表制作を行うことができた。発表内容とルーブリックを照らし合わせつつ、発表時間の制約も頭に入れて発表練習を有意義に遂行することができた。スライドも幾度となる改良を重ね、スライドの質を向上させることができた。そして迎えた発表当日、社会でご活躍されている企業の皆様へ1、2 学期真剣に自分と向き合っ創り上げた探究発表を自分の口で堂々と発表することができた。発表をする前、している最中の緊張は言葉にできない。しかし、発表後の企業の皆様からのフィードバックで評価、アドバイスをいただき新たな学びを得ることができた。子どもの視点からでは分からない大人の視点から発表を指摘いただくことで自分が見落としていた点を発見し探究を深めることができた。そして最終発表では、東京研修でいただいたフィードバックをもとにさらに磨きをかけ、1、2 学期取り組んできた自身の探究を最終発表というかたちで出し切ることができた。最後に、1、2 学期の探究活動を通して日本が抱える問題についてこれからの時代を生きていく1 人の人間として自分には何ができるのか、どう日本に貢献していくのかを真剣に考えることができた。私たち学生のような若い世代が日本の問題を自分事として捉え真剣に考えることによって問題の解決の糸口を見つけることができるのではないかと思った。私にとってこれからの日本、自分の未来を真剣に考える良い機会でありこの探究での学びは間違いなく自分の財産となるだろう。探究活動に携わっていただいた全ての皆様に感謝する。

(1) 探究テーマ [学校におけるいじめ問題について]

(2) 探究内容

近年、いじめが原因で不登校になったり自殺してしまう子どもは多い。では、なぜそのような状態に陥ってしまうのか。それは、誰にも打ち明けられず、一人で抱え込んでしまう点にある。これを解決するには、子どもの身近にそのような悩みを打ち明けやすい大人が必要であると考えます。そこで、私はスクールカウンセラーになり、専門の知識と実際にいじめを受けた経験を活かし、いじめの問題に貢献したい。

(3) 訪問先 [シティニューワ法律事務所]

(4) (3) からの学び

探究内容は勿論のこと、プレゼンの仕方や話し方等についても自分が気づかなかったような事について丁寧で多角的なアドバイスをいただき、大変参考になりました。特に私は、発表の全体の繋がりがあると尚良いというご指摘がまさにその通りだなと感じたので次の機会に活かしたいです。また、弁護士の方の実際の仕事場の様子やお話を聞き、今後の自分の進路希望について改めて見つめ直す機会にもなりました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

初めは自分の仕事については、ある程度稼ぎや休みがあって自分が豊かな生活ができれば良いなというスタンスでしたが、一年生の頃の地域の課題というテーマから二年生になって日本の課題というテーマで探究を進める中で、世のため、人のために一人の日本人として国に、あるいは世界に貢献したいと思うことが増えました。三年生になると世界の課題というテーマになると聞いたので、自分に何ができるのか、前向きな思考を持って取り組んでいきたいです。

(1) 探究テーマ [日本の若者の自殺について]

(2) 探究内容

日本の若者の自殺率が高いという状況を知り、その原因を調べていくと、学校関係が多く、特にいじめが原因であることが分かりました。そこでいじめによる自殺を防ぐために「いじめ保険」の会社を起業し、保険を販売することで自殺者を減らせるのではないかと考えました。「いじめ保険」とは、いじめ被害者に対してカウンセリングにかかる費用や、転校にかかる費用などに対してお金を支給することで、被害者にかかる負担を減らせる仕組みとなっています。しかし、いじめ保険には1つ問題があります。保険に加入するか判断するのは親であり、我が子がいじめに遭うと考える親はいないと考えました。そこで、いじめ保険は個人へ販売するのではなく、地方自治体へと販売し、その地域の子どもたち全てが加入できるような仕組みにし、自殺者を減らせたらいと考えます。

(3) 訪問先 [富士通株式会社]

(4) (3) からの学び

私は、斎藤様が私たちに質問をされている姿を見て、1つの面だけで捉えるだけは不十分であることを学びました。東京研修以前にグループのメンバーでプレゼンの内容に関して改善を何度も行い、自信をもって東京研修に臨みました。しかし、斎藤様の質問を聞いていくなかで、私たち高校生の視点では気づかないような面での質問をされており、準備の不十分さを実感しました。そこでこれからは、探究活動などを行うときに自分1人だけでは捉えられない面があるので、周囲の友達や、家族、先生などに相談をしてよりよい活動ができればいいと思っています。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

今回のMC探究で、日本や世界が抱える問題について真剣に向き合い解決策を考える初めての機会となりました。その中で、解決策を考えることの大変さを学びました。最初は、自分が教師となり生徒としっかり接することで自殺者を減らそうと考えていました。しかし、それだけでは関われる生徒の数はごく僅かで問題解決には至らないと思いました。そこからも様々な解決策を考えましたが、なかなか満足できるものは見つけることができませんでした。そして最終的にいじめ保険という解決策に至りましたが、それもまだ完璧ではなく、解決策を考えることの大変さを痛感しました。これからは、今回の経験を活かし、大学での探究活動や、社会人になってからの活動に活かしていきたいと思います。

(1) 探究テーマ [睡眠の質を向上して授業中の居眠りを防ぐ]

(2) 探究内容

常日頃、授業中に生徒が居眠りをしていることが問題だと感じた。授業中に寝るという行為がいかに深刻な問題であるかのかどうかをアンケートし、それをまとめた上で睡眠の質を向上して日中の居眠りをなくすことを提案する。

(3) 訪問先 [富士通株式会社]

(4) (3) からの学び

富士通の本社事務所に伺うことができ大変光栄でした。また、日本を代表する大手企業の力を垣間見ることができ、嬉しかったです。お忙しい中、私たちの発表に協力していただいた方一同に対して心より深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

私の富士通様からの学びは情報です。富士通の紹介動画にはたくさんの情報関連のものがあり、これからの時代は情報だと改めて感じることができました。大学入学共通テストでは情報の教科が必須になりますが、もっと重要視すべきだと考えるようになりました。この度はありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究は最初正直とても面倒くさく、時間の無駄だ感じていましたが、いざやってみると自分自身のことについて深く知ることができてとても良い機会となりました。MC探究は自分を深く知ることができる良い学びにもなりました。これからも自分をしっかり見つめて、より良い人生の選択ができるようにしたいです。

(1) 探究テーマ [increasing the number of truant students]

(2) 探究内容

日本の不登校生徒の増加問題について、その原因（勉強についていけないこと、周りと良い人間関係を作ることができないこと、インターネットの利用の3つ）を見つけ、自分が将来なりたい職業（小学校教諭）から道徳の授業内容を見直すことで問題解決につなげること。

(3) 訪問先 [富士通株式会社]

(4) (3)からの学び

私は富士通の企業訪問で主に2つ学んだことがあります。1つ目は働いている場所や働いている様子を見学させていただき、仕事のあり方の変化を強く実感することができたことです。出社する日の割合が少ないことや、自分の作業デスクが決まっているのではなく好きなところで仕事ができるという職場環境に驚きました。まだ学生な上に、両親が教員である自分は、大人の人が働いているところは学校の先生しか見たことがありませんでした。そのため、働き方改革やリモートワークなどと言われても実感が湧かなかったのですが、今回の企業訪問で働き方が変化し、苦痛で無意味な労働ではなくなっていることがよくわかりました。このような働き方によって、社員が働きやすくなり効率化が図られ、会社全体の利益につながるという良い循環が作られるのではないかと思います。2つ目は、自分のやりたいことや長所を活かせる仕事はたくさんあるということです。今回私は英語のプレゼン発表をしました。私は英語に興味があり、将来自分が仕事をするときも英語を多用できる仕事につきたいと考えていました。そうすると、英語教師しか思いつかずそれを常に目標としてきましたが、今回お話を聞いて、一般企業でも英語を活かした仕事をするができることがわかりました。むしろ、日本人と英語で話す英語教師より、外国人の仲間と英語でコミュニケーションをとることにとっても興味を持ちました。今回企業訪問に行くことができなければきっとこのような考えは出てこなかったと思います。将来の進路が広がったのでとても大事なことを学べたと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

私は1、2学期のMC探究で学んだことは3つあります。1つ目は、一人一人重要視する点は違うということです。2年生の探究テーマは「日本または世界の問題」でした。このテーマを提示されて取り組み始めたばかりの頃は、世界にある問題は限られているだろうし、全員同じような内容になってしまうのではないかと考えていました。しかし、練習などでたくさんの生徒のプレゼンテーションを聞くと、内容が一緒なものほとんどありませんでした。似ているけれど内容は全然違うものもあれば、自分が思い付かないような問題を挙げている人もたくさんいました。違う視点を持った人とたくさん交流することで自分に足りないところを補うことができることを改めて実感し、世界中の問題を少しずつ解決していけるのではないかと思います。2つ目は、解決策の作成の難しさです。問題を解決するような活動は今までたくさんしてきましたが、その有効性や実現可能かどうかの判断をしたことはほとんどありませんでした。私が初めに不登校生徒の増加問題について考えていた解決策は、「不登校生徒だけが集まった学校を作る」という案でした。しかし、クラスメイトにそんなことが実現可能なのか問われたときに自分の考えた対策の甘さに気づきました。学校を作るとして費用は確保できるのか。そもそも一度不登校になった生徒がもう一度学校に行きたいと思うのか。不登校になった生徒だけで学校を作ったとしても、そこは多様性に欠ける空間なのではないか。などと考えるとたくさんの疑問点が出てきました。そうして私は自分一人でする策を新しく考えましたが、とても時間がかかりました。この経験を通して、人に何か意見を伝えるときには、まず自分がしっかり準備をする必要があると思いました。3つ目は、あらかじめプレゼンテーション発表後にどのような質問がくるか予想しておくことです。企業訪問前に何回か本番を想定した練習を行い、クラスメイトや先生に質問をしてもらった機会がありました。簡単な質問であればその場で理解し、対応することは可能でしたが、英語発表だったこともあり、専門的な単語が出てきたときに答えられなかったことが少なからずありました。そのようなことが本番で起きないように事前に自分のプレゼンテーションの内容と関係のある専門的な単語を予習しておきました。本番で使う機会はなかったけれど、そうすることによって、万が一わからないところがあったときに対応できるようにしておくだけでなく、自分自身の質問時間によるプレッシャーや緊張を和らげることができました。

(1) 探究テーマ [disaster medicine and shortage of medical workers]

(2) 探究内容

日本の課題として、地震による死者数が多いことを挙げた。東日本大震災での実際の死者数を事例として交えながら、その原因は医療従事者の不足にあると考えた。この現状を解決するために、自身が看護師になって二つのことに取り組むべきであると結論付けた。一つは看護師体験などの医療職体験の機会を増やすこと。もう一つは学校を訪問し、医療職の魅力を伝えること。これらのことを通して、将来の医療従事者数を増やし、最終的には災害死者数も減少させたいという目標に至った。

(3) 訪問先 [富士通株式会社]

(4) (3) からの学び

率直な感想だが、富士通様に伺うことができ本当に良かったと感じる。富士通様にはたくさんの刺激を頂いた。アットホームな雰囲気には働きやすい職場が想像できて、これまで公務員系の職業にしか視野がなかった自分にとって一般企業の魅力を大いに感じる事ができたと考える。また、今回世界規模で活躍されている企業に触れさせていただき、自分も日本のみならず、世界の困っている方々を助けたいと世界に目を向ける事ができたと感じる。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

私はMC探究を通して、自分の可能性を自分で認めることができるようになったと感じる。これまでは、自分には世界を動かせる力など無いし、社会人になり無難に仕事ができればそれでいいと思っていた。しかし、実際に職業を調べたり、企業で生き生きと働く方に出会い、小さなことでも誰かのためになることは必ずあるし、自分にも周囲を動かすことができるということに気づく事ができた。また、世界に視野を向けた、新たな夢や目標ができたので、それに向かって努力をしていきたいと考えている。

(1) 探究テーマ [AIの発達による失業者増加問題]

(2) 探究内容

AI技術の発達によって今ある職業はAIに置き換わり始めています。OECDの調査から今後それが深刻になり、失業者が増加してしまうと考えられます。これを改善するために失業者になってしまった人々がAIでは代用できない仕事に関して学び、転職することを支援する学校を作ることを提案しました。そうすることによって失業者になってしまった人々がAI社会において取り残されず、再び働くことができる世の中になると考えました。

(3) 訪問先 [富士通株式会社]

(4) (3) からの学び

私は、齋藤様からどうやって失業者である生徒からお金を得るのかという質問をされましたが、金銭的なことについて自分の中でまとまった考えが持てておらず、曖昧な回答をしてしまいました。そこで、実現可能性の部分で自分の考えが甘いことにハッとさせられました。今後、社会人として課題解決に関して考える際に自分の提案が納得されるものになるように現実的に実現出来るかということも含めて考えていきます。お忙しい中発表を聞いていただき、また質問をして下さりありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

このMC探究を通じて課題を設定し、解決案を考え、それを論理的に説明することの難しさを学びました。学校での発表練習や原稿の見直しを何回もして発表がより良くなるように努めました。探究やプレゼンの技術をこれからも上達させていきたいと思えます。

(1) 探究テーマ [精神疾患の増加問題]

(2) 探究内容

現在、環境要因や人的要因などによって起こるストレスにより、近年精神疾患が増えてきています。それを改善するために社会ではカウンセリングを行っているのでそれを参考にし、私はAIを用いてのカウンセリング方法を模索しました。その結果、クライアントがAIに直接相談をして話を聞いたり改善案を表示する相談型AIというものをAIエンジニアとして開発しようと考えました。

(3) 訪問先 [富士通株式会社]

(4) (3) からの学び

貴社に伺った際いただいた、「AIと人間との差異はなにかあるのか」という質問から、「AIは膨大なデータを元によりよい改善案を思いつくことができ、さらに感情が入らない客観的なアドバイスを提示できる」といった結論を導くことができ、相談型AIの独自性をより深く考えることができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私は1、2学期のMC探究を通して、人の心は脆く傷つきやすいもので、それをきっかけに病を患ってしまう可能性が常にあることを学びました。そして、その病が原因で命を落としてしまう人も多くいると知りました。これらから、私は将来人の心を助けることができる仕事につき、精神疾患で悩む人を1人でも減らしたいという展望を持つことができました。今後は、より良い方法がないかをMC探究で学びたいと思います。

(1) 探究テーマ [地方の過疎化]

(2) 探究内容

地方の過疎化が進む原因・現状について調べ、改善のためにできる対策を考えた。その対策とは、過疎地域の伝統文化や工芸品をSNSを用いて発信し、観光客を呼ぶことを図ったり、空き家に住んでくれる人に対して免税、給付金をだすというものである。このようにすることで、その地域を訪れるようにしたり、その地域への定住を促進することができる。

(3) 訪問先 [富士通株式会社]

(4) (3) からの学び

地方に工場を造ることは二酸化炭素排出量を減らせる可能性があり、これは全てが都市にある必要はなく、地方に分散していても社会にいい影響を与えることがある。また、学業においても勉強のみをやり続ける必要はなく、たまには勉強以外のことにも時間を使うことも必要であると考えた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回のMC探究では、多くの地方で起こっている過疎化について調べ、それが深刻化していることがわかった。打開策としてさまざまなものが打ち出されており、多くの人々が解決に向けて動いていることがわかった。例として、国の政策では、過疎地域自立促進法として地域産業の振興や医療と教育の確保を図っているものが挙げられる。また、過疎地域についての情報が掲載されているウェブサイトによってデータに相違が見られたりしたので、いつの情報か、また発信源はどこなのかを明確にし、信じられる情報を取り入れていきたい。

そして、自分だけで調べ物として進めていくよりも他の人に発表したり発表を聞くことが自分のプレゼン力の向上につながると感じた。その経験から友人などによく相談をしていくことが大事だと学んだ。

(1) 探究テーマ [がん患者を減らすためにどうアプローチするか]

(2) 探究内容

がん患者へのアプローチ方法を考え、がん死亡者数を減らすための対策を考えました。対策として携帯端末の写真機能を使い健康状態を把握することを提案しました。この健康状態を判断するためにAIを使います。AIを使うことで初期症状を早期に発見することができます。また“大切な人の写真がスマホの画面に自動で表示される”といったことも取り入れました。人の気持ちに寄り添ったことを取り入れることによってがん検診を受けようという気持ちを促進させることができると考えたからです。

(3) 訪問先 [富士通株式会社]

(4) (3) からの学び

富士通様から分野の異なるもの同士を繋げてみることによって新しいことが生まれることをフィードバックとしていただきました。身の回りには分野の異なるものが沢山あります。例えば携帯電話と文房具やチョークと窓ガラスなど。全く違ったものを組み合わせてみることで今後のニーズに対応できるものが作れると考えました。さらに近年、持続可能な開発目標のSDGsが注目されています。私が探究したテーマとSDGs 3番の「すべての人に健康と福祉を」は関係があると考えます。今後は、私が探究したこととSDGsを繋げ、様々な視点でがん患者へのアプローチ方法を考えていきたいです。また、日本だけでなく海外のがん患者を減らすためにどうすればいいのかも考えていきたいです。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究で社会貢献のために自分ができること、自分が提案できることは何かについて考えることができました。自分一人ではできることはとても少なく、誰かの助けが必ず必要になることがほとんどだと思います。そのため私たちは自分の考えを提案できるように協力体制を整えておく必要があると考えました。この先自分一人では乗り越えられない壁が必ずあり、その壁を乗り越えるためにも自分の考えをしっかりと持ち、他の人と協力し合えるような人間関係を作りたいです。さらに、社会貢献を考える上でSDGsも大きく関わってくることが分かりました。ただ社会貢献をするだけでなく、持続可能な社会になっていくことができる社会貢献をしたいと思いました。

これから、多様な面で物事を捉えて、社会貢献のために自分のできることを考えたいです。

(1) 探究テーマ [癌の早期発見のために]

(2) 探究内容

日本人に2人に1人は生涯で何かしらの癌になると言われている。癌は日本人の死因構成割合で最も高い。日本は先進国であり、医療技術も発達しているにも関わらず癌の死亡率が高い。日本は世界の国々に比べて、癌検診の受診率が非常に低いことが分かった。癌の死亡率を低下させるためには、癌検診の受診率を上げ、癌の早期発見をする必要がある。そのためには、まず個人の体調管理が不可欠である。また、検査機会を充実させる、検査への行きにくさを解消する、検査の重要性を理解してもらう必要がある。そこで、診療放射線技師というキャリアを通じてこの課題にアプローチしたいと考える。技術者として検査を行い直接的に貢献、検査機会を充実させるために、部位や癌の種類別に検査、相談ができる施設、社会の仕組み作りをしていきたい。

(3) 訪問先 [キヤノン株式会社]

(4) (3) からの学び

キヤノン株式会社さんが、カメラ技術を映像メディア、監視カメラ等の防犯対策、最先端の医療技術など多方面の分野で活かしているように、私も診療放射線技師として検査を行うだけでなく、専門知識を活かし、社会の仕組み作り、癌についてや検査の重要性を伝える等の教育活動など、多方面で活躍できる人材になりたいと思う。また、プレゼンの内容についてもたくさん指摘して頂き構成の見直しを行い、内容の関連性や繋がりを意識することができた。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

発表を様々な人から見てもらうことで、異なる視点から物事を見る大切さを学んだ。自分では気が付かなかった課題が見えてきたり、実体験のお話を聞いたりすることができ、より具体的に将来について考えるきっかけになった。

私はこれまで放射線技師を中心にキャリアについて考えてきたが、似たテーマの人の発表や様々なお話を伺って、どのような分野にでも対応できる人材になりたいと考えるようになりました。一つの視点に囚われずに、柔軟な考えや視点を持ち、今後の活動に取り組んでいきたい。

(1) 探究テーマ [高齢化社会と医療]

(2) 探究内容

日本で進行している少子高齢化や、高齢化社会により起こる医療分野の課題について探究しました。これからの日本の医療問題として①「人口減少による医療従事者の負担増加」②「人口の偏りによる医師偏在問題、それに伴うへき地・過疎地域での地域医療問題の不十分」の2つがあります。この問題に対し、「医療従事者の人手不足」「適切な医療提供」という観点から、開発者という立場でアプローチを考えました。今の日本であまり普及していないオンライン診察に視点をあて、AI搭載医療機器という形で都市とへき地を遠隔で繋ぐことで、AIによるお年寄りのサポートや医療従事者の負担の軽減を目指します。

(3) 訪問先 [キヤノン株式会社]

(4) (3) からの学び

質疑応答の時、違う視点から私の探究について考察、意見をいただきました。私の探究活動を振り返ると、自分が探していた情報を見つけ、さらにその情報を調べるという方法でした。しかしこの経験で、一つの情報について深く調べても、ただ知識が増えていくだけで自分なりの考察が深まらなと感じました。視点を変え、違う分野との関わりや物事の原因について広く知識をつけ、得られたたくさんの情報を基にすることでより深く、説得力のある考察ができるようになると考えました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

この探究活動、企業でのプレゼンは、私にとって大きな社会経験となりました。私がこれから生きていく世界に目を向ける機会、今働いている社会人との交流によって、自分の人生について考える機会となりました。この活動の大きな反省点として、このテーマに決定するまで多くの時間を使ってしまいました。これにより、情報収集や仲間との情報・意見交換の時間を削ってしまい、優秀な発表者と差がついてしまったと思います。自分にとって難しいテーマではあったものの、日頃から世界や日本に目を向けていればもう少し早くテーマを決定でき、学校という集団での活動を有効活用し、多角的で深い考察ができたと思います。

この東京研修は、高田高校に協力してくださるみなさんのおかげで成り立っています。私たちの探究活動に力添えしていただき、ありがとうございました。

(1) 探究テーマ [睡眠の改善で生活をより良くしよう]

(2) 探究内容

今回私が調べたのは日本人の睡眠問題で、世界と比較してもかなり少ない傾向にあり、不十分な睡眠は様々な悪影響を及ぼすことがわかっています。私はこの問題を解決するために、私個人として出来ることを挙げ、その中から睡眠までのよりよい行動を示すアプリの開発という形での問題解決を提案し目指しました。

(3) 訪問先 [キヤノン株式会社]

(4) (3) からの学び

私たちの日々身近なところで見かける、また意外なところで人々の役に立っているキヤノン製品の歴史やこれからの展望を知ることができ、特に高解像度の高級カメラやプライバシーの面で大丈夫なのかというほど望遠が効く防犯カメラは興味深く、強く印象に残っています。また、そのような高性能な製品はしっかりと社会貢献などといった目的をもって開発されていることが分かりました。そして様々な分野において多岐にわたり、事業が進出していると分かりました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分で見つけた課題に対して知るだけでなく、解決策を考えることで、より問題を深く、身近なこととして向き合うことができました。東京研修では次に繋がるフィードバックを頂いたことで三学期の探究に繋げることができました。また実際に最前線で国の課題の解決に取り組んでいる企業を訪問し、お話を頂いたことは貴重な経験になりました。

(1) 探究テーマ [日本のポリファーマシーの解決に向けて]

(2) 探究内容

日本の高齢者の薬の使用量が多いという問題を知り、私には薬剤師になるという目標があるため興味を持ち、その問題について調べた。そして結論として、まずこの問題を広く知ってもらうことが大切だと考えた。解決策としては、ポリファーマシーのマニュアルを設定するということを提示した。

(3) 訪問先 [キヤノン株式会社]

(4) (3) からの学び

地域社会での繋がり的重要性について学んだ。現在、特に高齢者の方々が病院を掛け持ちして通院することが多い。そこで病院同士が繋がって、患者の情報を共有してより良い医療の提供が実現していることを知った。しかし地方では、都会に比べて病院同士の物理的距離が長く、連携が難しいという課題があることも分かった。また、今日の医療のデジタル化についても学ぶことができた。これが進むことによって、患者のカルテの正確な把握や、それぞれの状況に応じた適切な治療を行うことが可能になっている。しかし日本はこのデジタル化において、大きな遅れがあるということを知った。例えば、日本はオンライン診断や電子健康記録などといったデジタル化についての項目で、グローバル平均と差がついてしまっている。これが現状の日本での、大きな問題となっている。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私はこの探究を通じて、自分の将来像を確立することができた。この探究を行う前までは漠然と薬剤師になりたいと考えていただけだった。しかし、この活動を行い自分のキャリアに関わる問題について深く考えたことで、薬剤師という職の必要性や重要性を学び、自分もこの職を通じて社会に貢献したいと決意することができた。また、薬剤師という職の具体的な内容を知ることで自分の将来を、見定めることができた。それに加えて、現代の医療について学びを深めることができた。薬剤師という職はもちろん、医療と非常に結びつきが強い。企業訪問では、その医療についての情報を多量に収集することができ、それにより自分が解決したいという問題にも関連して考える材料になった。そして今、変化し続けている医療の現状を知ることで、これからの医療について考える機会にもなった。これらの学びを、これからの探究にも活かして行きたい。

(1) 探究テーマ [日本の保育士問題とICT化について]

(2) 探究内容

現在の日本では、保育士不足や待機児童問題などがたびたび話題になっており、日本の保育士が抱える多くの問題の原因には労働環境や給与不足、変わらない配置基準などが挙げられ、このような課題を「保育園のICT化」によってサポートできると考えた。現在ICTは、保育の現場でも需要が高まっており、作業の効率化、業務負担の軽減、クリエイティブな活動などICT導入には多くのメリットがある。これにより、ICTの導入率をより多くしていくことが日本の保育園問題の解決に繋がると考えた。

(3) 訪問先 [キヤノン株式会社]

(4) (3) からの学び

今回発表したプレゼンの問題提起から解決策までの筋が、少し遠回りで一貫性が少し薄いということと、データから得ることができる情報の着眼点は面白いので、継続した方が良いということ。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

今回の探究活動では、日本が抱える問題に対して原因を探り、自分自身のでできそうなアプローチ策を検討したので、情報収集と思考、発想を繰り返し、問題解決に対する力を磨くことができたと思います。また自分だけでは気づくことができない視点で評価をいただいたので、よりプレゼンの質を向上させることができました。今回の経験で培った知識を今後活かしていきたいです。

(1) 探究テーマ [教員不足]

(2) 探究内容

近年、学校において特別支援学級の設置が増加傾向にあるなど、教員の需要はますます高まっています。このような背景から、私は教員不足とその解決について探究しました。まず教員不足の要因について、課題の深刻さを可視化するためにデータサイエンスを利用し、グラフを作成しました。また、教員不足の具体的な改善策として、教育のデジタル化を挙げ、iPadの導入や教科書の電子化などには、生徒だけではなく教員にもメリットがあり、成績処理やコミュニケーションの効率化・簡易化などにより教員一人一人の負担を減らすことができると考えました。さらに、自身のキャリアを通じた課題へのアプローチとして、教員になり、自分にできることを考えました。教員が増えることで課題に直接貢献することが出来たり、知識を身に付けることが出来るなど、様々なアプローチができることが分かりました。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

ベネッセコーポレーション様に発表をし、企業の方から、課題の内容と発表という2つの面でのアドバイスをそれぞれ頂きました。課題の内容の面では「教育のデジタル化を教員不足と紐付けるという発想が興味深く、通信教育を主としている当社と深く関係している内容で考えやすかった」、また発表の面では「実際に教員にアンケートを実施して課題を掘り下げること、本当に教員不足が深刻な課題として目の前にあるということを実感できた」というフィードバックを頂きました。また、企業の方々から、「今回のようなプレゼンテーションの場は大学での活動や社会人になってからも増えるので、高校生のうちに発表を経験したり、自分の考えを言語化して相手に伝えることはとても大切」というメッセージを頂いたので、今回の学びを、今後の高校生活や大学での活動、会社での資料作りや発表に生かしていけたらと思っています。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱ全体を通して、「学生の中に、社会へ出てからの体験をたくさんできたこと」が最も大きな学びであり、成長した点だと感じました。1つ目の根拠は、発表などの筋道を作ることが得意になったことです。テーマや課題を深く考えていく上で、データの利用や仮説、それらの有効性を伝えることが大切であると分かり、上手く発表に取り入れることができました。2つ目の根拠は、人前で発表することが得意になったことです。どのようなスライドを作ったら相手により伝わりやすくなるか、どのような口調・姿勢で発表をしたら自分の意見がより理解してもらえるかなど、相手の立場に立って発表をすることが増えたことで、発表のスキルやスライドなどの資料の説得力、テーマや課題へのモチベーションなどが向上し、人前での発表の自信へとつながりました。これらの力は、大学や会社などでのグループワークやプレゼンテーションはもちろん、これから社会へ出て様々な人と出会い、接していく上での大切な能力になると思います。MC探究で得た力や知識を駆使し、今後の人生へと上手に活かしたいと感じました。

(1) 探究テーマ [サッカー男子日本代表がW杯でベスト8に入れない!]

(2) 探究内容

・課題設定の理由

日本がW杯でベスト8に入れないことによって、国民のサッカーへの注目が集まらず、小学生年代の子どもたちのサッカーの関心が薄まり将来的にサッカーをする人口が減少すると考えたため。

・課題の原因

原因は大きく2つあると考えていて、1つ目は「様々な国にあった戦い方ができていない」こと。2つ目は「日本全体でデータ分析技術があまり普及していない」こと。

・課題に対する解決方法

自身がサッカーアナリストとなり、活動する。活動内容は主に2つ。1つ目は日本代表チームにデータ分析班をいくつか結成する。そしてチームごとに相手チームや自チーム、選手個人を分析し、その情報を監督や選手個人に提供する。2つ目はデータ分析の重要性に言及した講座を中高生向けに開く。これは進路選択に様々な可能性を持った中高生にアナリストへの興味を持ってもらうという目的。私はこの2つの解決方法が課題解決につながると考えている。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

私はこの度の企業訪問で様々なことを学ばせていただきました。まず、ベネッセ様の労働環境です。私はこの企業訪問以前は、会社というのは会社員全員が1人ひとつのデスクを持ち、働いていると考えていました。ベネッセ様は固定されたデスクを持たず、様々なスペースでお仕事をされていることを知り、自由な働き方があることを学ばせていただきました。将来、私が就職する時には労働環境というものを1つの基準にしてみようと思います。また発表では、データを使う時に様々なデータを比較して示すことが大切ということ。また棒グラフだけでなく円グラフを使うといった、相手を優先した選択が必要ということが分かりました。これからの自分の糧となる活動でした。本当にありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

私は今回の探究活動で自身の将来就きたい仕事を考え、日本の問題としてサッカーに関する問題を取り上げました。最初は何から手をつけていけば良いのか分かりませんでした。様々なデータを集めていく中で課題や解決策を出していくことができるようになりました。私はこのことを通じて、どのようなことにおいても、考え続けて出だしが悪くなるよりも、試行錯誤していく中で新しい発見をし、きっかけを作ることが大事だということが分かりました。また、相手にプレゼンテーションをする時に目を見て話すことで自身の伝えたいこととその思いを伝えることができると学びました。私は探究活動の学びを将来の仕事に役立てていこうと思いました。

(1) 探究テーマ [日本の教員不足]

(2) 探究内容

日本の教員不足の現状とそこから生じる問題点について考えました。日本は今少子高齢化によって子供の数が減少していると言っても、多くの教育機関で教員の不足が問題になっていることを知りました。そしてそこから特に田舎などの地方では正しい教育を受けることができない生徒が数多くいることが判明しました。そこで私はICTを利活用することによってこの問題が解決されるのではないかと思い、日本のICTの普及率や地域別の普及率を調べたりして、日本の教育の発展のためにはICTが必要なのではないかと思いました。調べた結果は教員不足の地域ではオンライン授業などによって教員が多くいる東京都の教員が授業をするのが良いと思いました。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

私の発表ではベネッセ様の専門分野ではなかったもので、主に社会人になって役立つプレゼンテーションの作り方や発表の仕方を教えてもらって、学校である本番の発表会に活かすことができました。よく私のプレゼンを聞いてくださり、すごく将来に役立つようなアドバイスをもらいました。特にアドバイスではレイアウトや細かいグラフをどのように工夫したら見やすくなるかを教えていただきました。私はそこから矢印や赤く丸をつけて強調したりして見やすいように工夫を施しました。また同じグループの仲間のプレゼンの作り方についてのアドバイスなども聞いて、自分のプレゼンの作り方の学びへと還元することをしたりしてみました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

日本には数多くの問題点があることを知り、また私たちの身近にも多くあり一見問題には見えないようなこともよく調べてみたら、重大な問題であることを理解しました。特に私は教員になりたいのでその身近にある教員の課題を調べてみたりしたら、教員不足やICTの問題が多くあり、これは私が通っている高田高校も例外ではないと感じました。私はこれらを調べてみて将来大学を卒業した後に地元である高田に戻って来て、少子高齢化が進むこの高田の高校生たちが教員不足による不自由のない生活ができるようにしたいです。それにはICTを活用した教育が最適であると1、2学期のMC探究の活動を通して学びました。

(1) 探究テーマ [日本における教員不足について]

(2) 探究内容

日本の教員不足が結果として将来の日本の学力低下に繋がりにかぬないと考え、この問題を改善、解決するためにできることについて自分の今後のキャリアを通して何ができるのか、何をしたいのかについて探究活動を行いました。

現在の日本では、2558人の教員が不足しているという調査結果があります。これは1クラスに必要な先生の数が増加したことや教員という職の魅力の低下が原因や背景として考えられます。そして、この問題の結果として教員の授業の質が低下し日本の学力低下に繋がると考えられました。この課題について自分ができることは、自分が教員になり、現在の教育体制を見直し、改善するということを考えました。これによって、教育現場から問題を改善でき、他の学校などのよい手本になることができると考えられました。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

企業に訪問させていただき、自分の探究を発表したことで新たな視点を得ることができました。「教員以外の問題へのアプローチ方法を探ること、社会人になる以前にできることもあるのではないか。」というお言葉で、問題に対する新しい視点を得ることができました。その言葉から大人になってからのことだけを自分は考えていると気付かされ、人生を通してできるアプローチを考えるように改善しました。自分の探究の弱い部分を強化することができました。また、プレゼンの力や今後社会人として生きていく上での人間性を学びました。お忙しい中、私たちに発表する機会を与えていただき、本当に感謝しております。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

1年生では地域視点だった探究活動が2年生になって国や世界視点に変化しました。この変化から取り上げた問題をどれだけ自分の身近なものと繋げて考えることができるか始めは分かりませんでした。しかし、同じグループメンバーと情報共有や互いの探究を発表したことで問題について深く考えることができたと思います。今後はさらにグローバルな視点に変化していくため、企業訪問で得たことも生かして、自分に何ができるのかを考えて探究を深めていきたいと思います。

(1) 探究テーマ [児童虐待と児童相談所]

(2) 探究内容

日本における児童虐待相談対応件数の増加を受け、児童相談所の現状から見える課題とその改善策およびキャリアを通じたアプローチ方法の探究を行いました。私が考えた課題は、児童相談所職員(児童福祉司)の新人率の高さと職員の不足です。この課題について調べるにあたり、原因は職業自体の休職・離職率が高いところにあると考え、改善するためには勤続年数を増やすことが一番であると結論を出しました。また、心の不調による休職率が全産業に比べ20%以上高いことから、そこに焦点を当てて改善策を考えました。主な改善策としては、メンタルヘルス対策の徹底(他地域の児童相談所との連携、適性を踏まえた業務の割り振り、外部専門家によるスーパービジョンなど)が挙げられます。メンタルヘルス対策の徹底により、職員の抱える不安は軽減され、休職から離職へと繋がるケースは減ると考えたからです。また、職員の不足が課題となっているこの職業では時として、ひとつの児童相談所だけでは対処が難しい状況に陥ることも考えられます。そんな時、すぐに他の機関にヘルプを出せるような仕組み作りも、この課題の改善、ひいては児童虐待数の減少にも繋がると感じました。課題の改善に貢献するため、私は児童相談所職員として現場の状況を学び、対応し、改善点を探すことで、職員が働き続けることのできる環境作りに尽力したいと考えています。そうすることで、多く子どもたちや保護者の方々が良い方向に向かうよう、手助けのできる児童相談所になると考えました。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

社員の方々の働く様子から、将来の自分の在り方について、一定の方向性を見出すことができました。また、仕事や職場についての印象が変わり、今後仕事を探す際には業務形態や職場の様子、施設なども参考にしようと思います。ベネッセさんの職場環境はアイデアがたくさん生まれそうで、素敵だと感じました。そして、強い思いが人々を支え成長させるということも学びました。探究については、児童福祉司の配置基準見直しが良いことであるのに悪いことのように聞こえるかもしれない、というご指摘から、誤解が生まれないような言葉選びをすることの大切さを学びました。また、最も伝えたいことを一貫して話す、伝えることが大切であることを学び、自らの探究内での課題の改善策やメッセージなどを再考するきっかけとなりました。今回、ベネッセさんを訪問することができてとても良い経験になりました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

私がMC探究Ⅱを通して学んだことは、世界には様々な課題があり、それぞれを解決すべく真剣に向き合い続ける人達がいるということです。探究テーマ設定にあたり様々な日本の課題を調べましたが、NPO法人などの団体や個人、国などにより支えられ、課題改善に向かおうとしているものがほとんどでした。そんな中、果たして自分に何ができるのか、どう貢献していくのか考えることは非常に有意義なことであったと思います。ただ、考えたり発表したりすることと実現することには1と100では表せないほどの差があり、自身の探究を通じてそれを深く痛感しました。課題に有効な一石を投じるためには現状を多方面から見、対応する知識を身につけた上で行動する必要があるからです。また、クラスメイトや代表発表の方々の発表にも学びが多くあり、自分では思いつかないような課題の改善策、アイデア、そしてその人自身のキャリアなどを通じ、新たな考えがたくさん芽生えました。日々変わりゆく世の中ですが、身の回りのことや楽しいことだけでなく世界情勢や日本の現状などにも積極的に目を向けてこれから先の自分の人生を築き上げていこうと思います。

(1) 探究テーマ [少子高齢化対策]

(2) 探究内容

少子高齢化対策について調べていくうちに私は晩婚化が一つの原因であると考えました。そこで私は少子高齢化の課題の深刻さを伝えるために、どのような問題が少子高齢化から起きるのか、さらに高齢者率の増加や働き手世代の減少のデータを調べた結果、私は自身のキャリアを通じて結婚相談所で出会いの場を増やすことで少子高齢化の解決に少しでも貢献しようと考えました。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

会社の経営や社員のストレスをいかに軽減するかなど、普段の学校生活ではなかなか学ぶことができないことを学びました。具体的には社内のプラネタリウムを一般の方が使っていない時に社員の昼寝スペースとして有効活用したり、社内食堂のメニューを健康的なものにするなどです。ストレスを軽減し、より良いアイデアを出すための工夫を感じ取ることができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回のMC探究で日本には様々な課題があることを知りました。私は特にテーマ選びに苦労しました。日本には様々な問題がありすぎて一つに絞ることがとても難しかったからです。その中でも色々な問題の原因となっているものが少子高齢化でした。現在の不景気や若者の負担の増加による自殺者の増加などはこの問題から生じる深刻な問題だと知りました。このような問題に取り組む際、自分があまり関わらない解決の仕方 (国に対する提案など) を当初は考えていたのですが、自身のキャリアを通じて課題に取り組んでいくことが重要だと知りました。

(1) 探究テーマ [日本の農業における課題]

(2) 探究内容

日本は、若者の農業従事者数の減少によって食料自給率の低下が引き起こされており、若者に農業の大切さや面白さを伝えて興味を持ってもらう方法や、その他にも日本の農業を発展させる可能性がないか探究を行った。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセホールディングス]

(4) (3) からの学び

問題提起からその解決法に至るまでのプレゼンを相手に分かりやすく伝える方法と、プレゼンを行う際には双方に確かなメリットを提示することが必要だということを学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分の興味がある問題について、時間をかけて調べていくことで、今まで考えていた以上に複雑な事柄が絡まり合って問題が引き起こされていることに気づいた。また、それをまとめたプレゼンのフィードバックを頂き、どのように改善することが必要かを学ぶことができた。日本の問題について深く考え、自身が将来どうしていきべきか考えるきっかけになった。

(1) 探究テーマ [不登校の子における受験ハードルの高さ]

(2) 探究内容

不登校の子の受験ハードルが高くなる背景を分析し、そこから有効な改善策(ハードルを下げる事が出来るアプリの構想)を提案した。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

プレゼンの技術であったり、また、自分の作るものを紹介するときに、他のものと比較したうえで自分の作るものにしかない特徴や良いところを紹介することで、より多くの人に使って貰えるものになりやすいと教えていただいた。そのことから、あらゆるものごとにおいて、別のものと比較することの大切さを学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱでは1年生のときよりも深くプレゼンに関する技術について学ぶことが出来た。例えば、企業の方へ見やすいスライドを作るために、インターネット等でプレゼンスライドの基本を調べて、工夫をこらすことが出来たり、また、話すことの組み立てや順番を聞き手の頭に入りやすくなるように工夫したり、さまざまな情報を論理的道筋を立てて活用することが出来たりした。ここで得られたプレゼンの技術をより洗練されたものにするためにも、このようなプレゼンの機会があったら、今回よりも多くのことを様々な媒体で調べ学びを深めていきたいと考えた。

(1) 探究テーマ [スマホ依存症について]

(2) 探究内容

スマホ依存が、増える原因とその対策について調べた。原因は、スマホの利便性や、持ち運びやすさなど。コロナ禍による暇な時間が増え、家で一人であるのが寂しい人が増え、スマホを構う時間が増え始めたのも一因。この問題の解決、スマホ使用時間を減らすために、スマホケースにロック機能をつける等のアイデアを考えた。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

最初に目次を作ることによって、見る相手が見やすくなるなどの多様なプレゼンの技術や、それをするによって発生する相手の理解のしやすさ。また、内容としては、自分がした「貴社のアプリに、スマホを構わせないようにするシステムを作る」という抽象的なプレゼントコメントに対して、そのアプリにはアプリの特性があるというような指摘をして下さり、そのような考え方があると知ることができた。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

自分は、高校になってからよりスマホを使うようになって、なぜ自分のスマホを持つと、依存するようになってしまうのか気になっていた。2で示したような理由があることを、今回の探究活動で知ることができた。また、周りにもスマホ依存に困っている人がたくさんいるということがわかり、よりそのような人を減らしていきたいという気持ちが強まった。

(1) 探究テーマ [ゲーム依存症]

(2) 探究内容

スマホの普及により、ゲーム依存症にかかる人が年々増加している。その問題を解消するために更生施設を設ける。施設内ではスマホを患者から遠ざけ、患者同士がコミュニケーションをとり、症状改善を目指す。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

体調不良により欠席した。企業の方に発表し、アドバイスを貰うことが出来なかったのが悔しくてならない。プレゼンの作成、練習の影響で睡眠時間が極端に減少してしまったことが要因であると考えられる。今後は生活習慣を見直していきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

普段は社会問題などについて考える事がなかったが、探究を通してそれらの問題をより身近に感じるようになり解決策を日常的に考えるようになった。特に、前述したゲーム依存症などのインターネットに関連した社会問題は深刻であり、それらを解決する意欲が高まった。そして就職後の社会活動への関心がより高まった。この探究で得た知識や経験を進路選択に活かすようにしたい。また、機会があれば、学校外でもこのような活動に取り組みたい。

(1) 探究テーマ [日本の教員不足問題]

(2) 探究内容

日本の教員不足問題について実際に起きていること(授業の質の低下や生徒と教員との関わりが減るなど)と、解決するために自分・企業(ベネッセ様)ができること(教員の働き方改革の推進や教員向けの指導マニュアルの作成など)をまとめめる。

(3) 訪問先 [株式会社ベネッセコーポレーション]

(4) (3) からの学び

- ・コミュニケーション能力(自分から積極的に話しかけること)を大切にすることで、より良い活動になる。
- ・質問の質(一般的なことだけでなく例外にあたることについても聞くなど)をあげることで、より中身の濃い作品になるように相手に良い影響を与えることになる。
- ・具体的に物事を考えることで、抽象的に見ていたときと比べて、新たなことを発見することができる。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

身近な問題について、データ等活用して調べてみたら、深刻な問題になっていることに気が付いた。企業訪問や探究発表会などを通して、様々な問題や課題に対して国民全員が真剣に向き合い、解決に向けて各々ができることをやっていくことが大切だと学んだ。自分は将来教員になり、少しでも現状を改善できるように、問題を抱え込むのではなく積極的に社会に発信し、問題解決に向けていきたい。また、問題解決につながるように教員の働き方改革をもっと推進していき、教員の環境をより良くし、教員になりたいと思ってもらえる人が増えることを期待する。

(1) 探究テーマ[農家の抱える問題]

(2) 探究内容

農家の抱える問題を解決するための取り組み。具体的には、日本の食料自給の低さに着目して地産地消を促すための方法を多角的な方面から考察してそれをまとめて発表する。地産地消をうながすことにより 農家の収入上昇が見込まれ、将来農家を志す人が増えると思った。地産地消とは、地元で生産されたものを地元で消費するという意味。近年、消費者の農産物に対する安全・安心志向の高まりにより注目されている。

(3) 訪問先[数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

社会の仕組みを体系的に学び、農業問題に関する考察を深めることができました。具体的には、会社説明会で数研出版様の成り立ちや企業努力や経営方法など社会の仕組みを知ることができました。また、数研出版様からのアドバイスで、自分の発表で不足していたこと、例えば原稿を見ないで話すと良いとアドバイスをいただき、今後の発表に活かしたいと思いました。また、誤字脱字が多いことや、スライドで写真を使っていないなどの実用的で、実践的なアドバイスをいただきました。このことを肯定的に受け止め、日々精進したいです。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

答えのない問いを解決するための、多角的な方面から考察をすることができました。具体的には、農業問題は蜘蛛の巣のようにさまざまな問題が絡み合っていてできており一つの視点だけでは解決できない事を知りました。農業のことだけではなく多くのことを学び、多くの視点を身につけ、農業問題を解決していきたいです。

(1) 探究テーマ [日本のヤングケアラーについて]

(2) 探究内容

日本のヤングケアラーの現状の深刻さの確認、私たちができること、教師という職業からヤングケアラーにどのようにしてアプローチができるのか、そのアプローチが有効な理由。

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

身近にいる人を対象としたアンケートの有効さを学びました。私はインターネット上からしか情報を得ていませんでした。しかし、数研出版様からインターネット上の情報より、身近な人から直接得ることができる情報の方が、より信頼することができるのではないか、というご指摘をいただきました。これからこのようにプレゼンなどで人に私の意見や考えを伝える際には、今回得たことを活かしていきたいです。また、プレゼンとは関係がありませんが、私たちが使っているチャート式の作成途中のものを見ることができたため、とてもワクワクしましたし、普段使っている参考書などを作るための過程の大変さを学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

近年世界全体が抱える問題として挙げられているヤングケアラー。しかし、私はそれをどこか上の空で聞いていたような気がしていました。だから、今回のMC探究Ⅱを通してヤングケアラーについて深く知ることができました。例えば、日本のヤングケアラー問題の現状です。私は以前までは、どこか遠い国の話なのではないかと思いついていました。しかし現状はそれと異なっていて、日本の急激な少子高齢化に伴って多く存在しているそうです。もしかしたら私のすぐ近くにいるかもしれないということに驚きました。また、今回はクラス代表として選抜され、高田高校1、2年生の前に立って発表を行いました。自分としては緊張のせいかわりに練習通りにはいかず悔しい思いをしましたが、とても貴重な経験ができた満足しています。今回の経験を活かして、プレゼンテーション能力の向上にさらに尽力したいと思います。3学期のMC探究も学年発表があると聞いたので、今回の雪辱を晴らすべく、しっかりと下調べや資料作りを早い段階から行い、堂々と発表ができるように頑張りたいと思います。

(1) 探究テーマ [日本の教育格差]

(2) 探究内容

今現在日本にある様々な問題の中から私たちにもっと密接に関わっていると考える教育格差について探究を行いました。日本の今の教育格差の現状や世界と比較した際の違いを調べ、特に家庭環境による格差について着目しました。そこから見えてきた課題の根本的な原因を探り、課題解決に向けた方策を考えました。政府としてできることから個人単位でできることまで、そして私のキャリアを通して何ができるか将来を見据えながら模索、探究していきました。

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

東京研修で数研出版さんに探究のプレゼンをさせていただいて、アドバイスもたくさんいただき、そこから色々なことを学ぶことができました。私は家庭環境による格差について主に探究を行い、格差解消に向けた取り組みとして教育バウチャー制度の導入することやSNSでの積極的な情報発信をすることなど教育の機会を平等にすることを目的とした内容を話しました。そのアドバイスとして、貧困状態にある家庭の子どもは教育の機会を必要とする前に家庭への包括的なケアを求めている、そこへの取り組みを行うべきではないかということや、現実として地方や山間部では塾の数が少なく、そういった学生に対しての支援を考えるとよりよいと言ったアドバイスをいただきました。私は教育という点でしかこの問題をみておらず、もっと多角的な視点でこの問題を考えることが必要だと言うことを学ばせてもらいました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今年のMC探究で世界・日本の諸問題を考えてみて、様々な視点から物事を見る大切さを学ぶことができました。単に事実だけから問題を推察するのではなく、しっかりと検証されたデータや根拠に基づき分析をして考える必要性を強く感じ、データサイエンスや情報の学習をより一層行なっていきたいと思いません。教育格差の解消にはひとりひとりが問題を自分ごととして捉えることが重要だと思い、これからこの課題に対してできることを考えていきたいです。

(1) 探究テーマ [日本の奨学金問題について]

(2) 探究内容

現在、日本の多くの人々が奨学金を利用して、それが日本の若者たちの負担となっています。その改善策として一律給付型の給付金にすることや学費の引き下げ授業料免除などを行う必要がありますが、個人としてできることはそう多くありません。そこで、私は弁護士として『任意整理』『個人再生』『自己破産』などでさまざまな問題を抱える人々を手助けし、この問題にアプローチしていきたいと考えました。

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

数研出版様から、『アンケートを取ったり、周りから意見を聞いたりすることで、主張の信憑性の向上に繋がる』というフィードバックをいただきました。このいただいたフィードバックをもとに次の探究活動では、主張を補強するための意見などを取り入れたいと考えました。また、会社の見学では数研出版様がどのようなところで工夫しているか、チャート類のできる工程などを知ることができ、とても興味深く感じました。チャートの考え方や解法の確認の仕方など、勉強面でも多く学びを得ることが出来ました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

この探究活動では、社会で引き起こされている問題について考え、調べ、それを自分の言葉でまとめたり、グラフなどを用い主張の補強などをしてきました。この全体の中で、準備の大切さを学びました。これまでも、何か活動を始め際には、準備を欠かしていませんでしたが、探究活動を通して準備の大切さを再認識しました。企業での質疑応答等の即興力も確かに必要です。しかし、発表に向けての下準備やどうすれば企業の方々の目を引くものになるのか、事前に準備することがより重要だと感じました。この『準備』という活動の中で気をつけたことがいくつかあります。

その一つに主張の根拠を明確にする、ということです。根拠が曖昧だったり、信憑性に欠けるものだったりすると、主張が崩れてしまいます。そうならないためにも根拠を信頼できるサイトから抜き出したり、さまざまなデータを比較し、それをもとに自分で作成したりしました。

またスライド作成にあたり、見やすいものにする、ということに気をつけました。文字ばかりのスライドや余白が少ないスライドは、見にくく、資料としては最悪です。そこで私はデータを中心にスライドを作り要点を端的にまとめることで、わかりやすいスライドを作りました。言葉では説明しきれないことをスライドに打ち込むことで、すっきりとしたものとなりました。

このようにこの活動を通して準備の重要性を理解することができました。今後も進路に関する活動も出てくるとはと思いますが、まず準備から意識を変えて活動に取り組みたいです。

(1) 探究テーマ [日本の寄付金の少なさについて]

(2) 探究内容

日本は先進国であるのに他の先進国よりもなぜ寄付金が少ないのか。解決策は募金活動をする時に集めたお金をどんな用途で使うのかを可視化する。これは募金をしてもお金を悪用する人がいると考える人がいるため。

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

寄付金が少ない理由は日本人の自己責任意識が低いことやお金について学ぶ時期が遅いからだと思っていたが、その理由の他にも海外には寄付をすることで減税など様々な政策があることが分かりました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

日本の課題を調べる中で日本には本当に様々な問題があり深刻だと思いました。例えば、今回、私が調べた寄付金の問題だとしたら世界の国々で助け合わなければならないのに本来助けなければならない先進国で慈善活動が盛んでないなど致命的な問題だと感じました。またこのような問題は一人一人の意識の変化で改善が可能であるので私自身も意識を変えていくべきだと思いました。そのためにも社会に貢献できるように職業からもアプローチしたいです。

(1) 探究テーマ [日本の教育格差について]

(2) 探究内容

教育格差がもたらす様々な社会的障害とその格差の是正の方法を、学生の視点で再現性を重要視して探究していく。

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

データを用いて説明する際に、既存のアンケート結果を用いるだけでなく、友人や家族といった自分の身近な人間を対象としたアンケートを実施することによって自分の探究内容を深められるだけでなく、使用する情報の信頼性、情報から得られる己の主張を構成する根拠を補強することができることを学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分自身の周りに生じている様々な社会問題に触れ、それをどのように解決できるか、社会問題を構成している原因は何なのか、それをインターネットのデータの信憑性を、出典などを調べたりして審議したりし、複雑に絡み合う社会問題を解決する糸口の発見を、自分だけでは行き詰まりを感じた時に、友人や家族からアドバイスを貰い、そこから得られる新たな視点を用いて自分なりの社会問題解決に対するアプローチの方法を学んだ。

また、データの信頼性などを審議するにあたり、何が信用できる情報なのか、何が信頼できない情報なのかをグラフやロジックの穴を指摘したりして判断できる技能を身につけることができたので、自身のネットリテラシーも向上した。

(1) 探究テーマ [日本の学力低下について]

(2) 探究内容

世界的に見ても国内で見ても学力低下が著しいという問題に対して、板書式授業という学習方法を見つめ直し、教師というキャリアを通してインプット時における動画式授業を提唱します。動画式授業は大きく分けて4つのメリットがあり、1つ目はインプット時間の短縮、2つ目は高い学習効果、3つ目は優れた先生の授業をみんなが受けることができる点、4つ目は先生の負担の減少です。学習の定着率についても、アメリカの国立訓練研究所が提示するラーニングピラミッドによれば、動画学習や体験型授業の増加によっても、動画式授業のほうが、定着率が高いと言えます。

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

東京研修での企業訪問の際、動画式授業が反転授業に似ているが、実際に反転授業に成功している学校は少なく、導入できている割合は1割に満たないという現状を教えてくださいました。ここから反転授業と動画式授業を比較することで、動画式授業において、授業中に主体的に授業動画を見ることが難しいという現状が見えてきました。そこで動画式授業において、学習意欲を維持できるような仕組みを研究、追及していくことが今後の課題です。

また、プレゼンを作る際、ネットからのデータだけでなく身近な人などからのアンケートを用いることでも、より説得力のあるプレゼンを作る一つのポイントということを学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

学力低下という問題に対して新たな学習方法として反転授業をうまく活用していくことが今後の課題ということを知った反面、反転授業が全ての偏差値帯の学校で導入可能ではないため、他の学習方法も模索していく必要があると思いました。

また、教師というキャリアを通して学習方法を一新するとなると学習指導要領の見直しも必要だが、超有名講師の意見ですら反映されないという現状があるため、教師として学習方法を一新する手段についても模索が必要と感じました。

(1) 探究テーマ [女性放射線技師の不足問題]

(2) 探究内容

私が設定した課題は、女性放射線技師の不足問題です。世間では放射線に対して、キケン、妊娠・出産に悪影響、事故・原爆など、良い印象を持っている人がほとんど居なく悪い印象が根付いていることが、この課題の主な原因としてあげられます。また、この課題が深刻化すると、乳がんの検査に来る人が減り、さらに乳がん患者数を増やすことに繋がります。そのため、この課題を解決するために、第一に自分が女性放射線技師になる事が有効だと考えました。これは「女性放射線技師の不足」という課題解決に直接的にアプローチできる良い方法だと考えました。また、一人の放射線技師として、世間にこの課題の現状や深刻さについて伝える事もとても大事だと思います。さらに、実際に放射線技師になる事でしか得ることができない詳しい情報や、世間にあまり知られていない真実などを、現代で普及しているSNSを使って発信していくことで、より速く、広く、効率的に世間に広める事が出来るのではないかと考えました。それに加え、地域内での講演会なども実施することによって、自分の身近なところから、少しでも放射線や放射線技師の仕事について興味を持ってくれる人を増やすということも課題解決に有効な解決策だと言えます。これらの課題解決を実現していくために、東京研修で学んだことを活かして、これからもさらに知識を深め、課題解決に努めていきたいです。

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

数研出版様では、この課題が深刻化している地域とそうでない地域があるということを知りました。今までは地域による差はないと思っていましたが、企業訪問を通して改めて課題の解決策について深く考える事ができました。今後さらに自分のキャリアに繋げて課題解決に貢献していこうと思います。ありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱでは、日本または世界という大きな規模で自ら課題を見つけ、さらに自分のキャリアにアプローチして課題の解決策を考えました。自身のキャリアを通して解決策を考えるのは初めてでとても難しくたくさん苦戦しました。しかし、何度も検討し、悩んだことによって自分の今後の進路や将来についても今まで以上に真剣に考える事ができたのでとても良い経験になりました。また、自分自身だけでなく、日本そのものについてや、日本が抱える重要な問題などにも多く触れる事ができたので良かったです。今回の東京研修、企業訪問で学んだことを今後のキャリアやMC探究にも繋げていきたいと思っています。さらに、企業の皆さんに向けて自身のテーマのプレゼンテーションをし、貴重なアドバイスや感想をいただいた事でプレゼンや課題解決に関する改善点が新たに増えてきたので、今後もこの活動を活かして今回設定した課題以外にも様々な課題を探し出して、課題解決に挑んでいきたいと思っています。

(1) 探究テーマ [日本の情報化の遅れについて]

(2) 探究内容

情報化が進む現代で、世界と比べ日本の情報化が遅れている現状とその原因、及びその解決策について

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

主に若い世代の人を中心に、情報化について理解している人が少なく、この問題の危険性があまり注目されていないので、中高生に向けた発信をしていくことが大切であること。また、高校の授業の内容ではあまり詳しいことを学ぶことが出来ないなので、授業外で知識を得られる機会やイベントなどを作り、理解度を高めることが重要であること。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

自分が好んでいたり得意である分野に関しては、深く知ろうとしたり様々な問題点について理解しようとするため、全ての人が同じ問題点に焦点を当てているわけではないので、それを知らない人に認知してもらうために「重要性」を一番に伝え、「ターゲット」を絞ってその人達に合ったパフォーマンスをすることが重要であること。また、自分の進路や職業選択と関連付けて考えると、IT技術を学ぶことが大切になると共に、それを教える技術が大切であることに気づいた。そのため、大学では情報の科目を学ぶことと教育を学ぶことの両方に力を入れたい。

(1) 探究テーマ [プラスチックゴミ問題]

(2) 探究内容

世界の大きな問題であるプラスチックゴミ問題を取り上げました。世界ではプラスチックゴミの量が増え続けています。この原因としてプラスチックを原料とする製品が多いことや、水に溶けない、紫外線によって崩れる、腐らないという性質を持っている為、マイクロプラスチックとなって残り続けてしまうということが挙げられます。実際、プラスチックの生産量は増え続けており、2050年には現在の4倍に達すると言われていています。食品や衣服など私たちが普段頻繁に使用するものはもちろん、洗顔やメイク用品にもマイクロプラスチックが含まれており、これを解決しなければ世の中のプラスチックの量は増え続け、問題を解決するのが困難になると考えられます。そのために私は、商品開発に携わって課題解決にアプローチしていきます。具体的にはプラスチックの代替材料となるバイオベース素材のプラスチックの開発をしたいと考えています。バイオベース素材は、最終的に二酸化炭素と水に分解されゴミとして残らないため、プラスチックゴミ問題の原因のひとつを解決できます。また、分解したことによってできてしまう二酸化炭素も植物栽培の段階で使われるため、環境にやさしい素材だと言えます。また、すでに生産されたプラスチックをゴミにしないためには、リサイクルをする必要があります。しかし、製品のリサイクルの仕方がわからなかったり、面倒臭いと感じてリサイクルをしないという問題もあります。これを解決するために、分別や解体がしやすい設計に変えるなどの対策も行えると考えます。近年、ストローやカップを紙製に変える飲食店が増えたり、ビニール袋が有料になったりと、プラスチックゴミ問題解決のための対策がされてきましたが、問題はまだまだ深刻なものであり大きな解決策にはなっていないように感じます。プラスチックという素材と同じように加工、使用ができて環境にもやさしい素材の開発が可能となれば、この問題の解決に大きな影響を与えることができると考えます。

(3) 訪問先 [数研出版株式会社]

(4) (3) からの学び

数研出版の方々からは「自分の将来と結びつけて世界の問題に目を向けられてよかった」というフィードバックをいただきました。今まで世界の課題について学ぶ活動は多くありましたが、自分のキャリアと結びつけるということは初めてで難しいと感じる部分もありました。しかし今回の訪問で、課題を自分ごととして捉えることは重要なことだと改めて実感できました。今後、自分のキャリアが他の問題の解決にも結びつけられないか、他の方法でプラスチック問題を解決できないかなど、様々な視点から世界の問題に目を向けることが大切だと学ぶことができました。まだまだ目を向けていない世界の課題は多くあります。それら全てについて深く探究していくことは難しいかもしれませんが、どのような課題があるのか把握し、自分ごととして捉えて世界の問題に向きあっていきたいです。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱでは課題を設定し、自分のキャリアと結びつけてアプローチの方法を考えました。課題と自分のキャリアを結びつけるのはとても難しく、今まで習ってきたような一般的な解決策ではなく、独自の視点から考えていく必要があったのでスムーズにはいきませんでした。自分ごととして課題にアプローチしたり、自分のキャリアを深く考えることができました。調べればなんでも知ることができる時代に、自分で考え、実行するためにはどうすればよいのか深く探究していくことが大切だと学びました。また、探究を続けていくことが私たちの大きな成長につながると感じました。

(1) 探究テーマ [野生との共存]

(2) 探究内容

日本最大の哺乳類、クマを中心に野生動物と人間の双方が命を脅かされることなく生きるためにはどのような対策をとることができるのか、自分の視点を中心に考える

(3) 訪問先 [横浜ゴム株式会社]

(4) (3) からの学び

自分が探究してきたことや自分の気持ちを聴衆の方々に上手く伝えるということはとても難しいことであると感じました。伝える力、表現する力はまだまだ伸ばせると考えました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自ら探究テーマを決め、自ら進んで考え、発表を行う、という一連の活動はこの先大学生、社会人となるにつれて多くなってくると思います。私は高校生になって、このような活動を初めて経験しました。今は学習のことだけで色々なことに手が回らず、将来が少し不安に感じますが、今回の経験から、物事に取り掛かる時、準備や情報を集める、計画を立てて活動を行うよう努力したいと思います。

(1) 探究テーマ [人間の活動と環境]

(2) 探究内容

現在地球上で起きている環境問題について人間の生活を結びつけて、どうして起こったのかをまとめました。また現在行われている活動や新しい改善策を考え、資源を大切にすることの大切さや人間の今後について考察しました。

(3) 訪問先 [横浜ゴム株式会社]

(4) (3) からの学び

企業では、環境保護を考えながら、より良い製品を作るために製作過程や製品の構造に工夫を凝らすなどの活動をしていることがわかりました。また、ものを作る時に、製品や環境にどのような思いを持って仕事をしているかを聞かせていただきました。活動を行うときは、工夫をすることでどんな良いことがあるかよく考えて行動するなどして今後に活かしたいと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

地球上で起こっている問題について仕事からのアプローチでなくても募金やボランティアなど色々できることがあるとわかりました。自分には何ができるかを様々な視点から考える時間が作れたのでとても有意義な時間となりました。1人でできないからやらないという考えではなく、周りを巻き込んで活動する大切さがわかりました。限界を自分で決めず挑戦していきたいと思います。

(1) 探究テーマ [ゴム生産における現状]

(2) 探究内容

発展途上国で原料が生産された後、先進国で加工されて使われている代表的なものとしてゴムを取り上げ、今起きている現状と改善するために先進国側が何をしなければいけないのかを調べました。

(3) 訪問先 [横浜ゴム株式会社]

(4) (3) からの学び

タイヤは年々少しずつ形を変えて性能がより良くなるように開発されてきていることを知り、毎日見ているものでも日々進化していることを実感しました。実際に企業の方々を前に発表させていただいた際にご指摘いただいた、根拠を大事にして発表することの大切さを学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

昨年の探究活動とは異なり、個人で取り組むことやテーマ設定で大変苦労しましたがやりがいがありました。時間をかけましたが、プレゼンテーションは納得のいくものだとは言えないものでしたが、企業の方に温かく迎えていただき、リラックスして発表することができました。

(1) 探究テーマ [傷害件数の増加]

(2) 探究内容

傷害件数が世界的に増加している原因を調べた結果、スポーツの練習時間の増加や慢性的な怪我の増加、スポーツビジネスが発展していない国における医療機関との連携不足などに課題があるとわかった。この課題に自分が将来どのようにアプローチできるのかを考えた。

(3) 訪問先 [横浜ゴム株式会社]

(4) (3) からの学び

プレゼン本番で自分が伝えたいことがコンパクトに言えなかったり、訪問した企業と自分の探究テーマの関連性を十分に示せなかったりというミスがあったので、本番を想定した準備をもっと多くするべきだったと感じた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

具体性を強化するために、さまざまな角度から事実を提示して自分のプレゼンをブラッシュアップすることの大切さを学んだ。また、企業の方に失礼のないように注意しながらプレゼンした経験が、今後のプレゼン時に余裕を持たせてくれると思った。

(1) 探究テーマ [生物多様性の減少]

(2) 探究内容

人々の生活が便利で豊かになっていく一方で、地球に生存するその他の生物達の生態系が悪い影響を受けている。人間だけで地球のシステムを維持することは不可能なので、いかにして人間以外の地球に生存する生物、地球そのものへの負荷を減らすかを探究する。

(3) 訪問先 [横浜ゴム株式会社]

(4) (3) からの学び

- ・材料の段階で環境に配慮した活動が行われていること
- ・ガソリン車から電気自動車になることでタイヤのあるべき形も変化しなければならないこと
- ・タイヤ内部の詳しい仕組み
- ・戦後の産業発展の歴史
- ・企業で行われているリサイクル活動の難しさ

私は、日本や世界の産業の過去、現代、そしてこれからについて様々なお話しを聞くことができた。

特に印象的だったお話は、タイヤのあり方の変化である。エンジン音のする今までの自動車とは異なり、静かな電気自動車はタイヤの音が目立つようになる。横浜ゴム様はこれからのタイヤは、いかに静かであるかが重要になるとおっしゃっていた。私はその事を知り、これはタイヤに限った変化ではないのではないかと考えた。調べてみると、やはりこういった変化は色々な分野で少しずつ起きていた。例えば、外国人移住者が増えるにつれ、マンションやアパートのグローバル化が行われていたり、イヤフォンに自動翻訳機能が追加され始めていたり、企業に環境問題への配慮が求められていたりしていることなどだ。これらのことを知り、私は今何の変化も起こさず毎日を過ごしているが、このまま何もしないと、社会に置いていかれ、将来やりたいことができなくなるかもしれないと感じた。社会の変化に敏感になるために、日々ニュースなどを見ることはとても大事だと改めて感じた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回の探究活動は結果的に、自分が将来目指す職業やSDGsのことについて考える活動になった。

今までは、その分野に興味がありその職業なら生活も安定する、という視点で将来を考えていた。しかし今回の探究活動で多くのことを調べ、知り、考えていく中で、自分は本当にそんな理由だけでその職業を目指すことをしていいのかと思った。そして私は、世界には自分の職業からアプローチできる大きな課題があるのだから、その解決に向けて活動したいと思い始めた。今私になりたい職業には多くの知識があり、熱心に研究している人たちしかいないと思われる。だからといって、何も行動せず一生を終えるよりも、大きすぎる目標に向かって、挑戦してみたいと強く感じた。

(1) 探究テーマ [日本の人口分布の偏りと環境との関わり]

(2) 探究内容

SDGs11「住み続けられるまちづくりを」(誰もが安全で快適に暮らし続けられるよう、気候変動や社会課題に適応した強靱な都市を実現するという目標)の達成に貢献することが出来るテーマを考え、探究しました。日本に視点を置き、気候変動は気温上昇、社会課題は人口の集中・過疎化問題を取り上げました。気温上昇は人為起源の二酸化炭素排出が主な原因であること、人口の集中・過疎化地域と二酸化炭素排出量は比例関係にあり、人口分布の偏りは気温上昇を助長していることを見出しました。

この2つの課題の解決策として、大気中二酸化炭素の固定を挙げました。そして、日本の主な二酸化炭素吸収源は森林であるのに、現在の日本の人工林の高齢化は二酸化炭素吸収速度・吸収量の低下をもたらし、二酸化炭素吸収源としての役割を十分に果たさなくなっていることが分かりました。人工林の高齢化の原因は、木材自給率が低いことと林業従事者数の低下により、人工林の手入れや管理が十分に行われていないことです。林業は他の産業と比べて給与水準の低さや新規就業者の低さが問題点として挙げられています。特に、山村地域の平均所得が全国と比べて低いことや若者の新規就業数の低迷は、人口の集中・過疎化問題に拍車をかけています。

これらのことから、林野庁の公務員として都市計画と山村地域の林業のビジネス連携を確立させることで、木材自給率の上昇や林業新規就職数の増加、山村地域の再生化、都市部と山村地域の繋がり強化を促し、気温上昇や人口分布の偏りの改善に繋がることを見出しました。そして、木材をエネルギーや建築に活用する木質バイオマスや木造建築物は、大気中二酸化炭素の固定に有効であったり、廃棄物の発生を抑制したりと循環型社会を生み出し、持続的なまちづくりに貢献します。また、木造建築物は国立競技場を例として挙げても分かるように、美しく個性的な景観を生み出すので、魅力的な都市計画にも有効であるといえます。

したがって、都市計画と山村地域の林業のビジネス連携を行うことは、持続可能なまちづくりや気候変動や社会課題に適応した都市計画に繋がるので、設定したテーマを達成することができると考えました。

(3) 訪問先 [横浜ゴム株式会社]

(4) (3) からの学び

私は探究テーマである「自分のキャリアを通じて社会が抱える課題にアプローチし社会貢献出来るのか」に対して、自分のキャリアを通じて環境課題にアプローチしたいと考えました。貴社はSDGsや環境に対する取り組みを行われており、持続可能な社会の実現に尽力なさっている功績をお聞きすることが出来て、環境課題の解決には社会全体が足並みを揃えていくことが重要になってきていることを実感できる大切な機会になりました。そして、変化し続ける社会の中で、横浜ゴム株式会社の皆様が職に誇りを持ってやりがいを生み出しながら常に努力し続けられている姿を見て、働くことの本当の意義や楽しさを学ぶことができたように感じ、私も将来皆様と同じような姿勢で社会の一員として社会に尽力していきたいと思いました。

また、私の探究発表を真摯に聞き社会課題に対して一緒に考えを交え、私のキャリアに対しても向き合ってくれた皆様には感謝でいっぱいです。新しく得たブルーカーボンという言葉や、私のキャリアを通じた環境課題に対する取り組みに対する貴重なアドバイスで今後の進路の視野を広げたり、交わしたお話の内容を今後の励みにしたり、今回の貴重な機会を生かし、私のキャリア人生を切り開いていきます。改めまして、高校生である私たちにこのような貴重な機会を恵んでくださり、温かく迎え入れて下さった横浜ゴム株式会社の皆様と出会えたご縁を心から嬉しく感じ、感謝を申し上げます。そして、今後の横浜ゴム株式会社様の益々のご活躍と今回出会えた皆様のご多幸を心からお祈りしております。

(5) MC探究IIからの学び (1、2学期全体を通じて)

探究を通じて社会の一員である私が働くことでどのように社会貢献出来るか沢山の時間や思考を費やし、社会を支え貢献出来る社会の一員であること、意思を持って働く・生きることの重要性を学ぶことができました。そして、日々支えて下さっている方々の存在を痛感し、どんな時でも感謝の気持ちを忘れずに持ち続け、今に向き合って生きていくことのありがたさと幸せに何度も気付かされ、感謝と喜びの気持ちで今を生きる姿勢を学び直すことが出来ました。これからの私のキャリアでもMC探究を通じて学んだ姿勢を大切にしていきたいです。

(1) 探究テーマ [For the people all over the world to live happily]

(2) 探究内容

世界が抱える問題の1つとして、差別問題がある。最近少しずつその問題が解決されてきている傾向が見られるが、世界にはまだ根強く残っている。人種差別、障がい者差別、女性差別、アジア人差別などが存在する中で、特に著しいものは有色人種差別である。実際私が探究したアンケートからも、半数近いアフリカ系の人々が日常生活で差別を感じていることがわかった。差別があれば、SDGsのひとつである「10 人や国の不平等をなくそう」を達成することはできない。私はこの問題に着目し、それが起こる原因や歴史、現状について探究し、それに対する解決方法や自分にできることについて考えた。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3)からの学び

私のプレゼンへの企業の方々からのフィードバックから、日本はこのような人種差別問題に対しては上手く対応している方だということがわかった。私は研修前まで、日本人は海外の人を街中で見かけると珍しさを感じたり、彼らを「部外者」のように捉えてしまう傾向があるため、海外の人にとってはあまり居心地はよくないのではないかと考えていた。そのため、海外の人とも仕事をする機会があるJAPEXの方々から、日本に住む海外の人は他の国に比べて差別を感じるということが少なく、安心した生活がおくれているということを伺った時はとても驚き、自分自身が日本に対しての固定概念を持っていたということを実感した。企業の方々によれば、日本人は他の人の気持ちを理解したり、空気を讀んだりすることができる人が多いからであるそうだ。

最近日本へ来る外国人観光客がとても増えている。それは日本人の人の良さも関係しているということが研修を通して分かった。海外の人にも心地よく、安心して過ごせる世界を作っていくために、まずは私たち日本人が彼らを快く受け入れ、違いを認め合い、受け入れ合うことが最も大切だと学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

昨年は地域貢献を中心に探究を行っていたが、MC探究Ⅱでは世界に目を向けたため、より複雑で、深く考えるべきことがたくさんあった。私は人種差別について以前から関心があったため、今回はそれについて深く考える良い機会となった。この問題は国籍や年齢によっても大きく意見が分かれると考えたので、より多くの、深い情報を集めるように気をつけた。これにより、探究活動を通して様々な方々から意見を聞くことができたため、自分の考えも大きく広げることができ、様々な人の意見を受け入れ合う大切さを学んだ。様々な人の意見を聞くという点で、SNSがとても役に立った。今はSNSを通じて誰でも意見を共有し合うことができる。誰もが自分の意見を飾らずに共有できるSNSは、ひとつの主題に対する世界中の人の本心をより知ることが出来るツールの一つであると思う。そのため、今回の私の人種差別に対する世界中の人の意見を知りたいという目的にとっても合っていた。今まではSNSを利用して探究活動を行うことに抵抗があったが、多くの人の本心を知り、それに基づいた解決方法を考える上ではとても役立つと実感した。この探究を通して、このような探究方法についても自分なりに工夫することができ、探究内容以外の面についても学ぶことができた。

(1) 探究テーマ [医師の過労]

(2) 探究内容

医師の過労について調べていると、原因の一つに医師の数が少ないことがわかりました。医師の数をどうすれば増やせるのかという課題について、医学部の学生と病院が契約をして奨学金を出してもらおうという解決策を考えました。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

私がプレゼンをさせてもらった時に「医師にもいろんな種類があり、行政医師になら解決できる」と教えていただき、医師の中にも色々な職務があり、行政医師や公務員医師といった行政にも関係している職業があることがわかりました。また、他の生徒のプレゼンでは、起業する時の資金繰りまで具体的に考えていたのに対して、私は会社の内容ばかりを考え、資金繰りまで考えていませんでした。細かいところまで考えきれていなかったなので、綿密に考えるようにするべきだと反省しました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

探究活動全体を通して、事前の調査や準備が不十分でした。そのため、自分の考えや仮説が浅いままになったように思います。今後は必ずよく調べ、既存の職業を知り、いろんな方向から解決策を考えていきたいと思います。また、医師という職業の大変さを調べることでより一層知ることができました。

(1) 探究テーマ [未接触部族とこれからの未来について]

(2) 探究内容

北センチネル島に住むセンチネル族のように外部との接触を拒んでいる部族「未接触部族」について、現代のグローバル社会や化石燃料発掘等の点から接触は必然と思われる。しかし、外国人差別に対して十分な解決がされていないと思われる現在の日本では、彼らとの平和的な対応や友好関係を築くことが困難であると考えたため、料理人がもつ特性を活かし問題解決を図った。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

普段自分が使っている石油がどのように採取されているのか、またエネルギー資源を扱う企業として現在のエネルギー問題に対してどのような取り組み・対策を行っているのかを学ぶ事ができ、様々な視点から石油を研究していることがわかった。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

探究活動を通じて、世界には解決されていない問題が数多く残っていることを知り、東京研修や発表会から現在の問題に対して多種多様なアプローチが可能であることとその具体的な解決策を学ぶことができた。

(1) 探究テーマ [日本の農業の2025年]

(2) 探究内容

2025年問題が農業に与える影響について考え、その中で就農者の高齢化による人手不足を課題に設定した。課題の原因は、専業農家における曖昧な労働環境、また農業が不安定な仕事であることが分かり、この課題を解決するために労働条件を明確にした会社の設立を提案した。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

私の提案に対して、既に実行している農家の方や法人があるところのご指摘を受け、自分の調べ不足を痛感した。その上で実際の事例を踏まえ、更に上の段階の提案をすると良い、とありがたいアドバイスをいただいた。上記のご指摘を受け、提案した内容を行っている法人・企業を調べ、その上で生じる課題について解決策を考えることを今後の展望とした。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

日本や世界の課題に対して自身のキャリアを通してどのようなアプローチができるかを探究してきたが、自分のやりたいことはこれではないと気付くことができた。自分にどのようなアプローチができるかを考えた結果、直接的なものになってしまい、自身のキャリアと関連性が薄くなってしまったのが反省点だと感じた。他の二学年生徒たちの発表を見て、もう一度自分の就きたい職業でアプローチできる課題がないか考え、自身の将来をより具体的なものにしたと思った。

(1) 探究テーマ [生活習慣病の予防]

(2) 探究内容

日本の生活習慣病の患者数の現状、生活習慣病を発症する原因を調査し、患者数を減らすために自分のキャリアを通じて何ができるか考えました。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

お忙しいところ、私たちの発表を聴いていただき、誠にありがとうございます。良いアドバイスをいただき、より論理性のある発表になりました。学んだこととしては、生活習慣病の原因の1つに「飲酒」を挙げていましたが、適度な飲酒は良いのではないかとご指摘をいただいたことで飲酒のメリットに気づくことができました。実際に東京研修後に適量の飲酒について調べてみたところ、血行促進やストレス緩和、食欲が増進する効果などがあることがわかりました。そのほかにも、社員食堂でのバランスのとれた食事の提供や畳の休憩室が設置してあること、昼休憩の時にラジオ体操を行ったことなど、貴社で行っている健康に関する取り組みを教えていただき感謝しています。大変参考になりました。また石油についてのわかりやすく、丁寧な説明ありがとうございました。とても興味深く、聴けたことを嬉しく思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

私は探究を通じて、主に2つのことを学びました。1つ目は、若いうちから生活習慣病の予防をすることが大切だということです。若い頃の不規則な生活習慣は大人になっても続けてしまうことが多いため、早いうちに改善する必要があります。今までの私は、高血圧症や糖尿病などの生活習慣病を発症するのはまだ先のことだと考えており、自分ごととして捉えておりませんでした。しかし、近年では、若年層の生活習慣病が増加していることを知り、自分自身の生活習慣を見直すようになりました。そこで生活習慣病を発症する原因やその予防方法をよく学び、それを活かして生活習慣を変えることができました。2つ目は、自分なりに改善策を考え、行動を起こすことが大切だということです。私は、MC探究を始める前は国が抱えている問題に対して、自分では解決できないと諦めの気持ちを持っていました。しかし、探究を進める中で状況の深刻さを目の当たりにして解決したいという気持ちが強くなり、問題と向き合い解決策を真剣に考えました。私が考えた解決策では、まだ問題を完全に解決できるとは思いませんが、大学を卒業し保健師になったら、今回考えたことを実践し、少しでも生活習慣病の患者が減るように努力したいと思います。

(1) 探究テーマ [Initiatives to medical underpopulated area.]

(2) 探究内容

課題としてアフリカの国々の乳児死亡率が高いことに注目した。実際、日本の乳児死亡率は0.17%であるのに対して、アフリカでは4.5%ある。この高い乳児死亡率になる原因として、十分な医療ケアが受けられないこと、医療従事者と医療施設が患者の量に対して足りていないことが挙げられる。これらを解決するために私は看護教員になり、また病院と学校を建てる。そうすることによって足りていない医療従事者を増やし、今まで医療ケアを受けられなかった患者を受け入れることができる。さらにこれらのことはアフリカの国で行い、アフリカの人を育てるので後世に続けていくことができ、アフリカの貧しい国を自立させることができると考えた。これらのアプローチの有効性を示すために、それぞれの活動をし、アフリカの国を救った日本人2人を紹介した。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

石油を取り出す方法、SDGsや環境問題を考えた取り組みについて学んだ。採油するのにたくさんの調査が必要となり、たくさんの人が関わっていた。また環境問題を考えた取り組みには、カーボンニュートラルに対応し、CCSやCCUSなどの新しい技術があった。それぞれ排出された二酸化炭素を利用し、隙間に残る石油を押し出したり、有効利用した上で貯留したりする。それぞれの取り組みには多くの人が活躍し、たくさんの専門的な技術が必要な事を学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

1、2学期を通して学んだことは二つある。

一つ目は、協力することの大切さと、偉大さだ。私はプレゼンテーションの発表練習をする時と、自分のプレゼンテーションから学んだ。発表練習の時は英語グループの人と難しいところや不明点をお互いに話し合い解決した。また、他の人のプレゼンテーションを聞き、発音がとても上手な仲間を見つけた時、その仲間に話しを聞くとアドバイスをくれた。その結果、最初のプレゼンテーションはひどいものだったが、仲間のおかげでより良いものにできたと思う。さらに私も仲間の相談にのり、お互いを高め合えた。また、自分が考えたアプローチから、誰かからの協力なしではできないことが分かった。1人ではとてつもない時間と労力がかかり難しい事で無理があるなと思っていたが「国や地元の人と協力して頑張ってください。」と、企業の方からアドバイスをいただいた時、協力すれば1人では難しいと思っていた事でも成功する未来が見え、協力することの偉大さを学んだ。

二つ目は自分の未来の可能性についてだ。2年生になり、具体的な問題と自分の将来就く職業からのアプローチを考えた時、看護教員になるという昔からの夢に加えて、アフリカの国を自律させるために起業し病院と学校を建てるという計画を立てた。これはとても壮大で規模の大きい計画で、2年次のMC探究に取り組むまでは考えてこれなかったことだった。しかし、プレゼンテーションを作っていく上で有効性を示したり、40歳以上の方が2人もアフリカの国を変えたいという一心で国を救ったということを知ったりしたことで「自分にもできるのではないか。」と思った。自分の未来はたくさんあり、なんでもやろうと思えばできるという事を学ぶことができた。

(1) 探究テーマ [日本の労働環境における人材不足]

(2) 探究内容

日本の労働環境における人材不足について原因とその解決方法，IT化についてまとめました。具体的には、原因としては少子高齢化，団塊世代の一斉退職，非正規雇用の待遇の低さなどが挙げられ，解決策としてはIT化による業務の削減や効率化が有効であること，IT化には様々なメリットやデメリットがあることが探究によって分かりました。また，自身のキャリアの中でどのようにこの問題に向き合うことができるのかについても考えることが出来ました。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

見学の際には、石油資源の開発について知らなかったことやカーボンニュートラルについてなど，様々なことを学ぶことが出来ました。また，発表の際には，IT化によって業務に影響が生じる人や，職を失う人のこともしっかりと考える必要があるなどの違った視点からのアドバイスをいただき，自分の探究内容に関してより深く考えることが出来ました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

探究活動では現在の日本の社会問題についての理解を深め，それらの問題に対して自分はどのように解決に貢献することができるのか真剣に考えることができ，発表の場面では，プレゼンテーションのスキルを向上させることができたのでとても有意義な学習をすることができたと思います。

(1) 探究テーマ [日本の物価上昇について]

(2) 探究内容

日本の物価上昇と発電効率の関わりについて

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

私は、物価上昇の解決策として、電気代を抑えるため、発電のコストを下げることを選んだ。発電のコストを下げるには燃料費、維持費だけでなく、電気を運ぶ際の電気のロスを考えることを学んだ。コンセントの直流、交流でもロスが発生する。このように、異なる視点から様々な解決策を出していかなければならないと感じた。まだ日本では火力発電が主流で、太陽光パネルが普及しているとは言い難いので、太陽光パネルのデメリットである初期費用、維持費が高くなる問題をさらに踏み込んで調べていきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

今まで日本の問題について漠然としか知らなかったが、改めて調べてみると、身近なところにも問題が沢山あることが分かった。これは、私たちだけでなく、日本中の多くの人も問題の深刻さが分かっていないところがあると思う。実際、クラスメイトのプレゼンを通して初めて知った問題も沢山あった。そのような問題をただ知っているだけでなく、解決するために動くことが重要だと感じた。一人では難しいことや大がかりなことをする時は仲間に頼りながらも一つ一つ解決していきたい。

(1) 探究テーマ [密猟による野生動物の過度な狩猟と現地の生活難]

(2) 探究内容

世界各地で引き起こされている主に大型動物の密猟について、動物愛護の側面、環境保護の側面のみならず、元密猟者への更生及びその地域の生活水準向上の側面にも着目しながら、密猟による被害や負の側面に過度に誘導されることなく、密猟者自身の生活等を豊かにすることによる解決策を模索・提案する。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

石油資源開発株式会社への訪問以前から、私は石油・資源関連の話題に興味を持っており、既存の知識として、貴社が石油や天然ガスなどの資源を探查し、その開発・生産に取り組んでいることは認知していた。しかし実際に当地を訪れ、研究が行われる過程及び施設の説明・見学を通して新たに得たものはさらに多かったように感じている。中でも自身が最も注目したのは、貴社が石油資源の開発において、環境保護にも積極的に取り組んでいることであった。石油資源の開発が環境に与える影響が少なくないことは容易に想像し得る。故に貴社は環境配慮を重要視し、持続可能な開発を目指して、探查技術の向上や二酸化炭素の削減、さらには自然環境のみならず職場環境さえも向上させようとしていることには非常に驚かされ、感銘を受けた。加えて同社の方々が高い専門知識と熱意を持って仕事に取り組んでいることも肌で感じる事ができた。石油資源の開発・生産の最前線で活躍する貴社の業務は特に技術力が求められるものばかりであり、それぞれの専門分野での活躍なしには成り立ち得ない研究ばかりであると実感した。訪問中は事業説明や見学、様々な質問への返答まで、大変丁寧に行なっていただいたことは感謝にたえない。加えて私の発表に対して、密猟問題の解決策としていたODA 政府開発援助からの支援という内容の欠陥部分をご指摘いただき、ODAの役割や特性に着目しながら、改善点へのアドバイスをを行なっていただき、より自らの探究活動が磨き上げられ、深みのあるものとなった。この度、石油資源の開発にも環境への配慮が欠かせないことや、専門知識と熱意を持って仕事に取り組むことの重要性を学び、JAPEXという企業の存在が日本国にとっていかに大きいものであるかを強く感じる事ができた。また、この経験を通じて私自身の視野がより広がると共に、未来の自国の資源・環境の側面に多くの可能性を感じる事ができた。故にこれからは、石油資源開発株式会社の事業内容や取り組みから学び取ったことを胸に留めながら、自身の進路を見つけ、その能力と成果を少しでも社会に還元し得るような人間になれるよう努力していきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

この探究活動を通じて、私は以下のような学びを得た。

1. 問題の多面性と複雑さ：社会問題は単純に解決できるものではなく、多くの要素がからみあっている。密猟問題について調査する中で、動物の生態や密猟者の背景だけでなく、彼らの居住地域や生活環境なども関係していることに気づいた。故に密猟問題を含め、一般的に問題を解決するためには、これらの要素を総合的に考える必要があることが分かった。
2. 従来の発想からの脱却：密猟問題を解決するためには、密猟者を検挙するという従来のアプローチに頼るだけでは不十分であると感じた。彼らを社会に復帰させることや生活環境の改善も重要な要素である。従来の発想から脱却し新たな解決策を模索する必要性を学んだ。
3. 協力とコミュニケーションの重要性：今回の探究活動では、貴社に対し自身のプランを発表する機会が設けられていた。その際、他者との協力やコミュニケーションが不可欠であることを実感した。自身のアイデアを他者に伝えることや、貴社からフィードバックを受け取ることによって、より良い解決策を模索することができた。
4. 持続可能性への意識：密猟問題は長期的かつ持続可能な解決策が求められる地球規模の課題であり、一時的な取り組みや対策では不十分である。今回の活動を通じて、持続可能性への意識が高まったように感じる。私が起業しようと試みた企業も、密猟の再発防止に向けた長期的な取り組みや社会復帰支援のプログラムを提供することが必要であることを踏まえたものであったが、貴社への発表の過程で課題点も多く指摘していただくことができた。

以上のような学びを通じて、社会問題に対する調査や解決策の模索においては、問題の多面性や複雑さを理解し、従来の発想にとらわれず新たなアプローチを模索することが重要であり、他者との協力やコミュニケーションを通じて持続可能な解決策を追求していくことが必要であるということに改めて強く実感した。

(1) 探究テーマ [ジェネリック医薬品の普及にかかる問題]

(2) 探究内容

日本でのジェネリック医薬品の普及が伸び悩んでいる。その原因として、1つ目に薬剤師のジェネリック医薬品の適切な使用や処方への知識不足。2つ目に医療従事者や患者のジェネリック医薬品に対する安全性や効果への不安が挙げられる。実際に、医師の約半数がジェネリック医薬品に対して不信感や不安を持っている、というデータが中央社会保険医療協議会の2019年度報告によって明らかになっており、薬剤師や製薬会社、厚生労働省がしっかり目に見える形で、分かりやすく適切な情報を発信していないことが理由として挙げられる。これらを解決するために、一般論でのソリューションとして、1つ目に国や地方自治体、製薬会社などが正しい普及活動に努めること。2つ目に薬剤師などの薬学に精通する人たちが正しい情報を共有することが良いのではないかと考えた。また、自分自身としては薬剤師として医薬品に関する知識を吸収しながら普及に努めることで、この課題にアプローチできるのではないかと考えた。具体的な方法として、1つ目に研究開発職として新薬開発の傍らジェネリック医薬品に関わる。2つ目に製薬会社のMRとして、現場に立つ医療従事者の方たちに自社製品の有効性や安全性に関する情報を提供するとともに、ジェネリック医薬品に対する偏見をなくしていく。3つ目に病院や薬局に勤務し、患者さんと直接関わることでできる利点を活かし、一般の人に正しい知識を伝えていく。これらの方法をとることで、日頃から患者と継続的に関わることで信頼関係を構築し、いつでも気軽に相談出来る、かかりつけ薬剤師を増やすことに繋がり、地域の中で人々とのコミュニケーションを大切にすることが出来る。また、大きなメリットとして、国民医療費を抑えることが出来る。一部の後期高齢者の窓口負担割合が1割から2割に増えたことや、高齢化社会における国民医療費の増加を踏まえて、これらの仮説は有効なのではないかと考えた。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3)からの学び

フィードバックを頂いて、医師と薬剤師の連携を深めることが求められ、患者の情報を共有していくことが大切だと知ることが出来た。また、患者自らがジェネリック医薬品を選択できるように、医師が選択肢を提示することで、さらにジェネリック医薬品の普及が進むのではないかと考えた。今回、自分の探究内容とは分野が異なる場所を訪問してみたからこそ、今の様々な問題や課題を知ることが出来たので、とても良い機会だった。貴社は、石油や天然ガスの採掘に力を入れながらも、再生可能エネルギーの技術開発にも携わっていらっしゃることを知り、私たちの生活に欠かせない資源やエネルギーをいかにエコに持続させるか、という考え方が大切だということを学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

個人で一から十まで課題を模索し解決策を考える、ということは、最初の頃の私にとってはとてもハードルの高いことだったが、自分で準備を進めていくうちに自分の可能性や成長を感じることが出来た。東京研修で企業でのプレゼンテーションをさせていただく貴重な機会のために、後悔のないように計画的に準備をする過程で、友人や家族の力も借りているうちに、周りの人の存在の大きさを実感することが出来た。探究内容は専門的で難しいところもあったが、自分なりに解釈をしながらスライドに分かりやすくまとめることを心掛けた。プレゼンテーションにおいては、重要点をスライドにまとめることで話の内容や流れが整然とし、伝わりやすくなることを学んだ。エネルギーの分野においても薬学の分野においても、有限から無限への転換が大きなキーワードとなると大きく感じた。また、一人ひとりが社会の課題解決への態度を改めることが必要だと学んだ。

(1) 探究テーマ [超高齢社会がもたらす2025年問題]

(2) 探究内容

医療分野での2025年問題に着目し、特に懸念される、高齢者や、がんや認知症の末期患者のより良い生活、またそれを一番近くで支えるキーパーソンへのケアを薬剤師という立場から考えた。主な改善策としては、在宅医療専門の医療チームの構成と、アプリケーションによる在宅医療にまつわる相談所の設置である。在宅医療専門のケアチームを作ることで、急な事態に対応でき、また経験を積んでいくことでノウハウが確立され、より患者に寄り添ったケアの視点が持てると考えた。また、アプリケーションではフィードバック後に実際のタッチパネルを作るなど、具体化することで問題点がより明確に出てきて文字を思ったよりも大きくすることや、色をユニバーサルデザインにするなど工夫をしていけると気付いた。これらによって、今回の対象者のどちらものケアが今より充実すると考えた。現在老老介護など介護における問題やそれによって引き起こされる事件のニュースが絶えない。もうそのような事件が起きてほしくないという思いと、患者さんの不安を取ってあげたいという思いを再確認できたことと、これからの自分のキャリアで、活かせるであろう取り組みをこの時期にできたのは大きかった。私たち高校生世代のICTへの強みを活かして、AIも導入して正確性と効率化を図るなど上手く活用しこれらを解決する手立てになることを期待する。

(3) 訪問先 [石油資源開発株式会社(JAPEX)]

(4) (3) からの学び

企業でのプレゼンテーションと討論会を通して、東京研修前のリハーサルでは出てこなかった、質問やアドバイスをいただき、特に経済面やデザイン面、操作性など今までの経験からしか気づくことのできない視点をいただけたのがとても嬉しかったです。それを元に、WEBサイトを自分で作成したり、Google formなどのアンケートを活用した、地域医療の連携を生み出すための意見交流の場を企画することができました。お忙しい中発表の機会を作っていただきありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

去年取り組んだ、地域に貢献する活動から、発展して、日本の将来より深刻になっていくと考えられる、介護、在宅医療での問題について取り組めたことは自分のキャリアについて考えるという面でも様々な視点を持つという経験によって、成長できたと感じます。また探究だけでなく、普段の授業でもそれが自然にできるようになったのがより良かったなと思います。

(1) 探究テーマ [物価の高騰について]

(2) 探究内容

私は、物価高騰を抑えるためにどうしたらいいか、MC探究を通じて考えた。ロシアのウクライナ侵攻、新型コロナウイルスの蔓延など様々な要因から急速な物価高に陥っている。また、「食料品の値段が上がっていて困る」という母の話聞いて、それを解消するためには、国内の食品を無駄にしないことが重要だと考えた。そこで私は税理士としての食品販売企業の経営支援を考えた。税理士として多くの企業に効率の良い商品販売や経営の指導をして関わることで無駄になってしまう食品をより減らすことができると思った。また、これが国内の食料品価格の高騰や、経済にも良い影響が期待できると考えた。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

広い視野が必要だと思った。企業の方から質問や意見をいただいて、自分の視野がいかに狭かったか実感した。今回の探究のように、税理士というひとつの職業に限らず、「自分が本当にやりたいこと」をみつけて、それをどのように社会貢献に繋げていくかを考えることも大切だと思った。そのため、これからはいろいろな職業とキャリアを知り、まずは自分のやりたいことを見つけた上で、自分に何ができるかを広い視野で考えていきたいと思う。また、企業の方からは、物価高騰の原因は時代ごとに様々で、この課題を解決するには、たくさん小さな課題を解決することが必要になるというご指摘をいただき、いかに広い分野の問題に取り組めるかも大切だということに気付かされた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分で世界や日本の課題を見つけ、調べて、その解決策を考えるということはこれからの世の中に非常に必要になってくると思った。しかし、企業訪問でのご指摘から、ただ漠然と世界や日本の課題を考えるだけでなく、自分のしたいことをみつけ、それを通じてどのように課題にアプローチできるかという考え方をすることもできるということを教わった。また、主体的に意欲をもって活動するには自分のしたいことをするのが一番だと思った。そのため、このような探究を通して自分の得意なことを生かせることや、自分に向いていると思えることをみつけ、世界の課題や日本の課題を解決できる人材になるためにこのMC探究での学びを活かしていきたい。

(1) 探究テーマ [日本の野球離れ]

(2) 探究内容

日本の野球離れの原因から課題を見つけ、自分が将来何ができるかを考える。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

発表の時の言葉選びを大切にすること。坊主という言葉は、丸刈りというの
が良い印象を与える。また、夏の全国高校野球大会を開催している朝日新聞社
様から、開催する立場から様々な意見を聞くことができ、貴重な体験になっ
た。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

自分の都合のいいデータを集めることは、とても危険なことだということを
学んだ。自分の欲しいデータだけを調べていたので、多様な視点から考えるこ
とができないと思った。客観的な視点から意見を大切にしていく。また、影響
力のある人の力が必要だと感じた。

(1) 探究テーマ [待機児童問題]

(2) 探究内容

日本の待機児童問題に対してマッチングアプリを用いて解決のアプローチをする。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

朝日新聞社様から利益の上げ方や税金などの問題を取り上げていただきました。実際にどのような形でお客様とお金の取引をするかや保育園との差別化を図るためにどのように国と関わりながら利益を上げるかなど、自分にはない視点からアドバイスをもらえることができ、今後の活動の課題を明確にすることができました。高校生のうちからこのような経験ができたことは大変貴重なことだと思っています。ありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私は小さい頃、将来大金持ちになりたいとかでっかい豪邸を建てたいとか、自分のために何かしたいと思っていました。これらは誰もが考えたことがあることだと思います。しかしそれは、自分のための行いであり、他者からしたらどうでもいいことの方が多いです。

他者にとってさほど重要でないものは、自分以外にはあまり必要としないものでしょう。しかし、人にとって大事だと思われるもの、人のために役立つことは残り続けるものです。エジソンが開発した電球もそうです。私たちが今回行ったMC探究も日本や世界に役立つことを自らが主体となって考えることでした。これらの活動は全て人のためになることです。だから、私は何かを成し遂げたいときは人の為になるようなことをすることを第一に考えることがこのMC探究を通して大事だと思いました。

(1) 探究テーマ [日本人の労働実態 “長時間労働”]

(2) 探究内容

自分が通っていた中学校の先生が、学校には1年を通して県外の学校へICTを活用した授業を発表するプロジェクトがあり、そのプロジェクトリーダーを務めていた先生が、発表間近の時期に体調を崩してしまい、1ヶ月程学校を休んでしまったことがあり、実際部活が終わったあとも教務室は明かりがついていて長い間準備をしているだろうと思っていたので、長時間働き続けることの危険さを身近に感じる事ができたので、自身の身近な人が働いている様子から疑問に思ったこと、これから自分が大人になっていった時にどのようなことが変えられるのかを考えること。そして将来の労働者のことを考えるうえで検討していくべき長時間労働への対策を考えるヒントを得る。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

探究・調査をしている段階では親や学校の先生など身近な人の様子やインターネットの情報でしか知識を得ることができなかった。しかし、実際に働いている人であり、日々世の中のさまざまな情報を最先端で取り入れて世に発信している朝日新聞で働いている方のご意見を聞くことができ、視点の狭さを気付かされ、とても貴重な機会となった。また、長時間労働は一概に良くないこととも言いきれず、実際には長時間労働を補助する制度も設けられており、必要とされる場合もあるため無くしていくべきだとも言いきれないと考える。しかし、根本的に重視されることは労働者の健康、大きく言えば命だと思うため極力長時間としないような対策を考えていきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

正直なところMC探究が始まった頃は自身のキャリアのイメージがまったくつかずテーマを設定することから苦労し、ゴールが見えない状況だった。しかし夏休みの大学のオープンキャンパスに行った際に自分が今後行きたい学部に出会い、そこからキャリアを想像することができ、探究活動の歯車が回り出した。また1年生の地域貢献の際に1日保育士を経験し「働く」という大変さも経験することができたためより一層、研究の質があがり意味のある研究ができた。

(1) 探究テーマ [教育のためのメディア]

(2) 探究内容

将来の日本を担っていきたり、それを支えていきたりするべき存在である学生の学習意欲が低く、勉強をあまりしないという現状がこのまま進行することで、これからの日本の発展の妨げになってしまうのではないかという懸念を持ちました。そのことに問題意識を持ち、この課題を解決するためには、メディアを活用した学びを推進することで子供に学びの楽しさに気づいてもらい、勉強を好きになるきっかけづくりをするのが良いのではないかと考えました。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

一流企業である朝日新聞社さんで、私の稚拙なプレゼンをしてよいかと不安でいっぱいでしたが、温かく受け入れてくださったうえ、言葉の正しい使い方やプレゼン資料の作り方など、たくさんのことを教えていただいたり、自分の探究についてのさらに深い知識や、関連する情報も教えてくださったりと多くのことを学ばせていただいたので、今後社会に出たときに活かしていきたいと思いました。また、チーム内の他のメンバーへのアドバイスや、関連する情報もとても興味深く、勉強になりました。多くの的確なアドバイスやコメントをしていただいたので、私もそういった相手にとって有益なアドバイスやコメントをできるように、これから努力していきたいと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

東京研修のプレゼン本番では、移動しているときは緊張や不安がありましたが、(4)でも書いたとおり、朝日新聞社の方が温かく迎えてくださったおかげで緊張がほぐれ、その時の自分にできる最大限の発表ができたと思います。その時に学ばせていただいたことをもとにプレゼンをブラッシュアップしたので、クラス内発表会では、東京研修時よりもリラックスして発表することができました。そこでクラス代表に選出されたため、オーレンプラザでも発表を行いました。あまり経験したことがないほどのたくさんの聴衆の前で発表をしたので、とても緊張しましたが、発表では聴衆が多いことを活かして、全体に問いかける場面を設定したり、話し方を変えたりといった工夫をすることで、今までで一番良いプレゼンにすることができたと思います。しかし、質問に対して適切な回答を瞬時に返すことが難しく焦ってしまった場面があったので、臨機応変に対応する力をこれから身につけていきたいと思います。また、もう少し準備や練習をした方がよりプレゼンを緊張せず楽しめるのではないかと感じたので、今後こういった機会があったら、今回よりも念入りに準備・練習に取り組み、余裕を持ったプレゼンをしたいと思いました。

(1) 探究テーマ [アマチュア野球審判減少問題]

(2) 探究内容

アマチュア野球審判委員の減少に伴う影響とその解決策について探究しました。朝日新聞社様に主催をいただいている「全国高等学校野球選手権大会」における現在の審判委員の現状を、データを示しながら、適切に表現することを心がけました。審判委員の減少問題は、日本の野球の未来を守るために大変重要であり、今後も継続的に検討していく必要があります。また、課題解決のために、自身とキャリアとも照らし合わせ、多角的に捉える事ができました。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

朝日新聞社様の歴史や新聞の制作過程を知ることができました。訪問時には、わかりやすくご丁寧に対応くださり、充実した研修となりました。ありがとうございました。発表の際は緊張もしましたが、自分の意見をしっかり伝える事ができました。発表後のフィードバックでは「AI審判」の導入を検討するべきではないかという的確なアドバイスをいただき、それを踏まえて自分の発表をブラッシュアップすることが出来ました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

今年度の探究では、日本が抱える課題について調べました。大規模な課題設定からその解決策まで考える事が難しく最初は苦労しましたが、課題を解決するためには、公の役割と民間の知恵を融合して、一体となって解決にあたる事が大切だと思いました。MC探究で学んだ探究のプロセスや発表の仕方などを今後の活動にも生かしていきたいと思いました。

(1) 探究テーマ [日本のヤングケアラー問題]

(2) 探究内容

近年注目を浴びてきているヤングケアラー問題の要因には「家庭の経済的困窮」や「世話や介護が必要な家族の存在」などがあげられる。また、ヤングケアラーの存在は表面化しにくく、発見が難しいという問題もある。これらのことから、学校に勤めるカウンセラーとして、アンケートや面談等を用い、ヤングケアラーの早期発見とその子どもの相談を受けることで課題解決につながると思った。また、ヤングケアラーの精神的サポートや支援・解決策をその子どもと一緒に考え、関係機関と連携することでヤングケアラーの負担の軽減・解決ができると考えた。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

朝日新聞社様より、実際に当事者の人に話を聞くとより深い内容や考察のある発表になるとのアドバイスを頂き、今後は自分の憶測だけでなく実際に話聞いた事実を踏まえてより深みのある発表にすることを心掛けようと思いました。また、朝日新聞社様の社内見学やお聞きした話を通して正確な情報を伝えることや情報を聞き手に分かりやすく伝えることの重要性と人に情報を伝える仕事の責任を改めて強く感じました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

MC探究を通して、今まで詳しく知らなかったヤングケアラーという存在と課題を深く知ることができ、そのおかげで周囲にもより気を配れるようになったと感じました。また、ヤングケアラーについて調べている中で他の問題についても新しく知り、日本の問題であってもまだまだ知らないことが多いと感じたため今後より世の中に目を向けていきたいと思いました。探究を通して得た経験をここで終わらせることなく、将来に活かしていきたいです。

(1) 探究テーマ [日本のコミュニケーション能力の低下は大問題]

(2) 探究内容

コミュニケーション能力の低下によって日本の優秀な人材が減少する可能性が高いため、コミュニケーション向上のアプリを作成しこの問題を解決する。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

自身の提案の実現に向け、内容を具体化することができました。問題が起きる根拠としてコミュニケーション能力が高いということは優秀な人材であるということという定義の意味を詳しく説明しないと、受け取る人によっては批判的に感じたり、違和感を感じる場合があるため、その定義の捉え方を詳しく説明する必要があることを学びました。またアプリを作成するという提案だけでは実現した時のイメージを想像しにくく、実現性があまり感じられないと思いました。そして企業の方々と意見を交わす中で今の自分が知らない用語などが多くあったため、知識量を増やすためにも、日々、現代社会に関わることをニュースなどで取り入れていきたいと思いました。社内見学では、実際に場所によって全く異なる能力や技術が使用されていて、会社一つで多くの部門があることを知ることができました。したがって、一見、自分が興味の無い職場だったとしても、様々な部署が存在するため異なる視点から自分の能力を使ってその会社で働くことができるということを発見しました。この訪問から物事を広い視点で捉える必要性を学ぶことができ、自身の好奇心をくすぐるような非常に貴重な経験をさせていただきました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

実際に働いている方々からお話を聞くことで、自分が今までこれが最大限だと思っていた考えなどが、まだ社会の中のただ一部だったことがわかりました。自分の考えの容量が増加しました。プレゼンの仕方や提案にわかりやすく、適切な根拠をつける方法を学ぶことができました。自分の考えをそのまま長々と話すのではなく、本当に伝えたいことだけに絞って伝えることも話し手として必要だと思いました。そして、その話す内容の絞り込みの方法も学ぶことができました。企業訪問を通して人の話を聞くことで新たなことを学ぶことの大切さを実感することができました。コミュニケーションをとる意味や面白さを感じることができました。学習する意味を学ぶことができました。そして自分の積極性が向上したのに加えて、その積極性の大切さも理解することができました。これまでの経験を将来にも活かしていきたいと思います。

(1) 探究テーマ [日本の地方における薬剤師不足問題]

(2) 探究内容

近年、医薬分業の推進によって新設されるドラッグストアが増えたり、高齢化率が上昇したりすることによって薬を必要とする人が増えたりし、薬剤師の需要が高まっているにも関わらず、薬剤師数が不足している地域があります。一方で、人口に対して薬剤師数が多い地域もあります。なぜそのような状況になるのか、自分はキャリアを通じてどのようにこの課題にアプローチしたら良いのかを、データを調べて考えました。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

自分のアプローチ法に対し、「国や民間はどうしたら良いと思うか」や、「薬の受け取る側の高齢者には、働いている薬剤師が定期的に変わることはどのように影響するのか」などと質問されたことで、さまざまな視点から物事を考える必要性を実感しました。また、「地方における薬剤師不足問題は、日本が抱える少子高齢化という社会問題による影響が大きい」というコメントをいただき、ある課題をより大きな問題と結びつけることも大切だと感じました。他にも「データの詳細を示した方が良い。この部分にも根拠となるデータがあった方が良い。」というアドバイスをいただき、自分のアプローチ法の中の、具体性や論理性が欠けている部分が明白になりました。これからもいろいろなことに疑問を持ち、日々違う角度から物事を考えたいと思います。毎日さまざまな事件や問題に触れ、幅広い知識を持つ新聞社の人々からの質問やコメントは、どれも深く考えるべきものでした。貴重な意見をありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

世界・日本が抱える課題を、自分のキャリアを通してどのように解決するか、という問いについて探究したことで、問題が生じる原因や改善策について調べ、その課題を詳しく知ることができました。解決できそうもないからと問題を避けるのではなく、まずは状況を少しでも改善するために自分たちは何ができるのか、と自分ごととして考えることの大切さを感じました。自分の将来の職業について考える良い機会になりました。課題の深刻さや自分のアプローチ法の有効性を示すために根拠となるデータを探し、活用することは難しかったです。データの扱い方を学びました。情報という科目ができ、大量に蓄積されたデータが飛び交う現代で、データをうまく駆使していきたいと思いました。企業訪問のために仲間と発表を見せあい、アドバイスをしあったことで自分の発表をより良いものにできました。そして迎えた企業訪問では、自分が今まで気づけなかった視点からの質問やフィードバックをいただき、それを活かしてさらに考えを発展させることができました。

(1) 探究テーマ [引退競走馬の殺処分問題]

(2) 探究内容

日本の競走馬のセカンド・サードキャリアの充実のために出来ることを考察した。そのために、現状の問題を提起し今ある解決策と比較することにより現行の解決策では不十分であることを指摘した。具体的に述べると日本の競走馬は毎年8000頭弱が生産されているのに関わらず、その約9割が殺処分されていることに対して、解決策を提示していった。そのことに対して現行のシステムが機能していないことを指摘した。自分からは食肉の流通管理などで既に利用されている「トレーサビリティ」の活用や「動物マイクロチップ」を用いた追跡システムを利用し、引退馬の居場所が確認できる「引退馬データベース」の実用化を提案した。このことを調べていくと、競馬全体の売り上げが10年連続で上昇しているという事実や、クラウドファンディングなどによる寄付の輪、支援の輪が広がっていることを確認することができた。それにより、自分のたてた仮説の有効性を調べるなど、より説得力のある提案をするためにはどうすればいいのか、といったことを学ぶこともできた。

(3) 訪問先 [株式会社朝日新聞社]

(4) (3) からの学び

実際に引退馬に関して取材していた方の意見を伺うことができた。探究の内容でアニマルセラピーについて述べていたが、メリット・デメリットに対して意識していなかったのが貴重な意見を頂き、自分の発表をより深いものにする事が出来た。他にも、自分が提案した「データベースを利用して解決する」という意見に対して、実現性の面と有効性の面から考えていただき、考えを深めることが出来た。なかなか学校ではこの分野に関して知っている人がいなかったのがインターネットを調べるだけだったが、自分のテーマを議論しているときは非常に関心を持って活動に取り組めた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

昨年度は地域内の貢献活動だったが、日本・世界と範囲が広がり、深い学びが出来た。活動内容としてやはり企業研修はとて自分のためになる活動だった。学校の組織内で議論するのではなく、議題に対してさまざまな分野の人が集まって、それぞれ異なる立場の意見を見極めることで、より最適解が見つかることが本当によく実感できた。正直乗り気ではなかったこの活動が、ここまで充実したのは、企業の方々の支援があったからだ実感できた。研修前の地元企業の方との交流も自分の見解を広げるためにはとても有意義な活動になっていたと思う。今後は、より広い視野を持って、国際社会で活躍できるように精進して行きたい。

(1) 探究テーマ [世界の健康格差問題]

(2) 探究内容

世界の健康格差問題の原因、現状。

原因、原因から得た知識から導き出される解決策、個々でできること、解決に必要なこと。

提案、探究活動を通して学んだこと。

聴衆へのメッセージ。

(3) 訪問先 [株式会社ぐるなび]

(4) (3) からの学び

私がこの研修を通して学んだことは、物事を視野を広げて様々な視点から見るとのこと、課題について考える時は情報を優先的に得ることが大切だということです。客観的に考えることは課題の解決、相手の納得を得る上でとても大切だと知りました。また、情報を多く得ることで、さきほどのような多様な視点で考えたり、新たなアイデアを生み出すことが出来るということも学ぶことができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

1、2学期と長い期間を使ってMC探究の準備をしてきて学んだことは、日々日常を送っているなかで、身近に起こっているようなニュース、出来事にしっかりと目を向け、自分なりにその事柄について深く考えたり、自分なりの解決の方法を探したりする大切さを学びました。今起こっている出来事は全て自分にも関わってくるため、自分なりに何が良くて、どうすべきか考える力を身につけるいい機会になりました。これからより多くの社会問題にぶつかり、より深く関わってくるので、これからもこのような探究を進められるように、この経験を生かしていきたいです。

(1) 探究テーマ [日本の食品ロス問題]

(2) 探究内容

食品ロスが起こる原因や、その深刻さを調べ、課題解決のために企業としてこれからすべきことと、個人で出来ることを考え探究する。

(3) 訪問先 [株式会社ぐるなび]

(4) (3) からの学び

食品ロスは、生産から消費までの様々な場面で起こるものであり、1つの視点から問題を見て解決しようとするのではなく、そのすべての場面において細かく対策をし、解決に繋げていかなければならないということが分かりました。このことから、私は物事を主観的に、もしくは一定の視点から捉えるのではなく、多角的に捉えることの大切さを学びました。このことは、食品ロスという国際的で膨大な問題だけでなく、自分の身の回りに起こる些細な問題においても大切になってくることだと思えるため、これからの生活に活かしていきたいと思えます。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

最初に、日本や世界の課題について1人で探究すると聞いた時は、高校生1人がそのようなスケールの大きい課題に対して色々調べたり、問題解決策を考えたりしたところで何も変わらないのでは無いかと感じていました。でも探究活動が続ける中で、まずは自分がその問題についてよく理解し、それを周りの友人や家族などに伝えることが、課題解決に繋がるということを実感し、学ぶことが出来ました。実際、日々の生活の中で食品ロスというワードを意識して行動できるようになりました。これが少しでも課題解決に繋がってれば良いなと思えます。

また、自分が探究した内容を最終的にぐるなび様にプレゼンすることが出来て、自分の視野や可能性が広がった気がして大きな達成感を得ました。自分で自分の可能性を絞らず、様々なことに意欲的に取り組むことの大切さも学びました。これから、この探究活動で学んだことを活かして生活していきたいと思えます。

(1) 探究テーマ [SDGsの活動の参加の促進]

(2) 探究内容

- ① SDGsとよく言うけれど具体的に何をすればいいのかわからない、寄付の意識はあるけれどどうすればいいのかわからないといった人は少なからずいます。私たち高校生などの若者が具体的に行動に移すきっかけをつくるためにぐるなび様に、ぐるなび様のサイトに各お店が行っている環境対策を掲示して、それをお客様が評価する欄をつくる事を提案させていただきました。
- ② ①の課題の深刻さを裏付けるデータとしてのSDGs達成度ランキングでは、日本は徐々に順位を落としており、目標13「気候変動に具体的な対策を」の化石燃料の燃焼やセメント製造にともなう二酸化炭素(CO₂)排出量などが多く、低評価でした。目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさも守ろう」もほぼすべての項目に課題があるとされました。目標12「つくる責任、つかう責任」は、電子機器の廃棄量やプラスチックごみの輸出量の多さが引き続き問題視されていることが挙げられます。
- ③ スターバックス様が行ってる、私達学生が簡単に参加できるSDGsの取り組み事例を一つ例として取り上げ、このようなお店のSDGsの取り組みや環境対策の取り組みなどを行っているお店のデータを集め、1つのサイトにまとめて若者などが簡単に活動について知れるサイトを作ることを提案させていただきました。私達はお店が行う社会貢献を知る機会が増えることによってより多くの活動に参加することができま。ぐるなび様が各飲食店の活動を紹介することで、私達はぐるなび様のサイトをひらくだけで社会貢献活動について知ることができます。そうした活動をぐるなび様がぐるなび様のサイトに情報を掲載して後押しすることで、社会全体の活動の参加を促進、さらに、閲覧者が増え、サイトを利用するきっかけとなると考えました。

(3) 訪問先 [株式会社ぐるなび]

(4) (3)からの学び

ぐるなび様からのフィードバックとして、どんな社会貢献活動をサイトに掲載するのももっと具体的な方がいいと思うとアドバイスをしてくださいました。さらに、SDGsなどの活動を積極的にアピールしているのは、チェーン店が多く、ぐるなび様のサイトにのっているお店はチェーン店は少なく、個人店が7割をしめていることを教えてくださいました。個人店のお店がSDGsなどの活動を積極的に広告している所は少なく、ぐるなび様のサイトにのせるには十分ではないと気づきました。しかし、ぐるなび様が新しく環境活動について掲示する欄を作ることになれば、個人店もSDGsなどの活動を新しく始めたり、または、元々行っていたそのような活動を前面にアピールするようになるかもしれないと思いました。

今回、初めて企業の方に発表することになり、とても緊張していましたが、発表の良かった所をたくさん褒めていただき、改善すべきところは優しくアドバイスしてくださいました。ぐるなび様のご対応とご協力のおかげでとてもリラックスして楽しい時間を過ごせました。心より感謝申し上げます。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

プレゼンを作り学校で発表するだけでなく、企業の方に発表することで調べたりないところが見つかったり、改善すべきところがはっきりして新たな発見がありました。今回の活動をいかして、プレゼンを通して人に伝える力を養っていきたいです。

(1) 探究テーマ [スポーツ・食と地域過疎化問題]

(2) 探究内容

深刻化する地域過疎化問題を解決させるために、私たちの生活に密接な関係をもつスポーツと食を通じて今できること・これからすべきことは何なのかを考える。

(3) 訪問先 [株式会社ぐるなび]

(4) (3) からの学び

地域活性化企業人制度などの活動を通して、それぞれの地域の特性を活かしながらこの大きな問題に取り組まれていることが分かった。このことから私はもっと物事について細かく、具体性をもって計画を立てることの大切さを学んだ。地域の問題には、大凡の考えで物事に取り組むことは出来ないため、様々な観点から物事を捉えることが重要であることがよく分かった。今後このような企画を考える際、今まで以上に深くまで入り込んで研究することを意識していきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

今までの私は、地域といった大きなスケールの中で自分に出来ることは何もないと思っていたが、実際どんなに簡単なことでも、私からやってみたいという気持ちがあれば、より意欲的に地域の問題に取り組むことが出来るのだと学んだ。今後も、私がやりたい何かしらの小さなきっかけを大切にして行動に移し替えていこうと感じた。将来地域の担い手となる自分自身がまずは地域の状況を知り、解決策を考えることが地域の活性化・課題解決に大きく繋がると学んだ。

(1) 探究テーマ [世界のフェアトレード問題]

(2) 探究内容

フェアトレード問題はとても深刻化しており、SDGsの視点から解決しなければいけない問題である。そのため、自分なりに問題点を挙げ、食に関わる仕事に就いてフェアトレードをきっかけに、どうすれば適正な取引が行われるか考えてみる。

(3) 訪問先 [株式会社ぐるなび]

(4) (3) からの学び

ぐるなび様に「フェアトレード問題を解決するために、サイトにフェアトレードに関連しているレストランにフェアトレードマークをつけることで、企業が社会貢献している、また、フェアトレードマークを知らないサイト利用者に、フェアトレードを教えることになるということをお伝えさせていただいた。その後、フィードバックとしてぐるなび様から、企業にも社会にも利益になる社会貢献活動は大切だと、改めて気づいたというフィードバックをいただいた。この出来事から、自分の利益だけでなく、相手の利益も考えることが大切、相手への利益がやがて自分に還元される、ということをお自分なりに解釈させていただいた。今後は、自分のことだけでなく、相手のことを考え、広い視野で活動することが大切だと感じた。企業だけが社会貢献活動したとしても、他の人ができなければフェアトレード問題だけでなく、さまざまな社会問題は解決できないので一人一人の行動を変えていかなければいけないということをお発信していきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私は、1年生の時もフェアトレードについて学び、その延長で今年もフェアトレードについて調べて自分の考えをまとめた。1年生の頃はフェアトレードについて全く知らなかったけど、2年近く学んでいるうちに深くフェアトレードについて知ることができた。自分は今、何にも衣食住の部分では困っていないが、カカオ豆を作る子どもは、少ない労働賃金で働いていることを知って興味を持った。東京研修の際に、ぐるなび様に1年半の成果を聴いていただけてとても嬉しかった。また、フィードバックもいただき、たくさんのおことをぐるなび様から吸収できた。具体的には、自分の利益ばかりでなく、利用者の気持ちを考える。社会貢献は、社会だけでなく、企業のイメージアップにもつながる、ということを知ることができて、広い視野を持っているぐるなび様に感銘を受けた。今後は、この東京研修を生かして自分のことだけでなく、相手のことも考え、広い視野で行動していきたいと感じた。私は、自身の「課題に対してどうアプローチするか」について、「食に関わる仕事に就く」という目標を立てた。2年生でのMC探究では、社会の課題を解決するだけでなく、自分の将来に結びつけて考えなければいけなかった。とても充実して内容の濃い探究になった上に、自分の将来について考える時間を作れて良かった。そうすることで、自分の将来の夢に、現実性が出てきた。この、自分の将来と社会貢献を結びつけることはぐるなび様から学んだ、自分のことだけでなく、相手のことも、考え、広い視野で行動していくということと一致していることに気づき、もっとこの行動がいろいろな場面で出来れば良いと思った。この1、2学期の学びを、3学期、また、将来に繋げて、自分を向上させ続けたいと思った。

(1) 探究テーマ [日本の高校生における読書離れとスマホ依存]

(2) 探究内容

主に以下の三項目の研究を行なった。調査にあたって校内及び校外でアンケートを行なった。

①日本の高校生で読書習慣がある人が少ない原因

自由時間の少なさ減少を理由に、読書離れが進んでいることがわかった。

②日本の高校生のスマホ依存の現状

スマホ及び電子機器の使用時間が自由時間の多くを占めている生徒が多く、また用途もゲームや音楽鑑賞など、娯楽としての用途が高い割合を示していた。

③上記二つの改善案、及びその有効性

一つ目は新しいカタチの読書アプリの配信である。他ブランドと差別化を図るとともに読書習慣が身につくような工夫をこらした。

二つ目は司書として自分が働くことである。生徒と近い距離で関わることで、読書習慣定着を促すことができると考えた。

(3) 訪問先 [大日本印刷株式会社]

(4) (3)からの学び

▶動機の説明の重要性

他の発表者へのアドバイスの中で、「なぜこのテーマに探究をしたのかを説明すると、聴衆をより話に引き込むことができる」という話があった。→プレゼンテーションに引き込み、研究に具体性を持たせることができる。

▶参考文献の重要性

他の発表者へのアドバイスの中で、「参考文献が提示されていると、もっと説得力があがる。特に提示するなら、引用しているページに載せるとよい」という話があった。→説得力を上げるために必要である。

▶話の流れを大事にすること

具体的には、異なる複数の事柄に関連性を持たせることである。私へのアドバイスの中で、「解決策である二つの案に関連性がないので、例えば、個人の経験を活かすことができるので、司書になることはアプリ開発に繋がる、といった関連性をもたせると、聞いていて話が入って来やすい」という話があった。→聴衆への配慮、また自分の発表をわかりやすく聞いてもらうために必要である。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

一年次では計画が実情に合わない程大きくなり、結局頓挫してしまった経験から、今年こそは行動を起こそうと決めていた。企業様・友人からのアドバイスを通して、内容をより深く、具体的に改善することができ、また、プレゼンテーションの方法も友人から助言を貰った。結果として校内の発表会では優秀賞を獲得でき、県の探究フォーラムにも参加することができた。周りにいる人に助けられた場面が多く、友人らや企業様に出会わなければ、ここまで全力で取り組むこともできなかつただろうと思う。改めて、周りの人たちに感謝をした。

(1) 探究テーマ [待機児童0を目指す]

(2) 探究内容

私は待機児童について調べ、子どもにとっては保育や教育を受けられないという欠点、親にとっては子どもを預けている間に仕事に行くことができないという欠点があることを知り、それらを解決したいと考えました。実際、待機児童は近年減少傾向にあることが分かりました。しかし、フルタイム共働き世帯や女性就業率が上昇傾向にあることから、今後子どもの預け先として保育の必要性は高まると考えました。待機児童が生まれる原因は主に、女性の社会進出、人口の集中、保育士不足です。そこで、チャイルドマインダーという仕事に注目しました。チャイルドマインダーとは、依頼者に代わって少人数の子どもを自宅や訪問先で預かることができる仕事です。待機児童が多い地域で活動し、保育の機会を増やしたいと考えました。待機児童の多い大都市などで働くことで直接的に力になれると考えたからです。また、チャイルドマインダーと利用者の仲介の部分として、地域のチャイルドマインダーの情報をいつでも見ることのできるインターネット上のサービスを作りたいと考えました。地域のチャイルドマインダー同士で連携することで、それぞれの利用者の方に合った時間や場所でのサービスにより多く対応できると考えたからです。

(3) 訪問先 [大日本印刷株式会社]

(4) (3) からの学び

企業の方から二つのアドバイスを頂きました。1つは、テーマを選んだきっかけやなぜそれを問題と考えたのかなどを発表に組み込むとさらに分かりやすいということです。もう1つは、待機児童から発展して、今は共働き世帯が増えたことによって小学生低学年児の放課後の居場所に悩む人が多いという実際の問題もあり、それにも目を向けた方が良いのではないかというリアルな視点での指摘をいただきました。自分だけでは考えきれなかった部分を受けて、視野が広がりました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私は将来の職業や進みたい道が決まっておらず、今回は探究テーマを決めるところから大変苦労しました。最初は、待機児童問題は保育にも繋がるため、自分の将来に役立つ可能性が高いと考えてこのテーマを設定し、私なりに深く考察したつもりでした。しかし、周囲の発表を聞くととても具体的で想像しやすく、自分の探究が深くまで考察できていないと感じてしまうことがあり、反省しました。活動を通して、折角自分は頑張って受験して目標であった高田高校に来てみんな時間は平等なのだから、与えられた課題はこだわりを持って精一杯納得のいくものを作りたいと感じました。また、待機児童の原因を考える過程で「人はなぜ人を生むのだろう」と、より哲学的な問いを持つようになり、より深く考察するきっかけが生まれてよかったです。

(1) 探究テーマ [日本の美術品市場の規模の小ささ]

(2) 探究内容

美術界の現状に関心を持ち、調べ学習を進めたところ、日本の美術品市場の規模が他国と比較してとても小さいことを知った。そこからこの問題の深刻さ、原因について追究し、『展覧会企画』の仕事が問題の改善に効果的なのではないかという仮説を立てた。『展覧会企画』の仕事は、美術品市場の規模が小さいことの原因に挙げられる「美術作品を買うことのハードルの高さ」と「アートに触れる機会の少なさ」この2つの課題に直接アプローチすることが可能である。SNSを中心に活動している作家の展覧会を中心に企画して、興味を持った人が作品を購入しやすいように工夫したり、話題性のある展覧会を企画することで、アートとの出会いの場をさらに身近なものにできるこの職業が、日本の美術品市場の規模を今よりも大きくできるのではないかと考えた。

(3) 訪問先 [大日本印刷株式会社]

(4) (3) からの学び

大日本印刷の方々の前でのプレゼンを終えて、「世界の美術館の現状と、日本の現状を比較したほうがよい。」というアドバイスをいただいた。「世界の美術館は日本よりもお金があって、比較的やりたいように展覧会を企画できるが、日本だとそれが厳しい。この違いをプレゼンに取り入れるとより良くなると思う。」という旨の、美術館の現状に関する情報も詳しく教えていただいた。

後日調べてみると、運営費に関して、世界と日本で決定的な違いがあることがわかった。日本では国立美術館5館に71億円の運営費が支給されているのに対して、イギリスの大英美術館には99億円、フランスのルーブル美術館には337億円がそれぞれ支給されている。この数字から、日本の美術品市場問題を解決するには、さらなる美術館への支援が必要だと感じた。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

MC探究を通して、日本にはさまざまな課題があることを学んだ。そしてその課題を解決するために自分はどうすべきか、どうあるべきか考え、自分自身を見つめ直すことができた。将来を意識していくこの大事な時期に、探究活動を行えたことにとても感謝している。

また、実際に大日本印刷の方々の前でプレゼンを行って、プレゼンで人の心を動かすためにすべきこととは何かを学ぶことができた。声の大きさや身振り手振りなど気をつけないといけないことは多かったが、本番では練習の成果を十分に発揮することができ、自分の自信にもつながった。大日本印刷の方からのフィードバックが、自身の探究内容にさらなる深みをもたらしてくれたと思う。この学びを、引き続きMC探究や今後の進路探究などの活動に生かしていきたい。

(1) 探究テーマ [結婚ハラスメントについて]

(2) 探究内容

結婚ハラスメントとは何か。

結婚ハラスメントが被害者に与える悪影響について。

結婚ハラスメントが起きてしまう原因。

結婚ハラスメントという問題がなかなか解決しない原因。

解決に近づく方法。

自分のキャリアを通じてどのようにアプローチしていくか。

(3) 訪問先 [大日本印刷株式会社]

(4) (3) からの学び

テーマを選んだ経緯などがあるともっと話が入ってきやすい。会社でもハラスメントの講演会があり、この問題がいま大きくなっていることは確かである。見やすいスライド(色を統一する、効果的なアニメーションをつけるなど)をつくる。引き込まれる導入、話し方をする。話す内容だけでなく、話す順番にも気を使う。それに合わせてスライドの順番も考える。大日本印刷様は色々な視点から技術を活かす方法を探して実行されている。

→私も一つの仕事に焦点を当ててこの問題に取り組むのではなく、色々な仕事から自分に合ったアプローチの方法を見つけるべきではないか。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

今回私は日本の問題について探究しました。日本にはたくさん課題があって、それには私の知らない物も含まれていました。私が選んだ探究テーマもその中の一つです。今の日本の現状を知ることができたのは、大きな学びだったのではないかと思います。全体発表を通して、日本だけでなく世界の問題についても知ることができてよかったです。特に英語発表をした人の発表は、私が考えたこともないような世界の問題で、それもまた大きな学びとなりました。課題設定が大切だとわかりました。今回の探究テーマは本当に解決したい、しなくてはならないと信じているテーマにしましたが、1人で行うには少し難しすぎたと感じています。自分の得意なことやできそうなことで解決に導けるような課題を設定したいです。しかし、今回は自分の知りたいことを知ることのできるいい機会だったと思います。今回初めて自分でアンケートを作成し、協力していただきました。あまり多くのデータは集まらなかったため、またアンケートの協力をお願いするときにはQRコードを紙に印刷して教室に掲示したり配ったり、できそうなら周りの大人にも協力してもらい、お店や公共施設、回覧板などにも掲示してもらったりできたら良いのではないかと思います。企業様に訪問させていただくのも初めてでした。お仕事をされる場所の実際の雰囲気や空気感のようなものを感じることができて貴重な体験をさせていただいたなと感じています。学びの多い探究となりました。3学期の探究にも活かしていきたいです。

(1) 探究テーマ [日本のAI作品問題]

(2) 探究内容

日本におけるAI技術によって起こる、人の手で描かれたイラストの盗作、無断使用を課題として提示し、パッケージデザインの会社に勤める社員の目線に立って課題の解決を目指しました。盗作を全て無くすのは難しいと考えたため、別の方法で課題解決ができるのではないかと考えました。課題解決の策としては、イラストレーターと契約し、パッケージを作成したい企業とイラストレーターとの仲介役として働きかけるというものです。それによる有効性は、パッケージ買いが起きやすくなること、そして、イラストレーターの価値が上がるということです。この2点の有効性に基づいて解決策の案を考えました。

(3) 訪問先 [大日本印刷株式会社]

(4) (3) からの学び

別の視点に立って考えること、そして何回も自分に問いかけて結論を導き出すことを学びました。私が提案した課題解決の策だと金銭面や時間の面など多方面から見た考え方がなく、これでは説得力に欠けてしまうことがわかりました。そして、何度も自分に問いかけることで新たな視点が生み出されるとともに、また別の考えが思いつくなどといったことも学ぶことができました。今後は、この2つのことを意識して物事を考える時、1つの考えだけでなく様々な視点に立ち、自分に問いかける、それを繰り返して結論を導き出していきたいです。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

去年とは異なり、地域から日本、世界まで視野が広がった探究となりました。日本や世界における様々な課題を知ることができ、まだまだ自分が知らないことを知ることができ、良い機会になりました。今まで通りに生活していたらわからなかった問題が、この活動を通すことで身近に感じることができました。自分たちで企業へ訪問し課題解決のための案を高校生の中に提案し、聞いてもらえることは滅多にできないことであり、とても良い経験となりました。これからは、企業からもらったアドバイスを生かして自分なりの考えを深めていきたいです。

(1) 探究テーマ [日本の少子高齢化問題]

(2) 探究内容

日本は晩婚化、経済的な不安、性的価値観の多様化によって、高齢者の数は増加し子供の数は減少している。この問題の解決策として、幼老複合施設を建てる。それにより、高齢者の健康寿命を伸ばし自立した生活をする高齢者を増やす。また、子供たちにも歳の離れた人々とのふれ合いの中で学びを提供する。そして、保護者の介護、子育ての負担の軽減をする。

(3) 訪問先 [野村ホールディングス株式会社]

(4) (3) からの学び

今回の東京研修の中でプレゼンをさせていただいて、私のプレゼンを評価していただいた。私の改善策として出した幼老複合施設の問題点を様々な面から指摘していただいた。子供の保護者は高齢者がいることでトラブルが起こるかもしれない場所に、高齢者と関わるというメリットでは預けたいとは思わないのでは無いか、というフィードバックを頂き、高齢者側と子ども側の両方の視点から施設について考え、メリットとデメリットを比較し検討することが大切だと学ぶことができた。また、法律的にこの施設を建てるのは難しいのでは無いか、というフィードバックを頂いた。フィードバックの中には、防災法の基準が幼稚園と介護施設では異なるため同じ建物では行えないというご指摘を頂いた。自分の解決策の現実的では無い部分を知り、アイデアを解決策として提示するためには法律や費用などの現実的な面をより考えていく必要があると学んだ。活動を通じて、生徒同士のプレゼンの中では指摘されることの無かった問題点を知ることが出来、自分の視野をより広げて、改善に繋げることができた。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

このMC探究の中で自分が向き合う社会問題を考えた時、なかなか浮かばず方針を決める事にとっても苦勞した。しかし、情報収集をする中で、日本の大きな問題である高齢化問題に焦点を当てていくようになった。しかし、高齢化というのは時間の経過とともに進んでいってしまうものであり、止めることができるものでは無いため、解決策に悩んだ。そこで、止めるのではなく、高齢化の流れを和らげることに焦点を当て、幼老複合施設という案が生まれた。そして、この案によって少子化問題の改善にも繋がるということにも気づき、少子高齢化問題に取り組むようになった。今回の活動で、今まででは、ただ漠然と考えていた問題に向き合うことができ、より社会問題についての理解を深める事ができた。

(1) 探究テーマ [中小企業の課題]

(2) 探究内容

中小企業の課題、特に労働人口との関わりについて、自分は中小企業診断士の資格を取り直接課題にアプローチすることで、改善あるいは解決する。

(3) 訪問先 [野村ホールディングス株式会社]

(4) (3) からの学び

野村ホールディングス様への訪問を通して学んだことは、世界という存在は身近にある、ということです。オフィスを見学させていただいた時、多くの方が様々な場所の方と働いている姿を見て、グローバル化が進んでいることを実感しました。また、社会と金融は密接な関係にある、ということも分かりました。毎日自分では想像もつかない程のお金が取引されていて、自分が消費者として活動する時も、沢山の取引がされることで安定して色々なものを買うことができるようになっていたことを学ぶことができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私はMC探究を通して目標を立ててそこへ至るまでの道のりの大変さ、そして共に助け合うことのできる仲間がいることの大切さを学ぶことができました。1学期に学校から示された内容は、「日本や世界の課題について考え、自分はどうのようにして課題へアプローチするのか」というものでした。私ははじめ、途方もなく大きな内容で、「自分はやり遂げることができるのだろうか」と不安でした。しかし、同じ訪問先で集まった仲間が東京研修直前までサポートしてくれたおかげで研修を無事に終えることができました。私はこの経験から、仲間をサポートすることがとても相手にとって心強いものであり、そして目標達成の嬉しさを知ることができました。このことを将来生かしていきたいです。

(1) 探究テーマ [野球人口の減少]

(2) 探究内容

日本では、野球人口が減少している。その理由を子供の野球離れと野球に対しての悪いイメージがあるという2点だと考え、小中高生の野球人口の減少を例にこの問題の深刻さと改善点について考察した。この問題の改善、解決の方法として、指導方法の見直しと、野球を楽しむやすくする環境作りの2点が必要だと考えた。この点から、私はメンタルトレーナーの役割を重視し、問題の解決にアプローチした。子どもたちのやる気が上がる、楽しく野球をやることのできるようになる指導方法という内容でコーチング講演を行うことで、子どもたちのやる気向上や、野球に対する悪いイメージ減少に繋がり、課題が解決していくと考えた。

(3) 訪問先 [野村ホールディングス株式会社]

(4) (3) からの学び

野球人口の減少という課題を発表することは野村ホールディングス様に適していないと思っていた。しかし、私のプレゼン課題、またプレゼンスキルについても改善点をたくさん教えていただき、今後のプレゼンに生きる非常にいい経験になった。今回教えてもらった事を忘れずに頑張っていこうと思う。お忙しい中、私たちに貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私は今まで自分のキャリアについて考えることは無かったが、MC探究Ⅱを活動していく中で自分のキャリアについて真剣に考えることが出来た。また、仲間とプレゼンを発表し合い、どうしたら良くなるか改善点を出し合いながらプレゼンの質を高めることができた。本番ではとても緊張したが、野村ホールディングスの皆様の対応が暖かく、次第に緊張が取れて、自分の中で良いプレゼンができた。これからもプレゼンの機会は何回もあると思うので、場数を踏み、緊張に慣れて、良いプレゼンができるようになっていきたい。

(1) 探究テーマ [日本人の疲れと睡眠について]

(2) 探究内容

疲れの原因の考察や実際に疲れている人の人数
睡眠時間などに関連した企業様に向けた提案

(3) 訪問先 [野村ホールディングス株式会社]

(4) (3) からの学び

- 課題達成のために班のメンバーと協力することの大切さ
- 課題達成のために努力し、やり抜くことの大切さ
- 真剣に取り組み目標を達成することで得られる達成感の素晴らしさ
- 自分でプレゼンをする上で自分が伝えたいことを明確にし、相手に伝えることを優先すること
- 話に論理性を持たせて説得力をつける
- 話に論理性を持たせるために、必要に応じて自分の言いたい情報をあえて話さない

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究から学んだこと

1. 相手に自分の考えをどうやって的確に伝えるか

1学期、2学期どちらのプレゼンも、自分でスライドを作り発表する流れだった。なので自分でプレゼンの構成を考えどのようなスライドや構成にすれば良いか悩み成長することが出来た。

2. プレゼンをする上での態度

1学期は学校内で、2学期は企業研修内での発表でより緊張するものだった。しかし、クラスメイトの優れたプレゼンや先生方からのアドバイスでプレゼンにふさわしい態度をする努力し、学ぶことが出来た。

MC探究の活動を通してプレゼンをするための技術や態度を学ぶことができた。この活動を通じて大きな緊張の経験を繰り返したことで精神的に一皮剥けた実感がある。これから社会に出てもプレゼンなどの発表活動は大切になってくると予想できるので今回の活動で学んだことを忘れずにしていきたい。

(1) 探究テーマ [保育士の仕事を支えるには]

(2) 探究内容

保育士の社会的地位や給与がなぜ低いのかを考え、それを支えることができる仕事を見つけ、解決に向けたアプローチをする。

(3) 訪問先 [野村ホールディングス株式会社]

(4) (3) からの学び

- ・論理構成の作り方、グラフの見せ方などのプレゼンの工夫
- ・自分の将来を想定した仕事の選び方

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分の将来の夢が曖昧で現実味がなかったところから、MC探究を通じてどのようにアプローチすべきかを考えて、具体性を持てるところまで考えを深めることができました。野村証券様への研修でトーク中心のプレゼンの作り方や聞き手の興味の引き方、具体から抽象への論の展開などを本校OBの青山様の発表から得ることができました。この経験を活かして、今後の活躍へと繋げていきたいと思っております。ありがとうございました。

(1) 探究テーマ [日本の空き家問題]

(2) 探究内容

日本の空き家は地方で特に増加している。空き家では倒壊や悪臭、野良猫やネズミが発生していて治安の悪化につながっている。その原因は高齢者の施設入所や若者、働き手の都市への移住などがある。この空き家問題に対してのアプローチとして、不動産鑑定士として適正価格で空き家を売り出し、今ある空き家を有効活用したいと考えた。

(3) 訪問先 [野村ホールディングス株式会社]

(4) (3) からの学び

(欠席により不参加)

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

身近な問題と日本の問題を重ね、自分が思っていたよりも問題が深刻だったことに気づき、調べていくうちに具体的な職業やアプローチ方法を考えることができました。今後はこの探究で得た学びを少しでも多く活かすように社会貢献をしていきたいです。

(1) 探究テーマ [日本の待機児童問題について]

(2) 探究内容

私は待機児童問題について考えた。保育所に入所申請をしても、保育所が受け入れられる人数に限りがあるため、入所できない児童が発生する問題のことである。この問題が発生する主な要因は以下の3つ

- ・共働き世帯の増加
- ・保育士の不足
- ・保育園の不足

待機児童数は2018年から毎年減少しているが、それはコロナウイルスの蔓延により保育園を利用する人が減ったからだと考えた。よって現在withコロナが広まっていることより、これから保育園のニーズが高まっていくと考えられる。そこでこの問題の解決策として

- ・保育士の待遇を良くし、魅力をPRする
- ・各自治体が保育園の数と待機児童の数を調べ、保育園が足りない場合は設立のための補助金を出して、設立を促すというものを考えた。

自身のキャリアを通じてのアプローチとしては、起業し自分の会社に託児所を設けるということを考えた。このアプローチの有効性としては

- ・託児所に子供を預けることで保育園の定員枠が空く
- ・保育園と託児所の利用料金の差を考えると3歳以上になると託児所のほうがお得である

というものが考えられる。

(3) 訪問先 [野村ホールディングス株式会社]

(4) (3) からの学び

- ・プレゼンの仕方

聴者の反応をよく見て分からなそうな部分があったらその都度補足説明を加え、聴者の理解度を高めることで自身のプレゼンの具体性を高められる。

- ・内容の構成

自身の体験を話してからそれに関する調べたことを話すことで、自分が聴者の興味を引くことができる。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自身のキャリアを見通し、そこからアプローチできる問題を考えて、その問題についてのプレゼンをすることができた。東京研修では企業の方にアドバイスをいただき、自分のプレゼン能力の向上に繋がったと思った。今後はこの探究で得た学びを生かし、人生を良い方向に持っていけるように尽力していきたいと思う。

(1) 探究テーマ [日本のIT教育についての問題]

(2) 探究内容

日本のIT教育が抱える問題について探究した。日本のIT教育は本来の役割を果たせておらず、他国と比べても遅れているという問題がある。その原因はインフラの未整備や資金難などにあり、この現状を放置したままでいると主体的に情報社会を生きられない人材が排出されるという状況が懸念される。この問題を解決するためには、「学校用ICT機器」と「情報 I」の活用が有効であると考察し、これらの内容の発表を行った。

(3) 訪問先 [日本ケミコン株式会社]

(4) (3) からの学び

訪問を通して企業や業務内容、技術のことをより深く知ることができ、見学を通して日本の最先端の技術が生み出されている場所を、身を以て体験することができ、自らの将来に繋がる非常に貴重な経験をすることができた。プレゼンに関しては、探究した内容を存分に発表できたと感じられる一方、不備や練習不足が目立つ稚拙なものになってしまったことから、事前準備やリスクマネジメントを十分に行うことの重要性を痛感した。また、企業の方からは「身近な物事から課題を発見すること」への評価をいただいた。今後の探究活動や将来において、この観点を重要にして、身の回りの課題から探究に繋げていくような活動をしていきたいと考える。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

探究する課題を探る中で、日本には非常に多くの課題が存在すること、それらはとても根深く解決が困難であることをより理解することができた。また、探究する内容を選択しそれについて調べていく中では、問題解決へのアプローチは一つではなく複数存在することに気づいた。例えば、私の探究の初期段階では、プレゼンする問題解決へのアプローチを「IT教育の指導員の導入」と考えていたが、情報収集や友人との意見交換を通して、最終的には既存のものを活用するという方針へ変更し「学校用ICT機器と情報 I の有効活用」というアプローチをプレゼンすることに決定した。このことから、問題には視点を変えることで全く異なったアプローチをすることが可能であると学ぶことができた。この学びを活かして、将来出会う問題に対処していきたいと考える。

(1) 探究テーマ [介護問題とその解決について]

(2) 探究内容

介護業界の人材不足と介護ロボットの普及における問題点

(3) 訪問先 [日本ケミコン株式会社]

(4) (3) からの学び

会社とはどのような場所なのか、どのような業務があるのか、仕事をする上での楽しみとは何か、などの普段の学校生活ではなかなか知ることのできない貴重な体験をすることができた。特にオフィスの雰囲気であったり、日常の作業風景の見学は普段では絶対に見ることができないので、とても良い経験になった。また、バッテリーの造りなどは学校でも学ぶことがないので学ぶことが多かった。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

日本という一つの国でも数えきれないほどの問題を抱えていることを今回のMC探究で学んだ。また、この日本の社会問題の中でも介護問題にフォーカスを当てて探究活動をしているうちに「社会問題」というのは、各々がどこかしらで共通の課題を抱えていることに気づくことができた。私の探究テーマである介護問題で言うと、問題の原因となっているのは少子高齢化であり、不況による低収入であり、過重労働であった。これらの解決には、介護施設の運営者が労働者により多く賃金を支払い、介護業界に人材を引き込む必要がある。しかしこれを行うにはサービス料の値上げ、もしくは政府の資金援助が必要である。サービス料の値上げを行うと貧困層が介護を受けられず、老老介護などの問題が生じ、政府が資金援助をしようとするると我々の税負担が増える。このように問題同士が複雑に絡み合っているため、問題の解決策を考えるというのは私が思っているよりも困難であった。今回の探究活動で問題解決の難しさを知ったので、この学びを生かして今後私の身に降りかかるであろうさまざまな困難を解決していきたい。

(1) 探究テーマ [音楽市場への貢献→音楽機材の調査]

○動機

- ・訪問学習として… 訪問先では工業系、主に電子回路の部品を扱っている。
- ・個人探究として… 音楽分野に関心がある。日本の市場の可能性への注目。

(2) 探究内容

- ・日本の音楽市場規模は5年間アメリカに次いで世界2位。
- ・先進諸国の市場から一部の分野が孤立しており、固定の需要と供給の循環がある。
- ・近年はインターネットの発達に合わせてエンタメの輸出も増えている。

↓

○この市場規模であれば、財政難の日本にとっては重要な財源であると言える。

[実際の探究学習]

- ・機材ごとに使用される部品の差。
- ・なぜ差別化が為されているか、個々の最適解となる部品選びは何か。

(3) 訪問先 [日本ケミコン株式会社]

- ・創業90有余年、コンデンサをはじめ電子回路に用いる部品中心に製造。
- ・コンデンサを含む製品の開発も。

(4) (3) からの学び

「課題設定が個人の特性に関わっている」「特定の分野を、新しい領域へ発展させることへの支えになる」内容であるとフィードバックを頂いた。

→実際に事業の内容や、実物の製品に触れる有難い経験をさせて頂く中で、新たな開発、発展を目指すべき、実現させるべき理由を実感した。日本ケミコン様が実際に行われているように、またフィードバックにあるように先々の発展を意識することの必要性を改めて理解した。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

情報収集、訪問学習をする中で自分のキャパシティの狭さや未熟さを実感し、「分野の開拓・貢献」をするには素地となる知識や経験をより積まなければいけないと感じた。今回訪問させていただいた日本ケミコン様のご紹介を受けた際に、創業90有余年の長い歴史があること、その間に生産の継続だけでなく積極的な開発や製品の幅の拡大も続けていたことなどを知った。それらの製品や技術は実際に見学をさせて頂いた。これらについては特に、日本ケミコン様に基礎の生産力や経験があり、それらを発展させて製品開発に取り組んでいるということを実感することができ、改めて根本的な能力の充実が大切だと思った。

(1) 探究テーマ [CO₂排出量の削減に向けて]

(2) 探究内容

地球温暖化対策の一つとして、ハイブリット自動車の普及を提案しました。また、自分自身も将来は自動車会社に就職し、ハイブリット自動車を普及させるためのプロモーション事業に力を入れたいと考えています。

(3) 訪問先 [日本ケミコン株式会社]

(4) (3) からの学び

企業の方からいただいたフィードバックから、日頃から身近なことに興味・関心を持ち、そこにある疑問点を見つけ出し、解決に向けて自分自身ができることを考えることが大切なのだと学ばせていただきました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

この探究活動を始める前までは、地球規模の課題なんて自分には関係ないと考えていました。しかし、課題の改善案を考えた際に、地球温暖化のような規模の大きな課題であればあるほど、地球上に生きている人間全員が当事者意識を持ってその問題について真剣に考えなければ、解決することは無いのだと気づくことができました。ひとりひとりができることは小さいかもしれませんが、それらを積み重ねることで地球全体を大きく進歩させることができるはずです。逆境にいたとしても諦めずにコツコツと努力を続けるという精神が大事なのだと、今回の探究活動を通して学ぶことができました。

(1) 探究テーマ [技能実習生に対して起こる問題]

(2) 探究内容

技能実習生に対して、実際に起きている問題と原因を調べ、解決するための方策を考える。

(3) 訪問先 [日本ケミコン株式会社]

(4) (3) からの学び

コンデンサが、世にある機械のほとんどに使われていて、社会にとって大切な物であること、その多くを日本ケミコンという会社が作っていることを知ることができた。また、現状維持ではなく、さらに新たなものを作ろうとする会社としての姿勢に感銘を受けた。自分のプレゼンについては、無駄な間が多かったところがあり、実際に人前に立って話してこそ気づく問題点があった。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

技能実習生に関して、新聞で問題点を知ったことがきっかけでもっと知ろうと思い、このテーマにした。探究活動を通して、多くの知識を得ることができた。この問題をどう解決するかを自分ごととして真剣に向き合えたと思う。日本ケミコン株式会社様を訪問して、新たに得た知識も多く、自分に何が足りないのかも身をもって知ることができた。

(1) 探究テーマ [地方の鉄道の衰退]

(2) 探究内容

地方の鉄道がなぜ衰退しているのか

衰退することによってどうなるのか

日本ではどのような対策が取られているか

(3) 訪問先 [日本ケミコン株式会社]

(4) (3) からの学び

発表の効果的な見せ方などを学ぶことができました。また、グラフの数値はどこから得た情報なのかを明記することを学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回のMC探究では準備の大切さとプレゼンの方法について学びました。

まず準備をしっかりと行うことでルーブリックに見合った発表に近づけることができました。練習を重ねるごとに直すべき点を見つけ出すことができました。

次にプレゼンの方法についてです。1年生の時にもプレゼンは行っていましたが、企業訪問や練習の甲斐あって1年生のときと比べ更によりプレゼンができたと思います。

今回できるようになったことを3学期からも活かしたいと思います。また新たに見つけた課題を直せるようにしたいです。

(1) 探究テーマ [社会保障費の抑制]

(2) 探究内容

設定した課題は「社会保障費の抑制」です。この背景には2040年問題があり、高齢化の進展に伴い社会保障給付、負担の増加が考えられることに注目しました。現状が回復しないと、医療面で個人負担が増えて医療機関を受診したい人の健康を支えられないこととなります。よって、社会保障費の抑制は重要な課題であると考えました。この課題を解決するために、薬剤師というキャリアを通して「患者さんの自宅を定期的に訪問する」というアプローチを考えました。その有効性を薬の潜在的な飲み残しの削減や病気の早期発見、予防による社会保障費の抑制として示しました。

(3) 訪問先 [信越化学工業株式会社]

(4) (3) からの学び

当初は、社会保障の若者の負担を減らすことを課題に設定していました。実際にプレゼンを見ていただいた所、アプローチのターゲットが高齢者だったためどちらかの世代に重きを置くと良いとのアドバイスをいただき、「社会保障費の抑制」に課題を絞りました。このことから、一つのことに焦点を当てるのが大切だと学びました。企業訪問での確で客観的な意見をいただき、自身の探究およびプレゼンをより充実したものに仕上げることができたと思います。貴重な機会をありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私がMC探究を通して学んだことは2つあります。1つ目は、自分なりの答えを出すことの大切さです。インターネットで社会保障費や薬剤師に関する情報収集を行った際、世の中にある情報量の多さを実感しました。膨大な情報を整理して再構築し、課題解決のための自分なりの答えを出すことで、思考力が深まったと思います。2つ目は、日本や世界の課題に対して、主体的に取り組んでいく必要があるということです。今回の探究を通して、社会保障に関する問題は深刻であることが分かりました。誰かが解決してくれるのを待つのではなく、自分から行動すべきだと学びました。今回学んだことを今後の行動に活かしていきたいです。

(1) 探究テーマ [世界のフードロス問題]

(2) 探究内容

現在世界で深刻な問題となっていて、SDGsとも密接に関与しているフードロスについて、自身で起業するというキャリアプランで3つの対策法を考えました。

一つ目は、POSシステムを用いたデータを店舗に提供することで、食品販売店での過度な売れ残りを防ぐこと。

二つ目は、企業と国際機構との連携体制を作り上げることで、発展途上国の生産設備を整え、生産設備不足によるフードロスの発生を防ぐこと。

三つ目は、廃棄されてしまった食品から農業用肥料を作り、低価格で販売することで、多額の税金を使用して焼却処理をすることなく、かつCO₂排出を低減し、さらに農業用肥料価格高騰によって本来の経営ができず困窮する農家の救済に繋げること。

(3) 訪問先 [信越化学工業株式会社]

(4) (3) からの学び

普段なかなか関わる事のない企業の方に貴重な意見を頂いて、自分自身の探究活動がより良いものになりました。現状をグラフで示した時、「なぜ今このような状況なのか分かりますか」とご質問を頂いた時、知識不足で答えることができませんでした。現状を示すだけでなく、なぜ今その状況になるのかを自分で理解し、説明できるようにしておく必要があるなと感じました。

また、スライドにおいても、アジェンダや参考文献を記載することは不可欠だということも学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

「世界の一人ひとりが努力すればゼロにすることもできる」という、これから1番可能性を感じる世界のフードロス問題に焦点を当てて、自分なりに今の世の中に不足するもの、今の世の中にある活用できるものを見つけ出して解決策を考えました。

それと同時に、自身のキャリアプランとも結びつけて、起業することのできることを自ら考えることもできました。今回のMC探究を通して、課題を解決するために必要なことを自分自身で見つけ出し、考える能力を身につけることができました。この力をもっと多くの場面で活かしていきたいです。

(1) 探究テーマ [子どもの貧困と栄養失調]

(2) 探究内容

日本では今、相対的貧困の家庭の子どもの栄養失調が問題になりつつある。そこで管理栄養士になって、子供の栄養状態を管理したり、効率よく栄養が取れるメニューの提示をする。子ども食堂などの設備を整えることで、貧困による栄養失調を減らすことができる。そのために調べた蓄えるべき知識の必要性について、今からできることや、将来行いたい解決策を提案する。

(3) 訪問先 [信越化学工業株式会社]

(4) (3) からの学び

発表する時は、共感しやすい数値を用い、例示をする。また、出典を明記することで信憑性を上げることができるため、必ず小さな情報でも出典を提示する。

子ども食堂やメニューの提示に向け、どのようなことができ、どんな家庭があるのかを調べておく必要があること。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

探究活動を始めるまで将来やりたいことが定まっておらず、希望進路もあやふやなままであった。しかし、東京研修のプレゼンに向けて、大学の学部や学科を調べていくうちに、管理栄養士に興味を持つ、問題となっていることの解決のために何ができるかや、解決への意欲についてたくさん考えることができた。進路選択に大きく活かすことができ、よかった。

(1) 探究テーマ [地球温暖化の現状と対策]

(2) 探究内容

地球温暖化を防ぐため、エアコンの酷使を防ぎ、家庭での二酸化炭素の排出を抑える「壁になる窓」を考案した。

(3) 訪問先 [信越化学工業株式会社]

(4) (3) からの学び

自分の実現させたいことを達成させるには、まだまだ知識をつけていく必要があると感じた。また、いかに信頼のできる情報を収集するかが大切だと思った。また、人事部の方が優しく対応してくれたため、自分も人と接していく上で相手の目線でどうすれば、お互いにとってより良い時間を過ごせるかを、考え直そうと思った。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今までにないような環境問題へのアピールの仕方を今回はしましたが、今までにないからこそ手本がなく、まずこれまでの解決策の効果や悪かったところを分析し、応用していくことが大切だとわかった。また、問題の要点をしっかりと捉えて解決策を考えていくべきだと感じた。

(1) 探究テーマ [海洋プラスチック問題]

(2) 探究内容

海洋プラスチック問題の現状、その原因にもなるプラスチックの特性、そしてそれらを踏まえた自分の考察について。

(3) 訪問先 [信越化学工業株式会社]

(4) (3) からの学び

企業の方から頂いた質問に答える過程で多面的な捉え方が自分には出来ていなかったと感じました。なので今後多面的な捉え方を身につけるために、まず寛容さを身につけ、様々な立場の視点に切り替えると同時に、知識・教養を養っていきたいと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱでは興味のある職業に関連した環境問題についてSDGsなどに着目しながら考察を深めました。その過程でSDGsや世界で起こっている環境問題についてより深く知り、自分のキャリアを通じてどのようにアプローチすることが出来るのか考えることで、自分の将来について様々な視点から考えることが出来ました。

(1) 探究テーマ [海洋プラスチック問題]

(2) 探究内容

現在、海には約1億5000万トンもの海洋プラスチックゴミがあり、そこに毎年約800万トンもの海洋プラスチックゴミが流れ出ているとされています。このペースで増え続けると2050年にはプラスチックゴミの量が魚の量を上回ると予想されています。魚への影響として、エサとして間違えて食べてしまう、ゴミに絡まって死んでしまう、などといったものがあります。また、私たちへの影響として、観光地の海を汚染してしまい、観光客が減ってしまい、経済的損失に繋がってしまう、などといったものがあります。

このような問題に対して、私は公務員として正しい知識を周知していくという方法でアプローチして行きたいと考えています。調べたところ、実際の海洋プラスチックゴミの量はPETボトルや漁具などが多いですが、人々の認識としてPETボトルやレジ袋などが多いと思っている事がわかり、実際と認識でギャップがある事が分かりました。また、ゴミを減らす何らかの活動に参加したいという人も非常に多くいる事が分かりました。

正しい知識を知ることでゴミを減らす何らかの活動の際、ギャップがある状態で行うよりも、適切に行動できて活動がより良くなっていくのではないかと思います。以上の理由から、私はこの方法で海洋プラスチック問題に対して貢献できるのではないかと思います。

(3) 訪問先 [株式会社東芝]

(4) (3) からの学び

海は繋がっていて海洋プラスチック問題は世界の問題であるから、そこまで考えるとより良い探究になるというフィードバックを頂き、確かに私のものは地域のみで完結してしまい、グローバルな視点が足りていなかったと学びました。これからはグローバルな視点に立つことを意識して探究に取り組んでいきたいと思っています。

また、質問に対して答える事ができない場面が多くなってしまい、もっとデータなどを調べておけばよかったと思いました。これからは周辺知識もしっかり調べたいと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

何をテーマに探究をしていくかを決めるときに、色々な日本、世界の問題について調べました。世界にはたくさんの解決すべき問題があり、解決に向けて努力している人もたくさんいることを学びました。また、それらの問題には私たちが日常生活で少し意識するだけで貢献できるものが沢山あることも学んだので、実践していきたいと思っています。また、他の人の発表を聴いて、発表する際、堂々としっきりとした声量で発表する、アイコンタクトが適切にできているなど発表の態度面で参考になることがいくつもありました。また、スライドにその時々で適切な文字のフォント、色、大きさを使っている、図やグラフを適切に表示する、アニメーションを使うなどスライドを見やすくするための工夫も学ぶ事ができました。これからは、他の人の発表で学んだことについても自分のものにし、より良い発表になるように努力していけたらと思います。

(1) 探究テーマ [海洋プラスチック問題]

(2) 探究内容

海洋プラスチック問題の現状をプラスチックの量、生態系、人体への影響の3観点からまとめ、原因を考察。課題解決のため、プラスチックの回収・利用、活動の宣伝、街に分別して捨てられるごみ箱を設置することの3つを提案。

(3) 訪問先 [株式会社東芝]

(4) (3) からの学び

訪問先から「社会の仕組みについてもっとよく知り考慮すべき」という意見を頂き特定の分野のみの知識だけでは物事をうまく解決できないと学んだ。選り好みせず、日ごろから様々な情報を取り入れることにより幅広い知識を持つことや、1つの観点からだけでなく、多角的な観点から物事を見て柔軟に考えることが大切だと思った。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

事前知識が多く必要な探究活動で、どのように調べれば必要な情報を得られるかや、情報の信頼性の確認の仕方など多くのことを学ぶことができ、その後の学習に生かす事が出来た。また、お互いのプレゼンの見せ合いや、発表の場、企業の方との会話などでは自分の発表の改善点に多く気付くことができ、人とのコミュニケーションから得られる気付きの大切さを学ぶことができた。これらの経験を、今後様々な活動で生かしていきたい。

(1) 探究テーマ [日本の空き家問題]

(2) 探究内容

日本の空き家の総数は年々増加しています。空き家が増加すると様々な悪影響を引き起こします。例として空き家が犯罪などに利用されたり、不法投棄が行われたりしてしまうことなどがあります。これは、地域の景観や、治安の悪化にもつながってしまいます。このような問題が起こる原因の一つとして少子高齢化があげられることが分かりました。1人暮らしの高齢者が亡くなったり、介護施設に移る方が増えると使われない家がふえる、また、少子化でそもそも住宅の需要が減っていることも問題の進行に影響しています。その他には空き家の管理の大変さなどが挙げられます。空き家には持ち主がその管理を行わなければならないという義務があります。空き家を取得した際には、ライフラインの閉栓や、郵便の停止、掃除といったことをする必要があります。また、定期的に建物の劣化がないかの目視確認や、不法投棄が行われていないか、確認をしなければなりません。そういった管理の大変さから、空き家を放置してしまう人が増えています。私はこの問題を解決するためにリノベーションが有効だと思いました。日本では、空き家数の低い海外と比べて中古住宅のシェア率が低いというデータが得られたため、シェア率をあげることが重要だと感じたからです。しかし、ただリノベーションを推奨するだけではお金がかかるため、多くの人は手を出しにくいことが予想できます。そこで建設会社と政府が共同して地域の使われなくなった家をリノベーションしていくことが良いのではないかと考えます。そうすることで空き家問題の解決と地域活性化の両方に繋がり、持続可能なまちづくりができます。

(3) 訪問先 [株式会社東芝]

(4) (3) からの学び

様々なエネルギーや電力の開発を行っている東芝様に伺い、住宅をつくるうえで必要なことについて学びを深められました。また、発表を行なった際に、どうして日本では海外と比べて中古住宅の流通率が低いのかという質問をしていただきました。しかし、その場では詳しく調べておらず、答えることができませんでした。帰ってからそのことについて調べたところ、日本ではマイナスイメージ、海外ではプラスのイメージを持っていて‘中古’に対しての印象が異なることが分かりました。また、かつての戦争の影響で質の低い住宅が建てられ、築年数が経つと価値が下がるということなども理由として挙げられます。この調べ学習のおかげでより意味のある探究活動を行うことが出来、さらに有効性のある改善策を考えることができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

探究活動を通して、複数の情報を調べることが重要だと学びました。そうすることで色々な視点から物事を見ることができ、よりよい学びに繋がると思います。また、どうしてこのようなことが起こっているのか？という疑問を持って活動を行うことで、深い学びができるのだと気づくことができました。これからも好奇心や探究心を大切に、様々なことに取り組んでいきたいです。今回の活動を無駄にせず、将来に生かしていこうと思います。本当にありがとうございました。

(1) 探究テーマ [乳がん検診の受診率について]

(2) 探究内容

日本人の乳がん検診受診率が低いことが課題である。乳がん検診の受診率を上げるために私たちに何ができるのか。現状として、乳がん検診を受ける女性の割合は41%と他の先進国と比べて大変低い結果になっている。厚生労働省は、乳がんは検診に行くべき五種類のがんの一つに定めています。私は乳がん検診に行く人が増え、乳がんで亡くなる人が少ない社会にしていきたいと考えている。どうしたら検診に行く人が増えるのか。私は二つの具体的な方法を考えた。一つ目はポスターにデータを書いて貼ることである。二つ目はラインでの相談ができるようにすることである。それにより自分は大丈夫だと思っている人や不安や心配なことがある人に危機感や安心感を与え、より検診に行く人が増えると考えられる。

(3) 訪問先 [株式会社東芝]

(4) (3) からの学び

先ほどの探究内容にあった通り、私はポスターを貼ることが良いと考えていました。また貼る場所は病院という考えでした。私は医療系のポスターを貼るなら病院一択だと考えていました。話を聞いていただいた後に、駅にも貼ることが良いのではないかとアドバイスをいただきました。私は普段電車に乗ることがなくその考えに「なるほど」と思いました。確かに駅は常に多くの人が行き来しているので多くの人目に触れやすいです。再考すると病院だと限られた人しか見ることができないので駅はとても有効的なアイデアだと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

「世界・日本の課題と課題解決には何ができるのか」というテーマでMC探究の活動をしてきました。私はスライド作りになれていなく大変苦戦していました。今回自分はどんなテーマで探究しようか調べる中で、多くの日本の課題について知る機会となりました。また訪問させていただくにあたり、数日前からとても緊張していました。しかし東芝様の企業努力についての丁寧な説明や新潟県の話をしてくださったことで、程よい緊張感でプレゼンをすることができました。今回の活動を通して移り変わっていく世の中では、常にその時代に合った柔軟な考え方が重要だということを学びました。この経験は準備から訪問を含めて特別で学びの多い経験となりました。日本のある課題に対して自分たちはどう行動することができるのか深く考えることができました。この経験を忘れずに日々ニュースに、関心や自分の考えを持って生きていきたいと思えます。また、東芝未来科学館での説明や体験もとても楽しく、科学の不思議について学ぶことができました。最後に、お忙しい中お時間を下さりありがとうございました。

(1) 探究テーマ [世界の水不足問題]

(2) 探究内容

現在、世界の40%の人々が陥っている水不足の解決策を探究した。バーチャルウォーターという輸入したものを自国で生産すると、どれくらい水を使うのか表したものをを用いて、自国の食料自給率を向上させ、輸入された国で水不足を解決できるのではないかと考えた。そこで、自給率を上げるために、農家を増やす必要があるので、社会人や日本で働きたい外国人向けに農業を学ぶ学校を作ることを提案した。

(3) 訪問先 [株式会社東芝]

(4) (3) からの学び

日本の自給率を上げてしまったら、返って日本で水不足が起こってしまうのではないかという指摘を受けた。そこで、私は東京研修の前の発表の見せ合いで指摘された部分もあったが、そのメンバーでは、気づくことができなかったこともあったと言うことを踏まえて、少ないメンバーの人からだけでなく、家族や先生、他の友達など、もっとたくさんの人から感想をもらい、内容を良くしていくべきだと考えた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

1、2学期を通じて、水不足の課題解決のための情報を得るために、いろいろなサイトやデータを見て、伝わりやすいようにまとめ、東京研修の発表に挑んだ。その中で、データを取り出し、分析して、読み取るということを通して、データが示していることだけでなく、いろいろな捉え方ができると学んだ。世界の課題に対して自分なりの対策を考えるのは難しく、いろいろな情報を見比べる中で、問題を広く捉え、考える良い機会となった。

(1) 探究テーマ [選挙の投票率の低下]

(2) 探究内容

選挙の投票率の低下の原因とそれに対照する解決策を述べている。

(3) 訪問先 [株式会社東芝]

(4) (3) からの学び

世の中の問題を解決するためには文系、理系両方の視点を持ち、問題解決に取り組むことが大切であることがわかりました。問題解決を図るために、具体的には常に世の中の動きにアンテナを張ったり、自分の支持している考え方とは逆の意見にも耳を傾けることを意識します。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱから私は二つのことを学ぶことができました。

一つ目は身の回りの課題、問題にアンテナを張る力が得られたことです。例えば、物価高が続いているのに所得が上がらない問題や、選挙の投票率が低い理由やその影響などについて自発的に調べて、それを解決する術を積極的に考えるようになりました。

二つ目は、「問題意識を持つことの大切さ」です。私たちが問題意識を持つことで誰かの苦しんでいる声を、かき消される前に拾うことができ、SDGsの「誰一人取り残さない」という基本理念を守ることができると思います。

(1) 探究テーマ [食品ロス]

(2) 探究内容

世界の食品ロスの現状から日本の食品ロスについて注目し、自分なりに食品ロス削減に有効であると考えたアイデアを解決策として提案しました。

(3) 訪問先 [株式会社東芝]

(4) (3) からの学び

初めてのプレゼンテーションのためとても緊張しました。1人ずつプレゼンを進める間に会話が途切れてしまいどうしようかと思った時、話を転換し発展してくださり、とても安心して最後まで続けることができました。訪問先の皆さんのコミュニケーションスキルの高さをすごく感じました。また、提案させていただいたシステムは、自分では良くできていると思っていましたが、その問題や課題について指摘をいただき、より良いアイデアの提案をいただきました。私は、「他の案はないのか」との問いに何も答えることができず、準備不足を思い知りました。自分ではいろいろ考え準備をしていたつもりでしたが、アイデアの幅が狭く、もっと広い視点でものを見て考えるようにすれば良かったと痛感しました。今回の東京研修を終えて、十分な事前準備とコミュニケーションスキルの大切さを学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

今回のMC探究では世界または日本の課題について自分で考え、その中から1つ選び解決策を提案するという内容でした。今、日本を含む世界では様々な問題が発生しています。そしてその多くは、残念なことに私たち人間が引き起こしているのだと思います。それらを改善していくのはこれから未来を生きる私たち高校生などの若い世代です。しかし、なかなか自分から課題解決に向けて動くことは少なく、他人任せになってしまっていることも多いと感じます。今回の経験のように、こういう機会を通じて自分には何ができるのか考えることで、将来少しでも世界の問題に目を向ける人が増えると思います。その点でMC探究はとても有意義のある活動だと思いました。

(1) 探究テーマ [海洋プラスチックについて]

(2) 探究内容

海洋プラスチックが海の環境に与える影響を調べて、その対策を自分の進路を元にアプローチの方法を考え、発表を行いました。

(3) 訪問先 [株式会社東芝]

(4) (3) からの学び

ボランティアとして行うことも大切だが、その活動を続けて行くための資金をどう作っていくか。←そのためには少しは営利のことを考えた活動に必要なこと。など、やはり続けて行くためビジネス的な面も考えなければいけないことなどを学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

現在、世界ではSDGsが話題になっており、その活動を推進する動きが様々な企業、会社などでも増えています。その中で今回のMC探究では日本や世界の問題について、自分の進路などからどのようなアプローチができるかというテーマでした。私は今回の活動を通して「自分には何が出来るのか」を考えることの大切さを学びました。今、私たち高校生には世界的な問題に貢献したり、何か大きな問題を解決するのは難しいかもしれませんが、今自分にできることを考えて行動する。今回で言えば、自分の進路や夢に関連した何か、少しでもいいからできることを考える。そういった姿勢を持つことで問題に対して真剣に向き合うことができる。この積み重ねが少しずつ解決に繋がって行くのではないかと思います。

(1) 探究テーマ [スポーツ&ジェンダー]

(2) 探究内容

世界中の人々が平等にスポーツを楽しめるようにするにはどうすれば良いか。

(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

探究の発表について、アドバイスをいただく時間に「探究テーマの内容である規制の対象の線引きが曖昧である」、という点で企業の方とディスカッションをさせていただきました。そこで感じたことは、どのような形が最善なのだろうかとそれぞれが考えを深め、答えを導こうとする姿勢が、起こる問題を解決していく手段だと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

日本、世界の問題について調べていくうちに、自分ではどうにもすることができないだろうと考えていたことが、自分の将来のキャリアを通じてかんがえてみると、自分の力でも何かできることはあるのではないかと思えるようになりました。このような希望や意欲を持ち社会で活躍したいと考えられるようになりました。

(1) 探究テーマ [日本の介護問題について]

(2) 探究内容

現在、超高齢化社会となっている日本では、老老介護、介護難民などを含む様々な介護問題がある。これらの介護問題はすべて、介護サービスを有効的に活用することが重要であるが、現在日本では、介護業界の人手不足が深刻化している。そこで、自分が実際に介護福祉士になったり、介護用品を普及させたりすることで、この問題の解決に少しでも貢献できると考えた。具体的には、介護福祉士になったら介護相談窓口を作り、介護者本人だけでなくその家族、関係者の悩みを聞いて家庭内での高齢者虐待を防止したり、施設内のチームマネジメントを適切に行い、施設内での高齢者虐待を防止したりしていきたい。介護用品の普及に関しては、企業の介護用品を実際に現場で使用し評価、フィードバックを行い、現場のニーズを踏まえて企業がさらに改善するという、企業と介護現場の連携したサイクルをつくることで介護用品を普及させることが出来ると考えた。このような取組で、介護職に対するイメージをプラスにしていきたい。

(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

「こうしたい」「こうなればいいな」では解決できないため、実際に自分が出来そうなことから考えていくと良いというフィードバックを頂き、まずは、高校生の自分が出来ることとして、日本にどのような介護問題があり、その問題の背景には何があるのかを調べ、どうしたら改善できるのかという自分なりの考えを持つようにしていきたい。また、将来どうやってこの問題に関わり、解決していくのか広い視野をもって改めて考え、キャリアプランを立てていきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

1年生の時のMC探究Ⅰでは、地域の問題についての探究だったが、MC探究Ⅱでは、日本や世界の問題についての探究で、規模が大きく、自分事として捉えるのが難しかった。しかし、問題の背景などを調べていくうちに、多方面での問題への関わり方が分かり、高校生の私でも、問題の現状を知った上で自分のキャリアプランを立てていくことで問題解決に貢献出来ることが分かった。また、職業によって問題へのアプローチの方法が違うため、今回のMC探究Ⅱを通して、どういう仕事をしてどのように社会に貢献していくか、自分の進路について改めてよく考えることができた。この学びを活かし、「まだ高校生だから、今の自分に出来ることは無い」と諦めるのではなく、どんな事でも広い視野を持って考えるようにしていきたい。今回テーマにした介護問題だけでなく、さまざまな課題を自分事として考えていきたい。

(1) 探究テーマ [地域公共交通の課題]

(2) 探究内容

地域公共交通（バス）をめぐる課題を考察し、解決策を探りました。

(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

課題解決のためには将来性を考え、コストや現実性をふまえた対応が必要だと学びました。私が考えた解決策はコストの面で課題があり、効果的な取り組みにならないことに気づきました。しかし、パナソニック様の技術を応用させていただくなど、さまざまな企業の方と連携することで可能になることもあるのではないかと感じました。またパナソニック様の企業活動についても学ばせていただきました。家電事業はもちろん、住宅やエネルギー事業等、私たちの生活に密接に関わり、支えてくださっていることを知りました。加えて、創業当時の信念を貫き、日本を支え、動かしていく社員の方々の仕事に対する熱意は大変すばらしいものでした。私もそのような社会人でありたいと強く感じました。私の探究活動についての学びやパナソニック様の学び、自分の将来についての学びに至るまで、大変充実した活動になりました。ありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

身近な地域の課題を学び、解決の難しさを感じました。自ら考察を深めることも重要ですが、さまざまな事例やデータを比較し、そこから解決の糸口を探る力も必要なことだとわかりました。まさにデータサイエンスの分野です。とても難しいものですが、このスキルをしっかりと身につけることによって、将来の自分のキャリアに役立つものになると思います。今後の進路を考える上でも大変貴重な活動となりました。またグループメンバーとの議論やブラッシュアップ等の活動を通して日本や世界が抱える問題は複雑に絡み合い、深刻化していることに気づきました。そして、今後はSDGsと関連した課題解決が探究のテーマとなります。1、2学期の学びを十分に活かし、さらに充実した探究活動にしていけたらと思っています。この度の東京研修をはじめ、探究活動にご協力いただいた企業の皆様、先生方、関係者の方に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

(1) 探究テーマ [日本のバリアフリーについて]

(2) 探究内容

人々の生活との関わりが強い交通面でのバリアフリーをICT技術の活用によってどのように支えることができるのか、現在開発されているMARSというシステムを例に効果をまとめた。また、バリアフリー化に役立つようなシステムを開発するシステムエンジニアとして必要なことを考えた。

(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

システムエンジニアとして利用者のニーズを満たすような改善策やアイデアを出すためには柔軟な考え方や創造力が必要だという私の考えに、ICTが普及しAIがあらゆる場面で利用され便利になった今やこれからの時代、人間にしかできない柔軟に考える能力は必要になってくるからとても大切なことであるという意見を頂いた。これを受けて、これからの時代に必要とされる人材になるために探究活動に精一杯取り組み、自分なりの答えを出すことが大切だと感じた。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

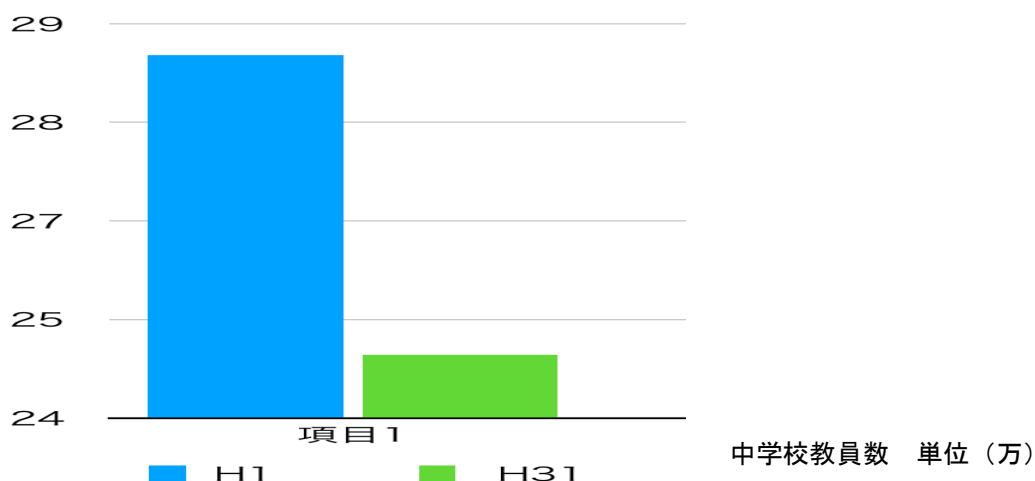
世界や日本の課題というテーマで探究活動をしていく中で、自分が興味を持ち設定した課題の解決のためにはどんな方法があるのか、どの方法が最善であるのかを試行錯誤し、多くの人々が納得できるような答えを出すことは思考力を鍛えることにつながったと思う。企業訪問では企業の方々から自分にはなかった考え方を具体的な例とともに頂き、とても貴重な機会になった。課題にどうアプローチするかを考える力は必ず役に立つと思うから、これからも強い探究心を持ちたいと思う。

(1) 探究テーマ [日本の教員減少問題]

(2) 探究内容

現在の日本の教員という職について理解し、課題を知り、それらが起こる理由を追求し、今、自分にできる事は何か、考えを深める。具体的には、教員数が減少していることに対して、教員は他の職に比べ合格発表が遅く、受験者が焦ってしまうことが一つの要因だと考えた。この課題にどうアプローチするべきか考える。

(下の図は中学校教員数の変化を表したグラフ)



(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

自分よりも多くのことを経験してきた人生の大先輩から、生きていく上で必要なスキルや知識を学ばさせていただきました。社会に出るにあたってのマナー、礼儀そしてプレゼンテーション能力など、全てがこれからの人生に役立つものになりました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分が将来なりたいと思う職業について、知識を蓄え、その職に就くにはどうすれば良いのか過程を認識することができました。中には全く知らなかったこともあり、この活動を行なって良かったと感じました。調べて終わりではなく、今回の活動を通して身につけた知識、能力を生かして将来の夢に向かって突き進んでいきたいと思えます。

(1) 探究テーマ [世界の貧困]

(2) 探究内容

貧困で苦しんでいる人の数や貧困問題の認知度、私たちが手軽にできる支援について調べました。そして、絶対的貧困という1日1.9ドル以下で暮らしている人がまだ世界に7億960万人いることを知りました。また、貧困の原因には自然災害や紛争によって収入が絶たれてしまい子供が教育を受けられなくなる、そして教育を受けられないことで、きちんと収入を得られる仕事に就くことができず貧困になっていくという負のサイクルがあることがわかりました。

そこで私は、改善策として貧困率が高い国への支援が重要であると考え、手軽にできるものを調べ、ワールドビジョンによるチャイルドスポンサーシップやユニセフによるユニセフマンスリーサポートプログラムを見つけました。

チャイルドスポンサーシップ	子供の成長報告書を貰える、手紙のやり取りができる、実際に会える
ユニセフマンスリーサポート	毎月一定の金額の寄付

また、多くの人が支援を受けるためには、より多くの人が貧困問題の深刻さを理解することが必要だと考え、この問題の知名度を調べました。

知っている	29.5 %
なんとなく知っている	43.2 %
知らなかった	27.3 %

<https://ampmedia.jp/2022/08/05/amp-sdgs1/>, (参考2023-08-27)

このデータから、まだ貧困問題を知らない人が多くいることが分かり、問題の深刻さを広めていく必要があると感じました。そのため、私は将来NGO職員となり、多くの人に貧困問題の現状、深刻さを伝えたいという考えに至りました。

(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

今回の企業訪問で、創業から現在に至るまでの貴社の歴史を学ぶことができました。また、最先端の様々な技術を学び、大変貴重な経験をすることができました。特にモビリティに関する展示は技術の進歩を学ぶと共に非常に驚かされました。この度は誠にありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

広い視野を持つ事の重要性を学びました。今まで私は日本や世界が抱える問題について考えたことがありませんでした。しかし、今回の探究活動で、世界の貧困問題を探究課題として取り上げ、世界というとても広い範囲に視野を向けた事で、今までより広い視野で物事を考えられるようになりました。

(1) 探究テーマ [臓器が足りなくて救えなくなってしまう問題]

(2) 探究内容

臓器不足の主な原因である、臓器提供者が少ないこと、臓器提供意思表示カードが浸透していないことから、解決方法を考えました。具体的には人工臓器を普及させること、価格を安くするために臓器用の電池を開発して大量生産し、安く提供することです。

(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

パナソニック様の企業方針や歴史を知ることが出来ました。また、最新の車の内装の体験はとってもワクワクしたし今の技術がどのような方向に向かっているのか知ることが出来ました。企業の説明の時にハキハキと自信を持った話し方、大きい話題から詳細を話していく構成で伝えているという点に注目して学びに繋げることが出来ました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分の将来のビジョンや今起きている問題を、他人事としてではなく自分事として受け止めてどうアプローチすればいいのか、深く考えるきっかけになってとてもいい学びが出来ました。自分が興味のあるテーマを、時間をかけて調べ、考えることで、将来どんなことをすればいいのかという目標が出来ました。

(1) 探究テーマ [SNSによる生きづらさ]

(2) 探究内容

SNSが普及したことにより、自分の容姿にコンプレックスを抱いたり、他人の目を異様に気にしてしまったりする人が増加していることが日本における問題である。それと同時に美容整形業界の隆盛により、美容整形の低年齢化、一般化が進んでいる。実際にも、美容整形の患者数はこの6年間で約7倍に増加している。そのため、美容整形の手を借りずにこれらの問題を解決するためには、メイクの力をもっと世間に広めることが重要だと考えた。なぜなら、現在これらの問題の解決策はカウンセリングを受けて根本的解決を図るのみであるが、それには膨大な時間を要するので、根本的解決までの橋渡しとなるようなものを考える必要があると感じたからだ。

(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

一つの問題について、多数の視点から解決策を考えることが重要であり、そうすることによって、長期的な物事の考え方ができることを教わった。私は、これを生かして今後の探究活動でも、インターネットだけではなく、本や、各分野の専門知識をもった人にアドバイスをもらいながら解決策を考えていきたい。

また、このアドバイスは持続可能な開発目標にも関係していると考えた。そのため、学校生活だけではなく、将来の仕事について考えるときなどにも活用していきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究では、私は日本全体の課題を他人事ではなく自分事として捉え、自分ができることという観点からアプローチすることが大切だと学んだ。私の探究テーマは、主に若者に関係することであり身近に感じやすいものであったが、今後は視野を広げて環境問題について私のできることについて考えていきたいと思った。

(1) 探究テーマ [LGBTが生きやすい世の中にするために]

(2) 探究内容

LGBTが生きやすい世の中にするために

(3) 訪問先 [パナソニック株式会社]

(4) (3) からの学び

ご多用の中このレポートをお読み頂きありがとうございます。この度は、実際にLGBTが生きやすくなるための取り組みをしている大企業からのフィードバックを頂けるという、貴重な体験をさせて頂きました。今回私は、LGBT向けのプラットフォームを作るという案を出させて頂きました。しかし、その運営には、個人情報の収集が必要になるから民間企業の目標としては、あまり適さないのではないかというご指摘を頂きました。LGBTというテーマは、センシティブで個人情報に関わってくる課題であることが分かりました。プラットフォームを作って業界をまとめるという案は、とても高評価を頂いたので、これから私は「プラットフォーム」について研究していこうと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私はこれまで、ビジネス業界でのプラットフォームという立ち位置が、よく分かりませんでした。しかし、東京研修をきっかけにプラットフォームが社会にどれだけの影響を与えるのかを、知ることができ、情報工学の道に進みたいという、将来なりたいものを明確にすることができました。

(1) 探究テーマ [日本の介護士の減少]

(2) 探究内容

現在、日本で起きている介護士の減少という課題について、何が原因で起きているのかを調べ、その原因を踏まえて、この課題に私はどのような方法でアプローチできるかを考えました。

(3) 訪問先 [パナソニックホールディングス株式会社]

(4) (3) からの学び

パナソニック様といえば、家電製品が私たちの暮らしや生活と根強い関係を持っているという印象でした。実際、私の家には数え切れないくらいパナソニック様の製品がたくさんあり、他の家庭でも同じだと思います。だからこそ、家電製品以外での事業の数々をお聞きした時は、こういうこともやってるんだとパナソニック様の事業の規模の大きさにとても驚きました。現在、世界で起きている様々な問題と向き合い、その問題の解決、改善に向けて、パナソニック様だからこそ新しい商品や考え方で事業を進められていて、パナソニック様が私たちの生活と大きな関わりを持っているのはこういう事なのか！と強く思いました。また、会社全体が創業者である松下幸之助さんの考えや言葉に誇りをもって、働いているからこそパナソニックという会社の商品が生活に必要な不可欠な存在になっているのだと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

1、2学期を通じて日本の介護士の減少と自分のアプローチの関連だけではなく、その問題の現状、原因、対策について深く考え、自分のアプローチの強みにすることができました。また他の生徒がテーマにした日本や世界で起きている様々な問題について、自分だったらどうアプローチするか、何が出来るのかを考えて、自分の問題として捉えることができました。データサイエンスの利用では、インターネットで得た情報を用いてグラフを作成し、自分の主張により意味を持たせることができました。これからはインターネットで得た情報ばかりではなく、自分でアンケートを実施し、自分で得た情報でグラフなどの視覚的要素を作成することで、いまよりさらに説得力があがるグラフになると思いました。

(1) 探究テーマ [教員不足について]

(2) 探究内容

私は日本における教員不足について探究しました。メディアや学校の先生などを通して高校生が良く耳にする日本の問題であると考えたからです。教員不足は学校の配置基準に教員数が足りていないことを指します。この問題によって起こり得るであろう教員の負担の増加や、特別支援教育に関する課題から、問題解決のためには教員を増やすことや今いる教員を減らさないことという2つの観点からアプローチが必要なのではないかと考え、ペーパーティーチャーの実態や海外の教員の仕事事情などをふまえて探究しました。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

プレゼンから、「法律についてはどうなのか」「自分の市町村ではどのような状況なのかを入れると良くなる」などフィードバックをいただきました。また、「学校の先生にもアンケートをとるのはどうか」とアドバイスをいただき、日本という大きな視野だけではなく、身近な場所ではどのような風に問題となっているのか、どのような実態があり、どのように解決しようとしているのかを考えることや具体例を出すことが大切だと学び、分かりやすいプレゼンに繋がると感じました。

プレゼン後には見やすいスライドを作るための工夫を実際に作ったスライドを見せていただきながら教えていただき、とても勉強になりました。スライドを見ただけでこれから話す内容を分かるようにしたり、スライドのコピーから色を変えることで統一感を出し、聞き手が内容を理解しやすくなるだけでなく自分もスライドを作りやすくなったり、少しの工夫がプレゼンを大きく変えることが分かりました。

また、貴社の雰囲気がとてもあたたかく、緊張していた企業訪問ですが充実したものとなりました。本当にありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

探究のテーマを設定するにあたり、日本または世界の問題という大きなテーマで考えなければならなかったため決めるのに時間がかかりました。私は特別支援教育に興味があり、関連する教員不足というテーマで探究をしましたが、解決方法を考えることが難しかったです。しかし、テーマに対して良く考えて調べて自分なりの意見を持つということは自分の為になったと思います。また、「キャリアを通じたアプローチ」が、評価項目のひとつとしてありましたが上手くできませんでした。高校生という立場で、どのような職業で問題にアプローチをすれば良いのかというのが難しく、テーマだけでなく職業についても探究を始める時に考える必要があったと思います。

私は人前で話すことに苦手意識を持っていますが、グループのメンバーのプレゼン・スライドから学びを得たり、お互いのアドバイスをしたりと協力して練習を重ね、当日を迎えることが出来ました。同じグループのみんなには感謝でいっぱいです。企業訪問をしてプレゼンまでさせていただくという経験は高校生のうちからなかなか体験出来るものではないので、良い経験になりました。企業訪問をさせていただいて学んだたくさんの方の事を吸収し、今後のMC探究や学校、将来に生かしていきたいと思えます。

(1) 探究テーマ [日本の子どもの貧困]

(2) 探究内容

はじめに、貧困の現状や原因について調べ子どもの貧困についての理解を深めた。複雑で多様な原因の中でも大きな要因とされる、ひとり親家庭の増加や所得の不足、国や地方公共団体等による金的支援の認知度の低さに着目し、就労支援や経済的支援の周知活動、子ども食堂の支援や創設を行うNPO法人を立ち上げることで子どもの貧困という課題を解決できるのではないかと考えた。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

内容面としては、提示した解決策について、より具体的かつ明確に示すことで聞き手の理解が進み、発表自体の説得力が上がるということを教えていただいた。そこで、東京研修後、アドバイスを踏まえ政府や市区町村などが実施している支援の周知活動について、どのように広げていくのが効果的なのか調べまとめた。校内発表会では具体的な案があったことで考えが伝わりやすかったというコメントをいただくことができた。また、データの活用法や発表の技法についても学ぶことができた。データの活用法としては、使用したデータが自分の主張したいことと合った内容になっているかや、聞き手にとって見やすいデータになっているか確認することの必要性を学んだ。発表の技法としては、最初に質問を投げかけてみたり、1枚目のスライドを「7人に1人」のように、キーワードにすることで聞き手の注意を引くことができ、より自分の発表に集中してもらうことができることを学んだ。また、声の大きさや話すスピードをコントロールすることも重要だと知り、校内発表会で学んだことを意識して行ったことで和やかな雰囲気でのプレゼンを進めることができた。常に聞き手を意識する大切さを深く学ぶことができ、今後の人生でもこの経験を生かしていきたいと感じた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

最初は1人でテーマを決め、1人で探究し、1人で発表することに不安を感じていたが、ひとりひとりテーマを決められることで元から興味を持っていた子どもの貧困について探究を進めることができ充実した探究となった。また今回はデータサイエンスを用いたことでより説得力のある発表を心掛けられたので、今後活かされるような学びをたくさん得ることができた。そして何より1番の学びは、1人での探究活動であっても周りの助けによって成り立っているということだ。練習の時にたくさんコメントをくれたり、案を出して協力してくれた仲間のおかげで完成させることができた。自分も仲間のために力になりたいと感じたし、助け合うことの重要性を学ぶことができた。

(1) 探究テーマ [日本の待機児童問題について]

(2) 探究内容

待機児童問題への対策として、保育士の立場から、「①企業保育所での保育、②体験会、研修会の開催、③職場の業務内容の見直し」の3点からのアプローチが有効だと考えた。具体的には体験会などにインフルエンサーなどを呼び、より多くの人に知ってもらうことや、実際の保育士を企業に派遣して保育したりすることを提案した。また、職場環境の見直しとして保育所に主任やリーダーなどの新役職を設置しそれに対応して給料を上げていくことを提案した。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

アプローチとして提案した体験会、研修会の開催に対して「そのようなイベントにインフルエンサーを呼ぶのはどうか」というような自分とは違った視点からのアドバイスをいただいた。そこから、それまで自分の中で不明確だった人を呼び込む方法など、有効的なアプローチの仕方を学んだ。そしてそれを取り入れた新しい案を発表にも組み込めた。また、データサイエンスの重要性も学んだ。自分でアンケートなどを取り、より多くのデータを集めて活用していくことで有効的なアプローチをすることができると思った。今回の発表では主に保育士目線での意見を多く取り入れてきたが、これからの探究活動では自分でアンケートを取るなどして保育士の他にもこどもを持つ保護者や園児の意見なども取り入れていきたいと思っている。活動をより深めていけるようなとても貴重な意見をいただいた。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

一つの課題に対してこのように長い期間を通じて向き合うことが少なかったし、未来の自分のキャリアからのアプローチなどを考えるのも大変だったけど、今回の探究をきっかけに向き合い方などを学んだしとても充実した活動だった。また、これまでと違って課題設定から発表までを一人でやったけど、似た課題のひとに相談したり友人にアドバイスをもらったりすることで、仲間の発表の仕方などから良いところも学べた。

(1) 探究テーマ [音楽の授業が楽しくない]

(2) 探究内容

私は、音楽教育の課題について探究活動を行った。本来音の芸術である音楽には正解や絶対的評価がない。しかし、実際の教育現場では歌唱や楽器演奏のテストが行われており、基準を設けた評価をしている。これが原因となり音楽の授業がつまらない、楽しくないと感じる生徒が増えてしまうことを問題視した。実際の調査結果からも音楽の授業に評価は不要と感じる生徒が半数以上いることが分かり課題解決の重要性に気付かされた。そこで私は音楽教師を目指し、生徒一人一人の表現する音楽を大切にしたいと考えた。そのために、音楽教師が生徒の音楽の評価や優劣などの分類をしない、一方通行で教えない、自分たちで作らせるという方法を考えた。そうすることで一人一人の個性を最大限活かすことができ、音楽の無限の可能性に気づいてもらい楽しいと感じてくれるのではないかという考えに至った。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

実際に発表を見ていただき、多様なデータの重要性について学ぶことができた。私は自己の主張を裏付けるデータだけを引用したが、他の物と比較したデータも用いることで課題の深刻さが伝わるというアドバイスをいただき、より説得力のある発表へと改善することができた。また、引用したデータを用いるだけでなく、自己調査によるデータも用いることで聞き手の関心を引くことができると言うアドバイスも今後の探究活動で活かしていきたい。発表スキルの向上に有効なアドバイスをたくさんいただきFCEエデュケーション様への訪問はとても貴重な経験となった。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自身のキャリアと直接結びついた課題を設定し、課題が生じる原因や解決方法、アプローチまで具体的な探究ができた。音楽の授業は自分も小学校の頃からずっと受けており実際に「音楽は好きだが、授業は楽しくない」といった声も何度か聞いたことがあり身近な問題だという意識があった。課題が生じる原因や解決策を考案する上でインターネットの情報も頼りにしつつ、授業が楽しくないと感じる生徒の気持ちにも立つことで聞き手にもより共感してもらえるよう考えることができた。また多角的に課題を捉えることを意識し、音楽の授業の問題点もあげつつ、音楽の授業の必要性にも着目することができた。そして今回初めてデータの使用を重視した発表を行い、データのもつ大きな力を実感することができた。データの使用により問題の深刻さや重要性を視覚的に理解でき聞き手の興味も引くことができると実感できた。その一方で、課題に直接関係したデータを用いるだけでは多様性に欠けることをご指摘いただき、広い視野を持ちデータを収集することが大切だと学ぶことができた。ひとつひとつ丁寧に向き合い、具体的に探究したことで自身のキャリアに有効で実りある成果を得ることができた。

(1) 探究テーマ [日本の廃校舎の未来]

(2) 探究内容

①問題の現状と背景

平成14年～令和2年に発生した公立小中学校の廃校舎8580校のうち、現存している校舎数は7398校。そのうち、5481校は社会福祉施設や企業の施設として活用されているが、約3割の廃校舎が活用されず放置されている。(文部科学省の調査より) 校舎の老朽化、活用用途が決定しない、活用に必要な財源が確保できないといった原因から放置されている。廃校舎を放置することは、地方自治体から拠出している維持管理費の負担増加や、地域の景観の悪化、治安の悪化につながる。

②解決策として行われていること

文部科学省が「みんなの廃校プロジェクト」を立ち上げ、企業による活用を希望する自治体の廃校舎についてPRを行っている。活用希望企業とのマッチングを推進し廃校舎の活用を実現させている。

③自らのキャリアを通じてどのようにアプローチするか

私自身が廃校舎を抱える地方自治体の公務員となり、問題を地域住民に広めることで、より早い活用を目指す。「みんなの廃校プロジェクト」で紹介されているのは廃校舎の情報のみで、地域住民のニーズについて触れられていない。そこで、地域住民に問題意識を持ってもらい、廃校舎の再活用について考えてもらうことで、地域住民のニーズと合う企業とより早くマッチングできるのではないかと。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

様々なフィードバックを頂き、その中でも一番参考になったのは地方公務員でなくても解決策は実行できる、大学生になったら始めたら良いというアドバイスだった。このアドバイスから、年齢や職業にとらわれず、柔軟に行動することが大事だと学んだ。年齢や職業を理由に後回しにせず、実際に問題を解決するためのアクションを起こしていくようにしたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

自分の探究内容について、1学期の時点では他の人に見せるようなことがなかったため、2学期に入って初めて他の人と意見交換をした時に、自分の発表に欠けている箇所が山ほどあって、修正やデータを追加する作業に苦労した。この経験から、一人での作業では見落とす箇所があるので、他の人に必ずチェックしてもらうことが重要だと感じた。プレゼンスキルについては、オーレンプラザでの発表者と自分の発表を比べて、アイコンタクトの取り方が不十分という課題があると感じた。発表する場所や観客との位置を意識して、どんな場面でも適切なタイミングでアイコンタクトを取れるようにしたい。また、原稿をしっかりと覚えるようにして、より目線を観客側に向けられるように、これからの練習をしていきたい。

(1) 探究テーマ [日本人の死因における自殺率について]

(2) 探究内容

日本人の死因の中で大きな割合を占めている自殺という問題。がんや心疾患などの病気や疾患を除くと自殺は全体の中で3位に当たります。特に、15歳から35歳の若者世代の人々の死因は自殺がトップです。世界各国と比較してみても、日本の数値は非常に高いもので、またこれにより24.5億ドルもの経済的損失を招いているというデータもあり、日本という国のイメージや将来にも影響を及ぼす問題です。そんな自殺の根本的な原因である過労や負債、職場の人間関係などの仕事に関わる要因に働きかけるべく「職場環境の改善」という側面から問題解決へ導こうと考えました。提案するのは、【MBTI：マイヤーズ・ブリッグスタイプ指標】を用いた職場環境の改善です。自己理解や自己成長を目的とし、多様な価値観を知り、相互理解を深める礎となるMBTIを用いることで、社員同士の特性や長所を理解し合い、より一人一人が働きやすい環境にする事ができるのではないかと考えました。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3)からの学び

最終的な主張をまとめるにあたって、大きな助けを得ることができました。フィードバックの時にご紹介いただいたモチベーションナビは、共に働く仲間の価値観の可視化と共有によって社員一人一人がよりストレスなく働けるようになる可能性がより明確に示されており、すごく興味深い内容でした。私が調べていたMBTIよりも「一層事」というフィールドに特化していて、実際の職場にも取り入れやすいだろうな、と感じました。また、複雑な図の示し方についても「全体像だけでは内容が入りづらい時もある」「必要な情報だけを抜き取って、加工して伝える」などのアドバイスをいただき、データを用いる時には、重要な、自分が示したい点をよりわかりやすく相手に伝えられるように伝え方を柔軟に工夫することが大事なんだな、ということに気づきました。今後はどうしたら上手く伝えられるか、元の形態にとらわれずに様々な方法を模索するようにしたいです。また、ディスカッションして下さった小川美奈恵様のフィードバックの仕方や生き方、などにも多く学びがありました。まず、私を含む五人全員の発表のテーマと自分自身の関連を見つけ、そこから話題を広げていく、その話の引き出しの豊富さがすごいと感じました。どんなテーマも他人事としてでなく自分事として捉える姿が素敵でした。私も多様な方向に常にアンテナを張ってもっと様々なニュースや話題を取り入れ、様々な角度から物事を見る事ができるようにしたいと思います。休憩時間中に話されていたご自身の学生時代の話も、とても勉強になりました。失敗を恐れず自分の好奇心や挑戦したいことに向かってためらうことなく進んでゆける、素晴らしいお人柄だと思います。私も人生は一度きり、失敗も糧となる、その時にしかできないことを大切にして、自分が何をしていきたいのか、という思いともっと真剣に向き合っていきたいなと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回は日本、世界の問題についてという昨年度よりもスケールの大きな話で、社会問題などにあまり興味がなかった私にとって、初めは難しいなという印象を受けました。ですが、ネットで問題などを検索していると、日本はこんなに平和だけれど、世界ではこんなに苦しんでいる人がいるのか、私は今恵まれた環境にいるが、そうではない人が星の数ほどいるという苦しい現実を知り、解決したい、苦しんでいる人々を救いたい、と心から思いました。私は特にショックを受けた自殺問題の解決に取り組むことにし、調査に取り掛かりました。しかし、夥しい量のデータがインターネットに広がる中で、必要なデータだけを取り出し、コンパクトにまとめるのはとても難しく、時間がかかりました。特に、自分の設定した課題に解決策を見い出すためには、自分で結論までの検証方法、道筋などを全て整えなければならず、どのように筋道立てて問題解決にアプローチしていくのか、を考えるのが大変でした。明確な答えがあるわけじゃない、検索してもやり方なんて載ってない、自分の頭で形作ることの難しさを深く実感しました。こういう力はいきなり使おうと思って使えるものではないな、普段から鍛えておくことが大事だなと感じました。何か興味を持ったニュースや記事に対して他の情報も調べて自分の主張を組み立ててみたり、新聞の社説を読んだりなど与えられた機会だけで終わらせるのではなく、今後も自分の成長のために取り組んでいきたいです。また、私は初め自分のプレゼンにとっても自信がなく、新しいアイデアを出して、みんなに否定されないかな、無駄だって言われられないかな、ととても不安でした。ですが班のメンバーは優しく、それを受け入れつつ、アドバイスもくれて、とても心強かったし、発表を重ねるうちに、自分の考えがまとまってきて、企業訪問では自信を持って発表する事ができました。ここでも新たな学びを得る事ができました。考えの正しさとか良い発表の仕方とか、自分1人で考えていた時はずっとどこか不安で、でもだからと言って自信を失って自分の中に閉じ込めていたら、永遠にその不安からは抜け出せないのではないかと思います。周りの人とコミュニケーションをとったり、その力を借りることが、自分にとって、また周りの人にとってもいい効果になるんだなと思いました。自分で深く考えることは大事ですが、1人だけでずっと考え続けるのは違う、ということを学びました。社会に出てからも、プレゼンを作ったり、データをまとめて検証、報告したりなどの作業がたくさんあると思いますし、自らで課題を設定して、自分で結論を探っていくという活動は大学の研究などでも役立つと思うので今回の経験はすごく自分の将来のためになったと思います。生徒同士でプレゼンを発表しあった時は特に有意義な時間でした。自分には解決策は見い出せない、と諦めた問題やそもそも知らなかった課題など新しい視点を与えてくれるものが多く、とても楽しかったです。これだけ多くの、しかもどれも重要な問題が世界中に転がっているならば、それらを解決するために誰もが、どんな仕事をしていても、社会に貢献できるのではないかと思います。私はこの活動を行うまでは、社会をより良くするために、私ができることなんて何もない、世界の何を変えることもできない、というふうに思っていました。今回の活動を通じて私は社会には常に様々な問題点・課題点が溢れていることを肌で感じ、私も自分の興味のある事ややってみようという事で社会貢献できる可能性があることを学びました。日常にある問題にどうせ何もできないと悲観的にならず、積極的に取り組んでいきたいです。

(1) 探究テーマ [日本の図書館職員の雇用状況]

(2) 探究内容

今日の日本の図書館の問題を、①利用者の減少、②司書一人あたりの負担の増加という視点にフォーカスして、原因や背景、その問題が起こることによる影響などを調査・考察した。その後、図書館司書を目指す自分のキャリアを通して問題解決にアプローチする方法を模索し、双方の問題解決に必要な予算増加を実現するために、図書館のはたらきについての知識を普及させ、図書館の価値を人々に認めてもらえるようにすることを解決策として提示した。本の貸し出し以外の図書館のはたらきとしてある「レファレンスサービス」の存在を周知させていくとともに、図書館の利用方法を学生に知ってもらう「図書館教室」などの活動を行うことで、課題を解決できると考えた。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

企業訪問当日は、1つのグループにつき企業の方1人が付き、一つのテーブルで発表、フィードバックを行う形式だった。自分の探究内容や発表態度の改善点をわかりやすく指摘していただき、スライドに載せるグラフや表に使われている文字の色、大きさの工夫が大切なことや、使用する画像は、同じ引用元(同じ絵柄)のものを使用すれば聞く人の見やすさ、理解しやすさが向上することを知ることができた。また、逆に自分の発表でできていたことについても多く言及していただき、ここが自分の発表の長所だったんだ、と自信も持つことができた。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

以前から就きたい職業は決まっていて、自分が好きな分野で少しでも社会に貢献したいという思いはあった。しかし具体的な目標や方法は考えておらず漠然としたもので、あのまま進学・就職していても、自発的に特別行動を起こすといったことはなく「なんとなく」な姿勢のまま働き続けていたと思う。今回の探究活動を通して、自分がなぜその職を目指そうと思ったのかというきっかけから、将来どんな自分になりたいのかという人生の目標までを見つめ直すことができた。そして、実際起きている問題について調べ、自分の力で具体的な解決策を考えるという活動を通し、数年後、自分にこれが実現できるかもしれない、挑戦してみたいという意欲が生まれた。

(1) 探究テーマ [子どもの思考力の低下について]

(2) 探究内容

小中学生の読解力が低下している現状から、どのような教育が改善策として挙げられるかを考察した。スマートフォンの過度な使用などの原因があることを踏まえ、生徒自身の勉強に対する意欲を向上させるような授業が相応しいと考えた。したがって私が教師になったら、グループワークを増やしたり、生徒が聴いていてわくわくするように話すなどの工夫を施して、未来の子どもの思考力を養いたいと考える。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

主に、質の良いプレゼンの仕方について学ぶことができました。先に数字だけを見せたり、突然質問したりするなどのテクニックは、私が将来教師になって授業をする際にも活用したいと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

2億4400万人。これは2021年時点の、世界の学校に通っていない子どもの人数です。学校がないと字の読み書きができず、生活が困難になってしまう子どもが増加してしまうため、すぐにでも解決すべき課題だと考えます。実際に教育機関に資金を提供するなどの取り組みがありますが、それでもまだ足りていないのが現実です。

このように、教育に関する問題は世界中にあることがわかりました。全ての子どもが正しい教育を受けられる世の中になるように尽力していきたいと思えます。

(1) 探究テーマ [不適切保育]

(2) 探究内容

不適切保育が起こる要因は5つある。それらの要因が保育現場の逼迫や保育士の負担・ストレス増加、保育士の離職率増加などの環境悪化を導く。不適切保育をなくすためにはどうしたら良いのかという5つの要因に対しての一般的な解決策。その中で自分が特に問題視する要因をあげ、それらを解決するために自分ができる施策。その施策を行うことで、どのように問題が解決されていくのかという道のり。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

自分の施策を考える際には、事前に行われている国や自治体の施策を調べておく事が大切だと学びました。それらを調べた上で、なぜ問題が解決せず問題のままなのか、その原因は施策そのものにあるのか、それとも施策に問題はなく世間に知られていない事が問題なのではないか、知られていない事が課題だった場合、世間に情報を共有するにはどうしたら良いかなどを見極めることが大切だと知りました。ただ自分がしたいことを考えるのではなく、今の社会の現状を踏まえた上で自分が何をすべきなのかを考えることが問題を解決するための第一歩なのだ学びました。このようなアドバイスをいただき、私は事前の情報収集に不足があったと感じました。今後、このように問題を提示し解決策を考える際は、情報収集を怠らないようにしようと感じました。

また、発表スライドの作り方についてもアドバイスをいただきました。各スライドに題名を入れることで発表を聞いている相手が何について話しているのかわかるようにすること、同じ図を色の濃さを変えたりしながら繰り返すことで活用しスライドに一貫性を持たせることなどを学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私は姉が保育士ということもあり、普段何気なく見ているニュースで取り上げられている不適切保育が目にとまりMC探究の題材に選び、活動に取り組みました。情報を集めるまでは、気づかなかった保育現場の逼迫や、保育士の負担増加などに気づく事ができました。世間では不適切保育のニュースに対し、保育士への批判が多く見られますが、保育士を、不適切保育を行うまでに追い込んでしまう環境があるということを知りました。問題の表面だけではなく、問題が発生する原因の根本的な部分まで知る事が大切だと学ぶ事ができました。またスライドや、発表する際の姿勢など、授業では学べないことも多くあり、社会に出てから役に立つ知識・技術を学び身につけることもできました。

(1) 探究テーマ [子供の自己肯定感]

(2) 探究内容

日本は、子どもの自己肯定感が他の国に比べて低いので、その要因と解決策について調べたり考えたりしました。特に、親との関係や子育て時の言葉がけについて着目し、自分のキャリアでも、子供と親の両方にアプローチして解決したいと考えました。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

スライドの使い方や構造についてアドバイスをいただきました。特に、グラフはタイトルだけでなく、調査の対象や日付なども口で言うだけでなくスライドに書いてあるとわかりやすいと学びました。確かに、説明を聞いていてなんのグラフなのかを改めて確認したい時に、スライドに書いてあると理解が深まって伝わりやすいと思ったので実践したいと思いました。また、内容が抽象的だったので、身近な例を取り上げてそれについて意見したりすると具体性が出ると教えていただきました。自分でも抽象的だと思っていたのですがどうしたらいいかわからず、そのままプレゼンしてしまっていたので、これからスライドを作ったりプレゼンしたりする時も意識しようと思いました。他にも、イラストの使い方も、実際に使ったスライドを見せていただきました。自分でも調べたつもりでしたが、初めて見るような使い方、見た目も華やかだったし、わかりやすかったのが印象的でした。ただ型どおりにやるのではなく、どうしたら興味を持ってもらえるか、分かりやすく伝えられるかを自分で考えて作ることも大切だと学びました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

グラフの活用方法や必要な説明、出典、イラストの使い方など実際にやってみなければ知れなかったようなことが学びました。例えばグラフは、種類だけでなく色使いや文字のサイズも気をつけなければならないし、その引用元や調査対象も伝える必要があります。それをスライドに書くか口頭だけで言うかも考えたりしました。今回は、iPadでスライドを表示してプレゼンすることを後から知り、急遽字を大きくして文字数を減らしたりしてしまったことで、説明不足になってしまったところもあったので、スライド上に必要な説明と口頭だけでいい説明をきちんと分けられるようになりたいと思いました。私は図やイラストは端に貼っただけでしたが、それを主役にしたようなスライドの使い方もあることを知れました。以前から興味があった子供の自己肯定感や子育てについてもさらに詳しく学ぶことができました。興味があったとはいえ、Instagramなどで見る程度だったのでしっかり知れて良かったし、自分の将来について考えるきっかけにもなり、選択肢のひとつにもなったのでこんなふうにかくさん調べて将来について考えることは大切だと思いました。また、仲間のプレゼンを聞いた事で、みんながどんなことに関心があるのかを知れて刺激になったし、アドバイスし合ったりして楽しく取り組めたことで、完成度も大きく変わったと思いました。こんなに、ひとつのことについて調べてプレゼンまでしたことがなかったので、いい経験になりました。

(1) 探究テーマ [児童の体力低下問題]

(2) 探究内容

近年、児童の体力低下は社会的な問題になっている。その背景として、生活様式や社会環境の変化、新型コロナウイルスの影響が挙げられる。この問題が深刻化すると健康的な働き手が減少し、国内の経済活動を低下させる恐れがある。私達の生活にも大きな影響を与える可能性が高い。そこで、解決策として自分は教師になり運動機会の増加を考えた。1つ目としては「見る」「聞く」授業から「体験する」「やってみる」授業への転換だ。また、2つ目としては高齢者との交流により昔の遊びを教えてもらうことだ。これらにより、運動機会を自然と増やすことができ、児童の体力増加に効果的であると考えている。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

プレゼンの際の発表の仕方について教えていただきました。抑揚の付け方や目線などにより自分の話したいことを伝えやすくする工夫を教えていただきました。また、グラフの効果的な活用の仕方も教えていただきました。オーディエンスに「伝える」ことが最も重要だと改めて気づくことができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

まずは問題探究により視野の広さ、視点の重要性を学びました。1つの側面に捉われず様々な方向から見ることで問題解決により有効な手段を見つけられると思いました。また、自分の発表を通して、プレゼンは「伝えるもの」であり、それには発表の仕方が大きく関わってくることを感じることができました。またこのような機会があったときには今回学んだことを踏まえて「伝わる」プレゼンを作りたいと思っています。

(1) 探究テーマ [日本の教育格差]

(2) 探究内容

- ・日本の教育格差の問題点
- ・その課題が生じる原因について
- ・課題の深刻度（グラフを用いて説明する）
- ・課題の解決のための策
- ・アプローチ法（小学校教師）
- ・課題解決に繋がる理由

問題点としては、大きな格差が生まれること。先生の質の違い。原因は、「地域・学校による教育の違いがあること」と「授業の進度が一定であること」。仮説は、「先生の質向上」×「生徒の学習環境向上」で課題解決になる。アプローチ法としては「教師」になり、（生徒同士の教え合いをメインにした授業展開）、（交流を増やしていく）、（Find アクティブライナーを用いる）です。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

プレゼンテーションを聞いてもらい多くのプレゼン方法を学びました。

1つ目に、プレゼンの始まりに目立たせる場合、数字などのデータだけを始めに提示することです。それによって、聴衆は何が来るのだろうか？と興味を持たせ内容に引き込まれやすくなる効果があることが分かりました。

2つ目に、伝えたい情報が多い場合、間を持たせることです。そうすることでスライド、グラフをゆっくり見ることができ聴衆も内容をより理解できる効果があることが分かりました。

3つ目に身近な数字に置き換えて示すことです。〇〇%や〇〇人と具体的な数字も必要だがそこで「一家に1人」や「クラスで〇〇人」などと例えることで相手の理解度や内容が入りやすくなる事を学び、自分自身でも感じる事ができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

1学期から自分の夢と向き合って夢と関連づけたことをテーマにしたいと思いながら考えてきました。教育格差を探究していく中でたくさん様々な情報に出会えたり、いろんな考え方、これからするべき事、頑張らないといけない事を感じ取ることができました。特に東京研修の企業訪問で細かいアドバイスや意見を頂いたり、ディスカッションを通して、より理解を深めることができました。自分の夢である教師という目標と今回私が課題にあげていた教育格差を繋げてこれからも自己実現に向かってがんばっていきたいと思います。特にこの探究活動で子供の教育に格差が生まれることの危険さとそれを阻止する、減少させるための行動の大切さを感じました。私も自分の理想の教師を追い求めてこれからの学校生活や日常生活をしていきたいです。

本当にお忙しい中、訪問させていただきありがとうございました。

(1) 探究テーマ [日本人の睡眠時間]

(2) 探究内容

日本人の睡眠時間が世界で最も短く、多くの人が睡眠不足で悩んでいるという事実注目し、日本人の睡眠不足解消のためにすべきことについて探究しました。この課題の原因は日本人の睡眠に対する意識の薄さにあると考え、その意識を変えるためには学校教育のカリキュラムに睡眠教育を導入する必要があるという仮説を立てました。

この仮説の有効性として、睡眠教育の最先端であるアメリカは平均睡眠時間が世界トップレベルであるということ、ある大学が行った実験で睡眠教育が一定の効果があるという結果が出たということが挙げられます。実際にアメリカで行われている睡眠教育としては、睡眠の大切さについて教える授業があるのはもちろんのこと、始業時間が遅かったり、昼寝の時間があったりします。また、子供時代の生活習慣は大人になってからも継続されることが多く、子供時代に睡眠についての教育を行うことで成人してからも良い睡眠習慣を継続できると考えることができます。

こういった睡眠教育をカリキュラムに導入するためには国に認めてもらうことが必要です。そこで、私は将来養護教諭となり、先駆けて睡眠教育を行いその結果や今の子供たちの睡眠の現状などをインターネットや書籍などのツールを利用し発信することで、国に睡眠教育の重要性を訴えていきたいと考えています。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

私の発表を聞いてくださった中島様からは「今」だけでなく、「今まで」はどうだったのかという歴史の視点から見ることや、睡眠には深かったり浅かったりという質の違いがあることなど、自分が持ちえなかった新たな物事の見方を教えていただきました。

また、最後の尾上様のお話の中で、学校の勉強は意味がなく、不必要なように思えるが、学校の勉強でさえ頑張れない人が何かを成し遂げられるはずがないという言葉に、はっとさせられました。どうせこんなことを勉強したところで将来役に立たないし意味がないと思っていた自分が確かにいました。しかし、尾上様のお話を聴いて、たとえ苦手であろうと、諦めず勉強を続けていこうと思うことができました。

さらに、私は実際に学校で養護教諭という立場に立って子供たちの生活を支援したいと思っていますが、FCEエデュケーション様のフォーサイト手帳のように、実際に学校に勤務するのとは違った子供たちとの関わり方もあるということを実感しました。

最後に、今回実際にFCEエデュケーション様を訪問させて頂いた時、とても温かく迎え入れてくださりありがとうございました。フォーサイト手帳の改良や書籍の執筆にとっても熱意を持って取り組まれているのを見て、感動すると共に自分も何か目標に向かって打ち込むことができる大人になりたいと感じました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

最初、将来何になって何をしたいのかという将来のビジョンがあやふやだった私にとって、最初は「将来自分は何になってどう社会貢献するか」というMC探究の課題は悩みの種でした。しかし、自分が好きなこと、興味がある分野を少しずつ絞り、課題を見つけ、どう解決すべきなのかを調べたり考えたりすることで、将来の夢を明確に持ち、何をしたいのか鮮明にイメージできるようになりました。

また、FCEエデュケーション様でプレゼンテーションを行うにあたり、どのようにプレゼンを構成すればより伝わりやすくなるのか、どのように喋ったら聞きやすいのかなど仲間とアドバイスを合ったり、自分で試行錯誤したりして準備を行い、なんとかやりきることができたこの経験は自分にとって大きな成長につながりました。

(1) 探究テーマ [教育現場の実態～教師のニーズと働き方改革～]

(2) 探究内容

教師のイメージの悪化や過重労働によって教師不足が進行したり、業務量の増加や学習指導要領の改訂によって業務の多様化が進展したりする現在、教師は過酷な労働環境のもとで働き続けています。過労死ラインを超える割合も高く、教師の健康障害のリスクは高まっています。業務時間を国際的に比較しても日本は上位に位置します。そこで、一般的に人々は学校外からの協力を得ることで教師の負担を軽減できると考えます。それに対して私が考えたアプローチは二つあります。一つ目は、勤務時間の適性把握です。なぜなら、勤務時間の把握は義務化されたにもかかわらず、把握されていないケースが多くあるからです。二つ目は、AIによるデジタル採点システムの導入です。なぜなら、画面上に多数の生徒の回答を一度に表示すると回答を比較しやすく採点基準が定めやすくなったり、ワンタップで正誤を記録できたりして採点効率が上がるからです。また、その後の成績処理や自習課題制作などの授業準備の援助、職業適正アドバイスにも役立ちます。このアプローチを通して、教師は休憩時間を確保できたり、過労死ラインの超過を防止できたりするため、働き方改革につながります。生徒は、近年増加している学習塾利用者との学力格差を縮め平等に教育の機会を得ることができたり、一人一人と向き合った教育を受けることができたりするため、教師のニーズを達成することができると考えます。このように、勤務時間の適性把握とAI導入の促進によって持続可能な職場づくりに貢献できると考えました。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

まず、教師の働き方や学校改革など学校教育の最前線について書かれている書籍を教えてくださいました。これから教育の分野に進むにおいて知識を増やし探究し続けるために読みたいと思います。次にアンケートを収集することを勧められました。そうすることで私自身にしか作れない発表となりオリジナリティが増すため今後は積極的に周りに協力を募りアンケートを実施したいと思います。また、データの更新について指摘されました。これから人前で発表する際には正確で最新のデータを準備することを意識していきたいと思います。最後に、私は今回教師の過酷な労働環境に焦点を当てましたが、教育現場だけでなく様々な職業で過度な労働が行われていることを教えてくださいました。そこで、全ての職場において健康的で安全な働き方を定着させるために、一人一人が見て見ぬ振りをせず問題解決のために小さなことでも行動する必要があると学びました。これから持続可能な職場づくりに貢献していきたいと強く思うことができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

設定した問いについてグループではなく個人で探究していくことで、主体的に自律して活動することができました。自分の興味のある分野について必要な知識や教養を、メディアリテラシーを発揮しながら収集することができました。職業や大学の学部学科だけでなく、将来の志を明確にすることができました。グループメンバーや代表者のプレゼンを聞き、自分が持っていないテクニックを知ることができ、とても参考になりました。相手に伝わりやすいプレゼン資料を作る中で、データサイエンスについて深く理解することができました。また、政府や大学、企業などの宣伝力のある機関でなくても、良い未来を築くために誰もが行動を起こすことができるとわかりました。これからただ社会人として仕事に就くだけでなく、キャリアを通してどのように社会貢献できるかを常に考えたいと思いました。

(1) 探究テーマ [ヤングケアラーに対する支援不足]

(2) 探究内容

ヤングケアラーのこどもたちは、家事や家族の世話を費やしている時間が、一日あたり2.9時間、かつ半数以上のこどもたちが、平日に毎日そのような家庭での生活を過ごしているという厳しい実態を知り、そのような負担を軽減するために、どのように早期発見を図り、適切な支援を施す事ができるかを探る。

(3) 訪問先 [株式会社FCEエデュケーション]

(4) (3) からの学び

自身のプレゼンテーションの未熟さを痛感し、とても有意義な助言をいただくことができました。まず、プレゼンテーションの構成について、一枚目のスライドに、ある数字のみを示し聴衆に何を示した数字であるかを問いかけるなど、はじまりから聴衆をストーリーの中にかく引き込む事ができるかが大切だと知る事ができました。また、プレゼン内で何か数字を示した際には、例えば「時間」であれば「それだけの時間があればこんな事ができます。」という様に、身近な数字に置き換えて示す事も効果的であると学びました。加えて、相関データを示すと、より説得力を持たせられる事も指導していただき、今後プレゼンをする際にはこれらの事を活かした内容にしていきます。

次に、プレゼンテーションの内容についてです。私はヤングケアラーへの支援の具体策として、無償または低費用で利用できる在宅サービスを新たに設置する、と提案させていただきました。そこに関連したフィードバックとして、今でも、うまく人々に知られていないために利用されていない良い支援が沢山ある事や、ヤングケアラーが進んで利用するためには、こどもたちにとって理解しやすい内容、伝え方にしていかなければいけない、といった助言を頂くことができました。支援の具体的な普及方法や、「こどもたちが利用しやすい制度にする」といった観点は失念してしまっていたことで、現存している制度について更に調べ参考にしながら、より提案したサービスの具体化や充実化を図るとともに、それらの方策についても検討していきます。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私は、自分自身の将来に関して、探究を始めたばかりの頃は自分が将来何をしたいのかも分からずにいましたが、自分が少しでも興味のある分野について調べていく事を通じて、自身の進路について考える良い機会にすることができました。それだけでなく、今の日本が抱えている問題、特に教育現場に関連する問題について、株式会社FCEエデュケーション様を訪問させて頂く同じ仲間と一緒に、話し合ったり準備を重ねていく事で知識を深める事ができました。また、プレゼンテーションの技術についても、繰り返し練習を重ねる事や研修で講評を頂き改善する事を通じて成長させる事ができたと思います。この探究で得た知識や、実際に企業を訪問させて頂くといった貴重な経験から得た成果や反省を、これからの自分のキャリアに活かし、教育環境の改善に貢献できる人材になれるよう努力していきます。

(1) 探究テーマ [高齢者のQOLの向上のために]

(2) 探究内容

【テーマ設定のきっかけ】

昔から旅行が趣味の祖母がいるが、膝が悪く手術をしてからあまり長い距離を歩けなくなってしまった。今でも海外旅行に行きたいとよく口にしていて、自分の足で行くことができなくても同じような体験をする方法を考えたいと思うようになった。

【日本の課題の現状】

平均寿命が伸びている一方で健康寿命との差は縮まっていない。この差とは、他者の助けがないと生活できない制限された期間であり、人間らしく自分らしい生活が難しいため、QOLが低下してしまう。

【課題が生じる原因とその深刻性】

大きく分けて2つある。

1. 精神的な症状・・・ストレス・うつなど
2. 身体的な症状・・・疾病・慢性疼痛など

配偶者の死や、退職などの喪失体験によって、社会から孤立したり、自己嫌悪や罪悪感を感じるが高齢者にとってストレスとなっている。これらの精神的負担によって生きる気力を失い、健康管理を怠ることで、罹患率の上昇・病状の悪化などの身体的な症状に繋がる。また、自殺を考えるようになる場合もあり、国内の自殺者の約3分の1は60歳以上というデータも出ている。

(厚生労働省の『うつ予防・支援マニュアル』より)

【自身のキャリアと課題の解決策】

行政保健師という立場から、メタバースを活用してアプローチしたいと考える。親しい人とだけ繋がれるワールドと、世界中様々な所に行くことができるワールドをユーザーが選んで利用できるようにする。表示方法・入力方法は、スマートフォンなどでも使われている字幕や音声読み上げ機能に加え、ALS患者に利用されている視線入力や身体障がい者に利用されている筋肉の収縮による入力を取り入れる。

【解決策の有効性】

現在メタバースでは家族とコミュニケーションをとること、旅行や買い物に行くこと、仕事などが実際に行われている。国土交通省や内閣府による調査からは、旅行やスポーツなどの趣味に生きがいを感じている一方、健康上の理由でそれらを諦める高齢者が多くいることもわかる。これらのことから、メタバースを利用することで、高齢者が我慢することなく、生きがいを感じながら生活できるようになることが期待される。

(3) 訪問先 [日本大学医学部附属板橋病院]

(4) (3)からの学び

メタバースを利用することで、身体的に動かない生活になり、体力の低下が懸念されるという指摘があった。これについて考える中で、保健師が精神面でサポートし、そこで生まれた生活への意欲を活かして理学療法士がリハビリをサポートすることで社会復帰を目指す、などのチーム医療の重要性を学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

自身のキャリアについて考えることで進路希望に変化があった。チーム医療の重要性について知り、大学でも他の医療従事者を目指す学生と関わる機会を持てるような大学に進学したいと強く思うようになった。他の医療従事者と確実な連携をするため、また、保健師として困っている方の話を聞くため、コミュニケーション能力も大切になると考えた。得意な方ではあるが、部活動などで学校外の様々な年齢の方と積極的に関わりながら、さらに伸ばしていきたい。今回、小児病棟を見学させていただけたことはとても貴重な良い経験になった。看護師として現場で働くことが怖く抵抗があったが、実際に間近で見てみて、とてもかっこよく憧れを抱いた。保健師は歳をとっても続けやすいため、若いうちに看護師を経験してから保健師になるという道も視野に入れていきたい。

(1) 探究テーマ [医師の労働時間を減らすために]

(2) 探究内容

医師の労働時間が長い原因（主治医制である、当直業務があること、医師でなければできない仕事があることの3つ）を見つけ、自分が将来なりたい職業である認定看護師の立場から医師を支え、医師の仕事量を減らして問題解決につなげるアプローチをすること。

(3) 訪問先 [日本大学医学部附属板橋病院]

(4) (3) からの学び

わたしが企業訪問を通して学んだことは3つあります。

1つ目は病棟内を見学させていただいたことで、医療現場で働いている人がどれだけ真剣に目の前の命に向き合っているのかが伝わりました。動きの速さや迷いがいいことを見て、やはり医療従事者というのは素晴らしい仕事であるということを知ることができました。

2つ目は自分のプレゼンがまだまだ深く調べられていないということです。板橋病院の先生方に質問をいただいたり感想をいただいて、解決策について調べが足りていないことに気づき、わたしの住んでいるところであるのに東京にいる先生方のほうが医療の現状を知っていたりと考えられないようなことが起きてしまいました。そこで事前に入念に調べておくことの大切さが改めてわかり、将来仕事をするときにはしっかりと調べようと思いました。

3つ目はいろいろな経験が大切だということです。先生方に初めから1つの分野を極めるのではなくていろいろな経験を重ねてから1つに絞っていくということがよいというのを教わって、これから経験を大切にしていきたいと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

わたしはMC探究を通して自分が将来どうなりたいのかということを知ることができ、実際に今、働いていらっしゃる先生方のアドバイスをもとに、自分がなにをしなければいけないのかを知り、努力をすることの大切さを学びました。

わたしはこのMC探究の課題を設定するときに、まだ将来やりたいことやなりたい職業がまだ決まっておらず、なにを調べようかととても迷いました。ですが夏休みに看護体験があることを知り、応募をしました。実際に体験をしてみて、患者さん1人1人の症状はそれぞれ異なり、わたしに付いてくれた看護師さんの患者さんに対する対応は、声の大きさだったり話し方だったり全員に同じというわけではなかったのが、患者さんをよく見て理解しているんだなと思って看護師という職業に興味をもち、この課題の設定と問題解決のアプローチの方法の決定に至りました。さらに、今回板橋病院の病棟内を見学させていただいて、医師や看護師の患者さんに向き合う態度や集中治療室の患者さんが、いつ症状が急変しても大丈夫なように目を光らせているのを見て、わたしもこんなふうになりたいと強く感じることができました。それと同時に医療現場で働いている医師や看護師のみなさんは、この職業に就くためにどれほどの努力をしてきたのだろうと考えました。わたしが今まで入試や大会のためにやってきた努力とは桁違いの努力をなさって今の仕事に就いていると考えると本当に尊敬します。そこで努力を重ねることで将来の仕事につながるんだと学ぶことができました。

今のわたしの成績ではまだ看護師になることはできないと思っています。しかし、なりたい職業に就くため、将来やりたいことをできるようにするために勉強することはもちろん、体力もつけていきたいと思っています。

最後に、医療従事者のみなさんがいるおかげでわたしたちは健康に過ごすことができているし、安心して暮らせていて本当に感謝しています。わたしも将来絶対に看護師になり多くの人を助けて笑顔にできるようにしていきたいと考えています。また、看護師になるために努力を続けます。

(1) 探究テーマ [母親にかかる育児の負担]

(2) 探究内容

日本は世界的に見てジェンダー格差が大きい国であると言えます。育児においても母親にかかる負担が大きいと感じ、探究テーマに設定しました。この課題の原因として、女性の社会進出が進んでいるにもかかわらず、「育児は母親のすること」などの伝統的価値観が社会、地域、個人に残っていることと、父親の多忙やひとり親家庭の増加による母親のワンオペ育児の深刻化を挙げます。実際に2022年度の厚生労働省の調査によると育児休業の取得率は女性が80.2%に対して男性が17.1%と差は歴然です。

私は自身のキャリアを助産師と設定してこの課題へのアプローチを探究しました。現在の日本では助産師免許は女性しか取得することができませんが、助産師は母親と妊娠期から産褥期を通して直接関わることができる職業であるため、育児のスタート時点から母親とその家族をサポートすることができます。また社会や地域に向けて、母親だけでなく誰もが育児を行いやすい環境整備を追求していくことで、母親の育児の負担軽減につながると考えました。

(3) 訪問先 [日本大学医学部附属板橋病院]

(4) (3) からの学び

病院見学では、小児科を中心にICUまで見学させていただきました。医師だけでなく看護師や他の医療従事者、病院関係者の存在により病院は機能しており、多様な職種が連携をとることで質の高い医療を提供することができることを学びました。日本大学医学部附属板橋病院は全国で81施設ある特定機能病院のひとつであり、救命救急センターでは三次救急の患者さんを受け入れる重要な機関を担っているということを教えていただき、高度な医療を提供している病院を見学することができて他では経験できない学びにつながりました。

プレゼン発表では医師の先生方から、「ジェンダー観にも時代や世代間で意識の違いがあるためそこを考慮していくと良い」「育児においても生物学的に母親にしかできないことや母親が有利なこともある」といったアドバイス、意見をいただくことができ、自分で調べたり考えたりするだけでは足りなかった視点や考えを見つけることができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今年のMC探究では、社会貢献について個人で考えました。世界や日本の課題を探したり考えたりすることから始まり、その課題の解決策や改善策を自身のキャリアを通じて探究しました。課題に対する探究に加えて自身のキャリアも考えることで、将来自分がどのような職に就きたいのか、どのように社会貢献していくのかを深く考えることができました。

(1) 探究テーマ [医薬品の供給不足]

(2) 探究内容

医薬品の供給不足をテーマに、その原因や現状、改善にむけて出来ることを薬剤師の視点で考察しました。かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師を普及させることで顧客の供給量をいち早く把握し、代替医薬品へのスムーズな変更や供給過多の防止に繋げて、課題の改善に努めることができるのではないかと考えました。

(3) 訪問先 [日本大学医学部附属板橋病院]

(4) (3) からの学び

供給不足が起こるまでの流れや、実際の不足している割合、具体的な数のデータなどでは、よく調べてあったとコメントを頂き、何かを調べることに自信ができました。発表グループ全体として、医薬品の供給不足だけでなく、超高齢社会、男女差別などの消えない大きな課題に対して、おのこの職業から、自分たちなら何が出来るのかを考えることが大事であるとアドバイスをいただきました。解決に至らなくても、悪化させないように改善することが大事だということを強く感じました。また、自分の周りだけでなく全国の薬局と連携して供給不足を補うなど、自分一人で出来ることばかり考えていた私にとって、視野を広げるきっかけになりました。そこから、必要なデータを入手するために電子処方箋を利用するのはどうだろうと考え、さらに普及率や認知度を上げるためには私自身も情報に関する知識を身につけて、電子処方箋を取り入れる体制を整えていくことも必要なのではないかと考えました。一つの学びから、さらなる学びや必要なことを知ることができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今まで漠然とした夢しか持っていなかったため、MC探究Ⅱを通じて、社会にどう貢献したいのか、どういう人物像になりたいのか、を考える良い機会になりました。インターネットや本を通してその職業について理解していましたが、改めて実際に働いている方の意見をお聞きしたことで新しい見方を知ることができ、よりいっそうその職業に就いて社会に貢献したいという気持ちが高まりました。また、日々変化する社会に順応した人材になることも今後求められると強く感じ、ただ資格を取るだけでなく、さまざまなことを大学で吸収したいと思い、これからの受験に対する意識が変わりました。

(1) 探究テーマ [少子高齢化の問題]

(2) 探究内容

少子高齢化が引き起こす問題として大きく二つ挙げると、経済成長の低迷と社会保障の崩壊がある。これの主な原因としては医療の進歩、晩婚化、晩産化、また仕事との両立の難しさや高学歴化などがある。医療技術の進歩により高齢化は進んだが、これは喜ばしいことだと思う。しかし、仕事や学業などを理由に結婚出産が遅れ、それによって少子化が進む事は、先進国ではよく見られることであり、解決の難しい課題である。さらに調査によって結婚に対する価値観の変化つまり意識の低下も見られた。多様な生き方が認められる今、これも、解決が困難な課題と言える。これらの解決のために私ができることを考えると、医療の面で親御さんを支えることができると考えた。調べるうちに、費用の負担や仕事復帰の難しさが子供を持つことを躊躇う主な理由だと言うことがわかった。なので私は働く親を支えるために小児科病院で働こうと思う。また病後児保育施設を併設することで病気にかかった子供を看病する手間を省くことができると知り、行っていきたいと思った。働く親に寄り添う社会を作ることが少子化対策になるだろう。

(3) 訪問先 [日本大学医学部附属板橋病院]

(4) (3) からの学び

自分が調べた事以外にも国の文化、歴史が関わっている事に興味が湧いた。家の継ぎ方が少子化に影響を与えるという論は初めて知って、視野が広がった。私は、一般的に言われる理由とその解決方法にしか触れなかったのもっと深い事情について調べていき、より多くの解決策を導き出したいと思った。また、この活動だけでなく今後の生活の中でも当たり前として扱われていることだけでなく、何か別の理由、方法がないか探究することを忘れないようにしたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回の活動を通して私はプレゼンテーション力がつき、人に伝える力を伸ばすことができた。今までは作ったプレゼンに書かれたことを読み上げるような発表になりがちだったが、今回の活動を通して、伝え方を工夫して、プレゼンは見やすく、話すときは流れに問題がないか、論理的で分かりやすくできているかなどを考えて作成することができた。これまでは学校内の発表が多かったので、本職の医師の方々に対してプレゼン発表をするということで、情報に誤りがないように注意して作成したため、内容もよりしっかりとしたものを完成させることができた。班の中での発表やアドバイス交換では聞き手しか気づかない違和感などを指摘していただき、学ぶことがあった。私も相手の発表にフィードバックを行うことができて、お互いに協力し、学びを高め合うことができたと思う。三年生になると探究活動をすることは減るが、社会人になるまでに今年得たプレゼン技術に磨きをかけて、ホールでのプレゼン発表者を参考に自分の欠点を洗い出していこうと思う。

(1) 探究テーマ [日本の健康寿命を伸ばすために]

(2) 探究内容

日本の健康寿命に関する現状についてや、健康寿命を伸ばすために必要な三要素について調べ、それを踏まえて理学療法士としてフレイル予防教室を開き、フレイル予防に効果的で気軽にできる運動や管理栄養士による食事改善講座など、さまざまなものを組み合わせで地域の人々の健康寿命を伸ばすことを探究しました。場所は公民館で地域の高齢者の方々を集めて開き、地域の高齢者の情報共有や助け合いの輪を広げる場にして欲しいと考えました。

(3) 訪問先 [日本大学医学部附属板橋病院]

(4) (3) からの学び

高齢者になって筋力が衰えてから鍛えるのではなく、もっと早い段階から衰えないように鍛えることが大切だということや、私は回覧板で地域の人に知らせる公民館でフレイル予防教室を行うということを考えましたが、都会は地域の人々の結びつきが弱くそれらは難しいのではないかという指摘をいただきました。これを元に、近くにお孫さんが住んでいたら一緒に参加してもらって家でご両親を巻き込んで遊び感覚で運動を始めてもらうことや、都会は商業施設などを利用するという改善策を考えました。さらに、このフィードバックをもとに自分でいろいろ調べて考え、地域によって人口だったり、高齢者の割合だったり、出生率だったり、公共交通機関の発達具合だったり、病院の数だったり、さまざまなことが違ってくるので、求められる医療の形もその違いの分だけあると考え、その地域の人たちがどのような医療を求めているのかを考え、実行して寄り添っていくことが医療に関わるものに求められると考えました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

1人で東京研修の発表をするということで緊張や不安がありましたが、1人でやる分、自分で調べなくてはいけないことがたくさんあって、さまざまな知識をつけられたところが良かったです。今回、わたしが当たり前だと思っていることも地域によっては全く当たり前ではないということや、地域によって置かれた状況が違うことから、求められるニーズも違うと言うことを学びました。そこからわたしは自分の地域ではどのような医療の形が求められているのかを考え、実行に移すことが求められると考え、これからさらに自分の将来どのような形で医療に携わるのかと言うことを考えていきたいと思います。今回学んだたくさんの方のことを将来活かしていきたいです。

(1) 探究テーマ [日本の医師の偏在問題]

(2) 探究内容

医師の地域偏在、診療科偏在について。それらの原因と現状、現在行われている解決策や、自分自身のキャリアを通してどのような方法でそれらの原因に直接アプローチし解決に向かわせるかを考える。そこで私は、原因の一端である長時間勤務解決のために医師の業務の分担や、その分担をできるようにするための人材育成、ICT化を提案した。

(3) 訪問先 [日本大学医学部附属板橋病院]

(4) (3) からの学び

いつ患者の具合が悪くなるかは決められるものではなく、常に状況に応じて動いていくものだから、長時間勤務を避けるのは難しく、また、病院では様々な職種の人が多く働いているから、職員間の連携は特に重要なことであるということ。加えて、医師には職業選択の自由があるから偏在を解決するのがそう簡単にいくものではないということ。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

数ある日本の医療の問題の中から、今まであまり考えてこなかったけれど、身近で深刻化している偏在問題について詳しく調べて考え、東京研修では実際に現場で働く人からの貴重で有益なコメントもいただけて、今まで気づかなかった視点から既存の解決策や自分の提案について考えることが出来た。また、原因から問題解決にアプローチしようとする、大きな問題となる長時間勤務と繋がり、すべて関わりあっているということ。この経験や学びが自分の将来同じ立場になれた時にとても役立つことができるように頑張っていきたいと思った。これを通じて、改めて日本の医師偏在はとても深刻な課題であり、今行っている地域枠やシーリング制度などの解決策を行ってだけでなく、その背景となる原因の長時間勤務や過疎地でも働きたいと思えるような職場環境作りが解決にさらに近づくと思った。社会問題の解決は到底1人の力では解決出来ないことを改めて感じ、解決のためには多様な視点から詳しく調べた上で、全く新しい発想で案を出すのがいいということ。

(1) 探究テーマ [希少ではない気象病]

(2) 探究内容

現在日本には、気象病の約半分の人が気象病の症状を我慢しているという課題がある。気象病は、症状、効果のある予防法、治療法が一人一人異なる疾患であることがわかった。気象病の患者一人一人に合う予防法と治療法を導く検査を開発するという解決策を考えた。

(3) 訪問先 [日本大学医学部附属板橋病院]

(4) (3) からの学び

実際に働いている医師の方々から疾患についてや探究的な学習の方法などについて教えていただき、多くのことを学びました。特に印象に残ったことは二つあります。一つ目は、病院に来ている患者の中に、低気圧の時に発症したり悪化したりする人が何人かいるということを教えていただいたことです。そして、異なる疾患を持つ患者でも、根本的な原因が気象にあることは共通しているのではないかと聞いてきました。このことから、今後は疾患の根本的な原因を辿る視点をもつことの重要性を学びました。また、現在はそれぞれ症状ごとに違う疾患として診断され、表面に現れる症状を抑えるための治療が行われていますが、今後は根本的な原因から対処する治療方法が発展するのではないかと視点を得られました。二つ目は、情報源についてです。私は主にインターネットを使って情報を調べました。しかし、インターネット上の情報は信憑性や信頼性が確かではないため、書籍やインターネットでも公的なサイトで調べると良いということを教えていただきました。東京研修で行ったプレゼンテーションの内容を研修後の発表に使った部分は、異なる方法で調べること、信憑性や信頼性を向上させることに生かしました。今後調べ学習を行う際にも、情報源を意識しようと考えています。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

特に二つのことを学びました。一つ目は、一見関係の無いように思われる事柄でも、関連していることがあるということです。気象病のテーマで探究し、異なる分野に感じられる天気と体調不良に密接な関係があることを学びました。さらに、気象病の予防に効果がある運動やマッサージの分野、気象病を理解してもらえないから打ち明けられないといった社会的な分野などにも繋がっていました。このことから、全ての物事は相互に影響し合ったり、関係していると考えました。そして、その本質を深く捉えることが大切だと学びました。二つ目は、課題に対し、どのように働きかけることができるかを考えることです。今年のMC探究の活動を通して、将来仕事をするのが目の前の人のためになるだけでなく、社会全体の抱える問題を解決することに貢献できることに気付きました。今年学んだことを生かし、来年度はさらに深く探究することで、大学に進学した後や将来働く時の活力を高めていきたいと考えています。

(1) 探究テーマ [日本と外国人労働者]

(2) 探究内容

日本で働く外国人の方々が職場でどのような問題に直面しているのかを調べ、私たちはどのように彼らを取り巻く問題の状況改善に取り組めるかを偏見の側面から探究しました。

(3) 訪問先 [ビジネス・ブレイクスルー大学]

(4) (3) からの学び

今年のMC探究から、昨年と形式が変わり、各自で解決したい日本もしくは世界の課題を見つけ、その解決策をそれぞれが考える形式になりました。そのため他者から私のプレゼンテーションに対する意見や助言をもらう機会が少なく、課題に対して打ち出した解決策が私の主観の考えになってしまっていて、他者から見たら欠点だらけだったということに気づけずにいました。ビジネス・ブレイクスルー大学でプレゼンテーションをさせていただいた時にももらった助言や質問から、初めてそのことに気づくことができ、社会全体を捉えた視点で物事を考えることの大切さを実感し大変勉強になりました。いただいた質問の中で特に印象的だったのが「私が総理大臣だったらこの問題を解決するためにどんなことをしたいか。」と言うものです。結論はその場ではっきりと出せなかったものの、帰宅してからプレゼンテーションの内容を練り直す際に、「社会全体がどのような取り組みを必要としているのか」、「私の解決策は本当に実現可能な取り組みなのだろうか」など今までとは違い、より現実的な視点で課題を捉えられるようになったきっかけになりました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

外国人労働者がどのような待遇を受けているのか、どのような問題に直面しているのか、日本はそれに向けて適切に解決策を打ち出しているかなど、様々なことを調べていく中で自分は将来どのようにこの問題に取り組んでいきたいかを具体的に考えられるようになりました。また様々な情報を得て、自分の中で整理していく中で、与えられたものをただ覚えるだけではなく、自分が今現在持っている知識と照らし合わせて、自分なりの考えを持てる力がつきました。この力は学習面でも生きています。今までは暗記ばかりだった勉強が、MC探究後では過去に学んだことと関連づけて学べるようになってきていると感じます。暗記した事実を自分の意見として述べるだけではなく、それを噛み砕いて自分のものにし、元から持っている知識とつなげて新たに自分の考えを持てる力をもっと伸ばしていけるようにより一層努力したいと思っています。

MC探究の発表が完成することに欠かせなかったものは、同じ訪問先に行く仲間や訪問した大学でもらった別方向からの視点です。自分とは違った視点から選択した課題を捉えることで、新たな発見や疑問、自分が将来課題に取り組む解決策をよりよくする方法を見つけることにつながりました。何より、自分自身の考えをより深めることができたきっかけになり、本当にたくさんの学びがありました。

(1) 探究テーマ [日本の介護士不足問題]

(2) 探究内容

現在深刻化している介護士不足の問題について。

厚生労働省のデータより、今後の日本は高齢者がますます増加していき、それに伴って介護士の人数不足も増加していくと予想されている。

そこで考える解決策を提示

“全国民は就職前の一定期間介護士の体験期間を義務化する”

↑

そのために “ 「介護」 を中高必修科目にする ”

(3) 訪問先 [ビジネス・ブレイクスルー大学]

(4) (3) からの学び

- ・ いろいろな視点から物事を見ることの大切さ
- ・ より良いプレゼンテーションの仕方
- ・ どんなことでも疑問に思ったら自分で調べていくこと
- ・ 社会は自分たちが作っていくものだということ
- ・ 大人になっても学び続ける姿勢

など様々なことを学ばせていただきました。貴重なお時間を頂きましてありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

- ・ 人に任せることなく自主的に準備し、発表することの利益は大きいということ
- ・ 自分の中で社会問題に対して真剣に向き合う時間を作るべき
→ 社会問題に対して人任せにならない、解決策を考えてみる
- ・ 自分も社会を作っていく一員であるということ
- ・ 東京研修での企業訪問を通じて礼儀やマナーについて学ぶことができた
- ・ 良い発表の仕方、スライドの作り方なども学べた

(1) 探究テーマ [障害者雇用の不足について]

(2) 探究内容

一般企業の障害者雇用枠が不足していること、就労支援B型が就労支援の多くを占めているのにも関わらず収入は極めて低い工賃のみとなっていることから、障害者が自立して生活することができないということを問題点として掲げて探究をした。

また、障害者雇用をどのように進めたらよいかわからない、障害者を雇うと仕事の負担が多くなるのではないかと、というような一般企業側からの懸念も多く存在し、障害者を雇う上でのデメリットを最小限に抑えることができれば、一般企業の障害者雇用枠にも雇ってもらいやすくなるのではないかとという仮説を設定した。

一般企業の障害者雇用枠で働くプレ期間を設けることで、実際の業務を経験することにより業務においてできるようになる可能性や、障害者の方がその仕事を継続可能か見極めることができる等の利点を得ることができると考え、そのシステムを導入した社会福祉法人を立ち上げるという改善策を提示した。この改善策は一般企業側からの協力は必要不可欠であるが、障害者雇用枠での法定雇用率を満たさない場合、一般企業には少なからず罰金が発生することから、障害者を雇う上でのデメリットを減らすことができれば、協力を得ることは可能であると改善策の有効性を示した。

(3) 訪問先 [ビジネス・ブレイクスルー大学]

(4) (3) からの学び

自分の提案に対して自分にはなかった視点からのご指摘をいただき、提案を改善することができる良い機会になった。また、級友だけでなく企業の方にプレゼンテーションする上でより伝えやすい工夫など、探究内容以外の点でも得るものが多かったと思う経験になった。また、企業の方のお話をうかがう上で、自分の掲げる課題をどのように解決していくことができるか、新たな視点のものが見つかり、多方面からアプローチすることができる課題なのではないかと思った。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱの活動を通して、まずは日本や世界の規模の大きい課題に対して自分のできる最大限のことを考えるきっかけになった。またプレゼンテーションの観点からも、企業の方の前でプレゼンテーションをしたり、準備の段階で級友と見せあい、アドバイスをしあってよりよい発表となるよう切磋琢磨したりしたことで、スキルが身に付いたと思う。課題が大きいだけに、自分にできることなんて本当にあるのだろうか、このような改善策で本当にうまくいくのか、など考えるとキリがなく、準備の中で辛さを感じる場面も少なくなかったが、実際問題解決に向かって日々動いている世の中の人々を尊敬するとともに、これだけ悩まないの良い方法など見つからないと、探究に対する姿勢を見直すきっかけにもなった。そして、私は改善策として社会福祉法人を立ち上げること、つまり、起業という選択肢が最も有効的であると考えたが、今起業する若者が多くなかで、起業の課題解決への有効性や、自分の将来の選択肢として起業を考えてみることの重要性を感じた。今回の探究を通して、課題解決だけでなく、自分の将来に生かせる選択肢を得ることができてよかった。このように、探究することで得られるものを大事にして、今後も探究心を持っていきたい。

(1) 探究テーマ [世界のこどもの教育問題]

(2) 探究内容

世界にはどのくらいの人数のこどもが、どのような理由で教育を受けられていないのか、現状と原因を調べ、今後の自身のキャリアを通じた解決策を考える。

(3) 訪問先 [ビジネス・ブレイクスルー大学]

(4) (3)からの学び

私がビジネス・ブレイクスルー大学を訪問して学んだことは大きく2つあります。

1つ目は、視野を広げ、様々な視点から課題の解決策を考えることの大切さです。私の考えた解決策では、教育を受けたいと願うこどもの視点でしか考えられていなかったため、「こどもを学校に通わせることで収入が減ってしまう親は学校に通わせることに反対すると思うが、その親をどのように説得するのか？」という質問をいただいた時、答えることができませんでした。そして、もっと視野を広げ、こどもの視点だけではなく、親の視点からも考えなくてはいけないということ学ぶことができました。また、親の視点で課題について考えることができたなら、他の国からの視点などより広い視点で課題を考えられるようにしたいと思いました。

2つ目は、強い気持ちがあれば目標を達成できるということです。ビジネスブレイクスルー大学には起業を目指している学生が多くいて、強い気持ちを持っている学生はすぐに起業するというお話をお聞きしました。世界のこどもの教育問題は様々な人の視点から課題に向き合うようにすると、すごく解決することが難しい課題だと思えるようになりました。しかし、私も世界のこどもの教育問題に強い気持ちで向き合い、解決策を探していきたいと思いました。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

私がMC探究から学んだことは、課題解決するには誰か一人だけが課題に向き合うのではなく、多くの人々が真剣に向き合い、みんなが協力する必要があるということです。私が考えている解決策もそうですが、他の人の発表を聞いて、やはり一人で解決するのは難しいと感じました。また、他の人の発表では今まで私が意識したことがないような課題も多くありました。そこで、まずは私が解決したい世界のこどもの教育問題についても多くの人に現状を知らせる活動を行う必要があるということ学びました。また、私は自分の探究をするにあたって世界には本当に多くのこどもたちが教育を受けられていないことを学びました。世界では、11人に1人という割合で教育を受けられていないこどもが存在するそうです。また、将来の夢があり教育を受けたいと強く願うこどもの動画を見ました。私は最初、探究テーマを決める時、世界の問題に興味があり、教育問題なら聞いたことがあると思い、軽い気持ちでテーマを決めました。しかし、探究を進めていくうちに日本ではあまり想像できませんが、世界には私たちが考えているより教育を受けられていないこどもが存在し、教育問題に真剣に向き合うことが必要だと学びました。最後に、私は課題解決に向けて私たちができることがあるということ学びました。私は今まで世界の教育問題は外国の問題であり、日本にいる私たちは何もできないのではないかと考えていました。しかし、募金や寄付、ボランティア、周りの多くの人に課題の現状と支援活動の必要性を伝えるなどできることがたくさんあるということがわかりました。私たち一人一人にできることは小さいことかもしれませんが、一人一人が課題への理解を深め、課題解決に向けて努力をすることで、大きな力となり、課題解決に近づくとおもいます。だから、私はまずは家族や友達に世界のこどもの教育問題についてMC探究を通して学んだ現状と私たちにできることを伝えたり、募金や寄付など今までしていなかった支援活動をより詳しく調べ、少しずつ自分にもできることを見つけ、実行していきたいと思いました。

(1) 探究テーマ [“人に合わせる “ 日本人 ”]

(2) 探究内容

日本人は多数派の意見に惑わされ、周りの目を気にし、自分の本心とは異なる返答をしてしまいがちだ。その証拠にインターネット上での誹謗中傷が挙げられる。私はこの、場合によっては命に関わる問題を将来保育士になることでどう解決していくか考えた。

(3) 訪問先 [ビジネス・ブレイクスルー大学]

(4) (3) からの学び

私は抽象的な内容で探究を進めたため理解が難しいテーマだと自覚していましたが、企業の方から共感の言葉をいただき、とても心が救われたのを覚えています。また、結果的に世界規模で課題に向き合いたいと発表した際、「大きな目標を持つことも大切だが、目の前にあることから一步一步叶えていくことが必要」と教えていただきました。この言葉がきっかけで、小さな目標を沢山達成する楽しさを知り、着実な努力をすることができるようになりました。発表はもちろん、今後の人生にも良い刺激をもらえました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私の場合、探究内容そのものが自分の弱点を表しており、弱みを告白する勇気を持って取り組んできました。そこまでしたのは、課題の当事者だからこそ向き合い方がわかる、そして私一人ができないのであれば解決はできないと思ったからです。探究を進めるにつれて、割と同じ悩みを持つ人が多いことを知りました。だから今回のように、誰か一人が自分をさらけ出し正面から向き合うことには意味があるのだと感じました。また反省点は、分かりやすさに欠けていたことです。抽象的な内容は聞き手の想像力が必要になるため、適度に具体例を入れるようにしたいです。

(1) 探究テーマ [日本の物流問題について]

(2) 探究内容

日本の大きな課題である物流問題について原因や対策を述べた上で、「データサイエンティスト」としてビッグデータを活用して問題点の予測や対策をし、労働時間の短縮や安全の確保に取り組み課題解決を目指す趣旨のプレゼン。

(3) 訪問先 [ビジネス・ブレイクスルー大学]

(4) (3) からの学び

まずはご多用の中このレポートをお読みいただきありがとうございます。対応してくださった畑さんから頂いたフィードバック、非常に参考になりました。特にバックキャスト法についてのアドバイスが参考になりました。私は物流問題へのアプローチを様々な面から全体的にしようとしていて、そのせいで少し現実味が無いのではないかと悩んでいました。しかしバックキャスト法を用いれば、可能なことから着実に課題解決に近づけると気づき、参考になりました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

私は今まで私の将来や日本の課題について深く考えたり調べたりしてきませんでした。なので、この探究活動に対して消極的になっていました。実際、職業と日本の課題を関連付けることなど、一筋縄ではいかないこともありました。

しかし、探究活動を振り返ってみると、得たものも多くありました。それは将来の見通しとやりがいです。特にやりがいを知れたのが一番の学びです。やりがいは今まで聞いたことはあったものの、実際に感じたことはありませんでした。ですが今回の探究で、実際に自分自身で調べレポートにまとめたものを社会で働いていらっしゃる方に評価して頂いて、自身の成長を感じ、やりがいを知ることができました。今後はこの活動で得たものや反省を生かして、将来胸を張って社会の役に立っているとと言える人間になれるように精進して参ります。

大きな成長の機会をくださり、改めて感謝申し上げます。

(1) 探究テーマ [日本人のメンタル]

(2) 探究内容

日本人のメンタルが世界に比べて低いという問題に関する文化や遺伝子などに着目した考察と、この問題を解決するために重要な役割があると考えられるメンタルトレーナーになることで行うことができるアプローチについて。

(3) 訪問先 [ビジネスブレイクスルー大学]

(4) (3) からの学び

いただいた様々な質問から自分の考えや伝えたいことを再度考えることができました。ビジネスブレイクスルー大学は経営を学ぶことができるということで、私たちと違った一歩二歩先を考えたような質問で、メンタルトレーナーになるために努力する段階の自分、メンタルトレーナーになり仕事をする段階の自分など未来を見据え、考えられるような質問でした。また、スライドについて参考文献の示し方についてのアドバイスもいただき、探究発表会に向けて準備をすることができました。探究発表会では選考から外れてしまいましたが、自分の納得できるような発表ができました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

私はなかなか自分の進路が決まらず、この探究のスタートにつまずきました。そこから自分が面白いと思ったテーマで探究を行い、調べていくうちに、自分が興味をしめすものがわかり、東京研修の学びなどを踏まえ、今では横浜国立大学理工学部志望校を絞ることが出来ました。探究テーマとは異なる部分が多いのですがデータ収集の際にこの分野に心惹かれました。私の進路を決める手助けをしてくれたMC探究、東京研修企業訪問先のビジネスブレイクスルー大学様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(1) 探究テーマ [日本のインフラ老朽化問題]

(2) 探究内容

現在問題となっている、日本のインフラ老朽化問題（老朽化した橋など）について現状や解決策を調べ、将来的に自分に何ができるのかについて考える。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

橋そのものを減らせば良いのではないかと、といった自分になかった切り口で考えることや自分が調べきれていなかった部分、ベンチャー企業がやっていることを調べてみてはどうか、といったアドバイスをいただき、より広い視野で物事を捉え、じっくりと調べようと感じました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

今までこのような問題などについて考えることはあまりなかったので、この機会に、日本、世界の問題について知ることができたので良かったと思います。また、これらの問題に関して考えることで、自分自身の考えを深めることができ、良い経験になったと感じました。

(1) 探究テーマ [広がる過剰なポリティカルコレクトネス (ポリコレ文化)]

(2) 探究内容

現代の世界、特に欧米で過剰に反応し広がっているポリコレ文化について、世界の例を調べ、日本と世界の違いをもとに、日本のこれからの在り方を考えました。この学習を通して、男女格差を取り上げ、その解決には差別と区別を明確に分け、それぞれの得意分野で働けるようにすることが重要ではないかと考えました。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

プレゼン作成のアドバイスをいただきました。1 ページにまとめ、資料が長くなりすぎないようにすること、必要に応じて注釈をはさみ、聞き手に用語を理解してもらえるようにする配慮が必要でした。現在の日本の状況の再確認とこれからの私達のあり方、そしてポリコレに負けない商品制作の点で学びがありました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2 学期全体を通じて)

MC探究を通じて、世界の状況に目を向け、誰かの問題提起、解決案に頼らず、自分自身で考えて行動に移すことを学びました。そして自分だけではどうしようもないことだったとしても調べたり、最小限自分にできることをしてから他人の手を貸してもらおう姿勢も学ぶことができました。さらに、世界に蔓延るポリコレ問題について考えた時に、世界中から非難されている日本が一番多様性に寛容なことも学びました。

(1) 探究テーマ [地球温暖化と車社会について]

(2) 探究内容

地球温暖化が叫ばれる今日だが、このままの車や燃料の技術では地球温暖化がさらに進んでしまうと考え、エンジンと燃料にスポットライトを当てて考えてみた。

【電気自動車】

メリット	デメリット
・車自体からの二酸化炭素が排出されない	・発電で二酸化炭素が排出される
・加速がガソリン車よりよい	・価格が高い
	・乗車可能年数が短い
	・電気自動車を作るために二酸化炭素が排出される

【バイオエタノール燃料】

メリット	デメリット
・二酸化炭素の排出が実質的0	・エンジンの改良が必要
・貧困国の資金源となる	・森林伐採の加速
・エンジンなどに少しの改良だけで運用可能	・価格が高い

【水素自動車】

メリット	デメリット
・二酸化炭素が排出されない	・水素を作るのに二酸化炭素が排出される
・排気ガスもない	・製品化されていないため不明点が多い
・ガソリン車と内燃機関が似ている	

【ドリーム燃料】

メリット	デメリット
・二酸化炭素と水だけで作ることができるから二酸化炭素の排出がない	・ガソリンの開発がまだである（軽油、重油は開発済み）
・価格が安い	・商品化がまだである
・エンジンの改良が必要ない	

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

企業の方からメリット、デメリットがきれいにまとまっていて良いという評価をいただいた。ただ、オリジナリティがなく、既存のことを書いただけであるとも言われた。もっと自分の理想的な実現可能かどうかなど関係ないアイデアを企業の方に提案すれば良かった

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

高校生という新しい視点からもっとぶっ飛んでいる、常識にとらわれていない、常識を壊していけるようなアイデアを考えていければ良かったと思う。既存のアイデアを実現させる事は難しいことではあるが、既存のアイデアでは想像もできないアイデアを考えることこそが最も難しい事であるし、この二年生でのMC探究すべきことだと今になってわかった。

(1) 探究テーマ [日本の人口減少]

(2) 探究内容

今回、日本の人口減少について調べた。人口減少は、日本が抱える社会問題の一つとして知られている。人口減少によって、我々の生活は暗くなり、生きがいを見失ってしまうのではないかと思い今回の探究テーマとした。また、この課題は広く知られているが、原因・解決策について詳しく知っている人は少ないのではないかと思い、今回の探究活動を通して学び、自分事として考え、解決策を考えた。改めて調べていくと、人口減少は私たちの生活に支障が生じ、さらには他の社会問題にも繋がっていることが分かった。そこで私は将来建築系の職に就きこの問題を解決したいと思い、解決策を考えた。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

本田技研工業株式会社様は、車やホンダジェットといったような乗り物などの会社だと思っていたが、ホームページに「人の役に立つ社会の創造」「The Power of Dreams」と書かれているように貴社・IGNITION推進課の方々の活動・取り組みを知り、絶対のない可能性無限大で世界中のたくさんの人びとの笑顔・幸せのための開発を行っている会社だと知ることができた。そこから、私は何事もこうであるべきやこうであると、はじめから思い込んだり決めつけたりして可能性をなくすのではなく、まず行動に移し挑戦することが大切だと学んだ。世界中の誰かのために挑戦し続け、開発・発明し続けることがとても素敵だと思った。

また、プレゼン発表のアドバイスもいただいた。人口減少は大きな社会問題でもあり、私が提案・考えた解決策も規模の大きいもので現実味が薄かった。そこから、スモールステップで解決策を考えるといいと教えていただいた。そこから、まずは自分の住んでいる地域などの人口減少が原因で起こっている課題の解決を考え、その後日本という規模で考えると良いとわかった。

今回の企業訪問・プレゼン発表は、とても緊張したが企業のみなさんが優しく迎え入れてくださりとても学ぶことが多い充実した楽しい時間となった。今回の経験を今後につなげていきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱを通して、世の中の問題に対して興味を持ち、自分にできることは何かあるのだろうか、自分事として捉えることができた。将来を考える機会にもなった。しかし、正解がない問いだからこそ難しかった。また、以前よりは私たちは世の中を変えられるという意識を持てたが、やはり人口減少を詳しく調べた際も今のこの社会のままでは限界があると思った。今回の企業研修のように子どもたちと大人が意見を交流し合う場を多く設けることが、より良い日本・世界を作っていくのではないかと思った。私は、社会の一員として貢献できるようにまずは日々の学習に励みたいと思った。今回のMC探究・東京研修は私を大きく成長させてくれたと思う。

(1) 探究テーマ [日本の男女格差]

(2) 探究内容

日本の大きな課題の1つである男女格差を取り上げました。日本は世界的にも男女格差が大きい国とされています。理由として、伝統的価値観が根強く残っていることが挙げられます。伝統的価値観とは「こうあるべき、こうでなければならない」などの社会通念、考え方です。例えば、「男は働き女は家庭を守る」や「リーダーは男がやるべきだ」などです。少しずつ多様性が広まってきてはいるものの、まだまだ差別や格差があるのが現状です。実際に、男女格差を国別で評価したジェンダーギャップ指数が146ヶ国中125位、意識調査でも男性が優遇されていると答える人が6割を超え、平等だと答える人は3割程でした。これらのことから、男女平等や多様性をもっと世の中に広めていくべきだと考えます。そのために私は、化粧品開発という職業を通して、課題改善にアプローチしていきます。具体的には、ジェンダーフリーコスメの商品開発をしようと考えています。

世の中の大半のコスメは「男性向け」「女性向け」で考えられています。特に男性用の化粧品は販売されている量が少なく、手に入れにくいのが現状です。ジェンダーフリーコスメは誰でも使いやすく、誰でも手に取りやすい成分やパッケージデザインで展開されているため、男性も女性も利用しやすいというメリットがあります。ジェンダーフリーコスメをより多くの人に知ってもらいたいです。最近では韓流アイドルの影響でメンズメイクに興味を持つ人が増えてきており、メンズコスメの需要が高まっています。ジェンダーフリーコスメの開発により、将来を担う若者の意識改革にアプローチできるのではないかと考えました。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

プレゼン発表では、「企業や現場の実際の声を聞くことが大切」「アプローチの方法が他にはない視点で考えられていた」などのフィードバックをいただきました。自分で調べた事や考えた事だけではなく、実際に経験して学んだこと、目で見て聞いたことの大切さを学びました。課題に直面した際には様々な視点で考えられるようにしたいです。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱでは、課題を自分で設定し、自分のキャリアを通じたアプローチを考えました。課題と自分のキャリアを結びつけることはとても難しかったです。課題に対する一般的な解決方法はこれまでの学校生活や授業を通して学んできましたが、MC探究では自分の将来について真剣に考え、世界や日本の課題に目を向けることで、より自分事として考えを深めることが出来たと思います。インターネットで検索するとなんでも出てくる時代に、自分の頭で考え、それを実行しようとする大切さを学びました。また、すでに社会に出て活躍されている皆さんにアドバイスをいただき、自分に足りないものや将来大切にしていきたいことも見つかりました。まだまだ世界にはたくさんの課題があります。また、新しい課題も生まれると思います。自分が何か課題に直面した際にはこの活動を通して学んだことを発揮していきたいです。

(1) 探究テーマ [医療現場の人手不足]

(2) 探究内容

私は医療現場の人手不足について探究しました。この問題は、新型コロナウイルスの影響で業務がさらに忙しくなり離職率が増えていることと、少子高齢化によって働き手の若者が減っていることが原因です。また、先進国の中で医師数を比べると日本の値は低く、実際に医療従事者の方々の多くが人手不足を感じているという現状があります。この問題に対して、私は自らが医療の仕事に携わり、他の医療従事者の方と協力して人々に予防医学の大切さについて知ってもらおうというアプローチを考えました。人々が予防医学を学び、それを実行してもらおうことで、健康寿命を延ばしたり、病気になったとしても早期発見できるので、治療や入院期間が短く済み、健康な若者や在宅で生活できる高齢者が増えます。それによって、医療現場に余力が生まれ、人手不足が解消されていくという良いサイクルが生まれるという有効性があります。つまり、病気の予防は自分の身体を守るだけでなく、医療の人手不足の解決にも貢献できるということです。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

医療現場の人手不足という大きな話題からアプローチの小さな視点までの持っていく方、また、そのアプローチが一般的なものではなく自分なりの思考で考えられていたところが良いという講評をいただきました。これらことから、今まで気づかなかった自分の探究発表の良いところを知ることができました。また、いくつかいただいた質問の中で答えられないものがあり、それに対して、私は課題の解決に対して多角的に考えられていなかったと感じると共に、自分の探究不足を感じました。だから、これから先、問題へのアプローチを考える際には、様々な視点からいろいろな状況を想像して、問題の解決に最適なアプローチを考えていきたいと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回の探究は、国の課題に対してのアプローチを考えるという内容でした。始めは、自分には手に負えることができないものだと思っていましたが、この探究を通して、自分にも解決するためにできることがあるのだなと感じました。日本には他にもたくさん問題があるので、視野を広く持ち、積極的にアプローチしていくことが大切だと思いました。そして何より、私は企業で、自分で一から作った探究の発表を聞いてもらえたことがとても貴重な経験であり、自分を大きく成長させてくれた経験だと思います。発表する前は少し緊張していましたが、企業の方々が優しい人ばかりで、リラックスして発表ができ、その後もずっとここにいたいと思えるような環境でした。

企業の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。

(1) 探究テーマ [日本の生活習慣病患者の増加について]

(2) 探究内容

日本の生活習慣病患者が近年増加し続けているという事実から、その原因が食事や睡眠などの生活習慣の乱れの積み重なりや過度なストレスであるということ、生活習慣病とされる疾患とその現状(入院、また死因別死亡数における七大生活習慣病疾患の割合)を調べた。さらに働く年代に焦点をおき、保健師として、企業で行われるストレスチェック制度の取り組みの促進や今ある問題点を改善していくために自分が考える提案をまとめ、その有効性を示すことで自分のキャリアを通じてアプローチできるとした。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

研修先で実際にプレゼンを聞いていただき、今得ている課題の現状についての情報に加えて、さらに家族などの身近な人に意見をもらうことで有力な情報を得て活用できるというフィードバックをいただいた。仮説については、例えばストレスチェックを受ける人の割合は大きいがその後に面談を受ける人の割合が著しく小さいという現状にたいして、なぜストレスチェックを受けたその後で面談に繋がらないのかを自分で考えて仮説を立てるとよいと具体的に意見をもらい、仮説思考の重要性を学んだ。また、身近な人の意見を取り入れることでそれを仮説としても活用でき、説得力や課題に対する問題意識、データを調べる際の効率性の向上に繋がることを学んだ。これを生かし今後は日本や世界の様々な社会問題に目を向け、事実や情報をただ受け入れるのではなくまず自分の頭で考えることを意識していきたいと思った。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

私は今回のMC探究で首尾一貫性と論理性の難しさについて学んだ。去年は地域貢献をテーマとして探究をしたが、今年は日本そして世界と幅が広く、その中でも自身のキャリアを通じてアプローチをする必要があるため、より具体性や論理性、全体の首尾一貫性が求められた。また、調べる情報や得られる情報が多くなったことで、探究全体でずれが生じることがないように、一貫して筋が通っているのか、課題と自身のキャリアとの関連を明確に示しているかを意識して取り組んだ。自分が決める進路をもとに日本の生活習慣病患者の増加という課題を設定し、その深刻さを調べたり、アプローチと有効性を考える中で、物事や情報を「根拠」と「結論」に分けて捉え、矛盾のないように筋道を立てて結論を導き出すことで、論理性や首尾一貫性を高めることができるということも学んだ。また、東京研修での企業訪問から、仮説や身近な人の意見を取り入れることでも、論理性をさらに高めることができるということも、難しさを感じると同時に学ぶことができた。

(1) 探究テーマ [暴走族による一般車両および市民への悪影響について]

(2) 探究内容

暴走族についての現状を調べ、その解決法を一般論と自分のキャリアから模索した。結果として規模こそ縮小したがいまだに根絶に至っていないことや、課題の解決のためにも既存の方法では無い新たな解決策を作り出さなければいけないという結論に至った。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

第三者からの意見聴取を行うなど多様な視点からもアプローチしてみるということや、仮説の段階で考えたものとは異なった新たなポジションから課題にアプローチしてみるということを学んだ。これらの学びは客観的な思考や別の思考に利用するなどこれからの学びやキャリアの蓄積のためになると思われるので、これからは積極的に活用していきたいと思った。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

やはりこれまでの活動から自分のいる自治体であったり全国単位になっても解決が困難な課題が山積みになっていることを実感し、それを自分で解決への手立てを考えるのは、しっかりとした情報収集や多様な視点からのアプローチで有効な手段などを模索していくことが重要であるということ学んだ。また、似たような課題と向き合う仲間と協力していく中で、共同作業におけるコミュニケーション能力の育成に加えて、効率の上昇を改めて実感することになった。これからは、始めに自分自身の課題の解決から始め徐々に自分の周りや取り巻く環境、そこからより大きなさまざまな課題に対してこれまで培ってきたりこれから新たに培っていく自分自身のキャリアをフルに活用した上でしっかりと向き合い、課題解決に向けて努力を積み重ねていきたいところだ。

(1) 探究テーマ [高齢化によるゴミ問題]

(2) 探究内容

ゴミ出し難民と呼ばれる日々のゴミ出しが困難である人のことについて探究しました。ゴミ出し難民増加の原因として認知症、身体機能の低下、高齢者の一人暮らしの増加が挙げられます。環境省によると65歳以上の人口に占める一人暮らしの割合は年々増えていて、2040年には男女ともに2割を超えると推定されています。これらのゴミ出し難民に関する問題が進むと、怪我のリスクが高くなったり、家がゴミ屋敷化したりしてしまいます。さらに最悪の場合には、セルフ・ネグレクトに繋がる可能性もあります。そのため、今現在この問題の対策として各自治体はゴミ出しの代行を行なっています。課題に対するアプローチとして提案するのは、ゴミ出しのサービスを充実させることです。具体的には各家庭のゴミ箱にセンサーを付け各自治体でゴミ出しの管理をします。ある一定の量までゴミが溜まったら、ゴミの回収に向かう人を派遣させることで人手を減らしたり、怪我を防止することが出来ます。また、ゴミの量を記録して変化を見ることが可能であるため、万が一居住者に何かあった場合でもすぐに気づくことが出来ます。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

海外での事例を参考にして、より効果的な対策を提案することが出来るということを知りました。さらに、「社会のニーズ×自分のやりたいこと×自分のできること」が重なる部分を見つけて、探究することでより具体的な行動に繋がるということを知りました。誰に向けた問題解決のための対策なのか考え、広い視野を持つことでより良い探究活動ができるということを感じました。また、今回の企業訪問で、自分では気づくことが出来なかった改善点を知ることが出来たため、自分の考えをより多くの人に伝えて、フィードバックを貰うことが大切だと実感することが出来ました。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今回の活動を通して1つの問題を解決するためにはより小さい問題を少しずつ解決していくことで大きな問題を解決することができるということを知りました。たとえ課題に対する対策を思いついたとしても、未完成な部分が多いので広い視野を持って客観的に考えることが大切だと感じました。また、日本が抱えている社会に関する問題の多くは、少子高齢化と間接的に関わっていると感じたので、どのように対応していくか私たち若い世代が考えていく必要があると強く感じる事が出来ました。また、他者のプレゼンを聞き世の中には私が知らない問題や事実を知ることが出来ました。

(1) 探究テーマ [男女格差について]

(2) 探究内容

世の中の男女格差について調べ、原因を考察し、自分のキャリアを通してできることを考えそれに取り組む。なるべく分かりやすいように身近な問題を取り上げた。男女の賃金格差や女性議員の比率、セクハラなどが問題としてあげられる。これらから男女差別が起こる原因としては、出産可能なのが女性のみということと、社会観念やしきたりなどが根強く残っているということが考えられる。出産に伴い女性は入院しなければならない。そのため、入院期間は仕事が出来なくなり非正規雇用率が上がることで男女間の賃金格差が起こっていると考えられる。また、日本は年功序列や終身雇用などといった雇用システムがありそれもまた賃金格差に繋がっていると考えた。解決策としては「世界経済フォーラム」が公表しているジェンダーギャップ指数(GGI)では、政治参画のみ平均を大きく下回る結果となっている。それにより日本は146カ国中125位という結果になっている。政治参画の数値を改善するために解決策として女性議員を増やすべきだと考えた。この解決策を通して女性がもっと生活しやすくしていきたい。

(3) 訪問先 [本田技研工業株式会社]

(4) (3) からの学び

構成面や内容に関して深いところまでディスカッションしていただき、自分では考えが至らないところまで改善に努めようと思った。社会課題が発生している現場の生の声のヒアリングも行うと課題と対策の解像度が上がり、さらに良いものを創ることができるということ、具体的なアクションにつながらないので社会のニーズと自分のやりたいこと、できることが重なる部分を見出して磨いていくことが大切ということを学んだ。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

自分が設定した探究テーマについて自分のキャリアを通してどのように改善できるか考えることができた。地域貢献から考え、社会貢献まで考えを広げることができた。

(1) 探究テーマ [現代の日本人のメンタルヘルス問題について]

(2) 探究内容

多くの現代人が抱えているメンタルヘルス問題について、現在の状況を調べました。この問題は深刻なものとなっており、年間の自殺者数は増え続け、精神疾患の患者数も増えております。改善のために、予防に重点を置いた活動の増加、メンタルヘルスへの正しい知識、治療を誰でも安心して受けられるサポートが必要と考えました。そこで、私は臨床心理士に就くことで、カウンセリングの普及、地域の医療機関との連携、ストレスマネジメント研修を行うことなど、予防の活動やケアのサポート、知識の普及により、この問題にアプローチできると考えました。

(3) 訪問先 [明星大学]

(4) (3) からの学び

明星大学からいただいたフィードバックから、課題の解決方法を考える際に、課題に直接関係のあることだけでなく、周りの環境の状況など課題にアプローチしていく上で、間接的に関わる面も踏まえて、考える必要があることがわかりました。また、データを集める際にはただ自分が知りたいことだけを調べ、そのデータから考察するのではなく、別の事象とも関連づけて考察する必要があることがわかりました。これらのことを生かし、何か計画を立てる際には、自分がいる現在の状況を確認し、その改善を含めて計画を立てていくこと、例えば、今回のキャリアを通したアプローチ計画では、活動内容だけでなく、自分が就く企業の経済面の状況なども踏まえて計画を立てていくようにし、様々なデータを利用する際には、今回、問題に対し、集めたデータがコロナウイルスの流行など別の分野とも関連づけて見れたように、データを鵜呑みにせず、近年に起こった出来事と照らし合わせて考察していくことを心がけたいと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱでは、学んだことが主に3つあります。1つ目は、データサイエンスを活用した調査方法です。考察や案を考える際に、様々なデータを集め、その分析や解析を行い、現在の状況を正しく判断し、有効な解決を考案していくことに繋がりました。また、得たデータをグラフにし、可視化させ、より分かりやすく見てもらえるようにする方法も学びました。2つ目は、問題から改善のために必要なことを導き出し、自身の力でどのように解決していくかを考えることです。今回の探究では、現在の社会の状況を見極め、キャリアと結びつけて具体的な活動を考えることで有効性を持った解決策を導くことができました。3つ目は、説得力を持てるようなプレゼンの作り方です。今回のプレゼンでは、特にスライドの見やすさを意識し、見やすい文字の大きさや色合い、また、伝えたいことをまとめてどのようにスライドに示すかを考える力が身につきました。今回の探究では、自分一人では気がつけなかったようなことも、仲間との活動や明星大学様でのプレゼンを通して、新たに気がつくことができました。今回学んだことは、次回の探究活動や将来新たな活動を考案していく際により深いデータの分析や、具体的な活動の計画決め、見やすく伝わりやすいプレゼンの作成として活かしていきたいと思いました。

(1) 探究テーマ [難民受け入れ問題について]

(2) 探究内容

難民受け入れ問題の現状を分析し、解決策を提案した。難民の大量流入は主に財政圧迫、治安悪化、受け入れ国住民の雇用機会減少をもたらす。これにより、自国にマイナス影響をもたらす難民に対する感情が悪化し、難民の社会的孤立、国内の分断、受け入れ基準の厳格化等の問題が引き起こされている。この問題に対しての解決策として、難民への教育の充実が有効だと考えた。現状、難民の多くは十分な教育機会に恵まれておらず、将来の貧困につながる可能性がある。そこで、難民への教育、特に語学教育を充実させることで、難民の社会的孤立の解消、就労・就学の促進に繋がり、難民の社会的地位向上、難民による犯罪率低下、受け入れ国側の労働力人口増加などのメリットが生まれると考えられる。また、難民の子どもに教育を与えることは、受け入れ国側の将来の経済発展に寄与する人材を育てることになると見ることもできる。解決策を実行していく手段としては、インターネットを活用することが有効だと考えた。実行の大きな障害としてコスト面が挙げられるが、アナログでの環境整備よりデジタルの方がコストを抑えられる点や、難民の間にもスマートフォン等の媒体が普及していることから、手段として有効だと考える。以上から、難民受け入れ問題解決のために、私は将来デジタルツールを利用した受け入れ先での難民への教育支援に尽力していきたいと考える。

(3) 訪問先 [明星大学]

(4) (3) からの学び

発表後頂いた指摘から、広い視野を持ち続けることの大切さを実感した。アドバイスの内容は主にデータの扱いに関する事だったが、これはテーマ全体にも当てはまることだと感じた。探究活動で陥ってしまいがちな問題のひとつとして、テーマを絞って情報を集めていくうちに、ひとつの分野の知識に偏ってしまい視野が狭くなってしまうことがある。私は今回、プレゼン後の質問やアドバイスから、知識や観点が知らず知らず偏ってしまっていたことに気づくことができた。広い視野を保ちつつ知識を深めていくことで、探究活動を最大限意義のあるものにしていきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

今までぼんやりと難民問題に関する支援に取り組みたいという気持ちはあったが、具体的にどんな対策をどのように進めていきたいかについて深く考える機会がなかった。今回、難民を取り巻く現状や行われている支援とその効果について調べてみて、解決のための具体的な方策や、それを自身のキャリアとしていくにはどうしたらよいか考えることができた。また、プレゼン発表を通して、人にわかりやすく伝えるよう努力するという面で大きく成長することが出来た。いくら自分の中できちんとした論理を組み立てていても、人に的確に伝えることができなければ意味がない。プレゼンの流れや根拠の紹介の仕方の工夫を考えることで、自身の提案を論理的に補強するための方法を身につけることができた。

(1) 探究テーマ [不登校の増加とその支援状況]

(2) 探究内容

不登校の小中学生の急激な増加が問題となっている中で、不登校経験者の中には希望通りの進路に進めていない児童生徒も多いという現状を解決するため、自分のペースで学習を進められる学習できる通信教育サービスを提案する。

(3) 訪問先 [明星大学]

(4) (3) からの学び

発表を見ていただいた際、塾や学校との違いを明確にできると良いとのアドバイスをいただきました。これらを踏まえて自分の提案の有効性について改めて考え、発表の精度向上に繋げることができ、とても感謝しています。また、他の場面での教授や学生の方々のお話からもたくさんの学びを得ることができました。費用や効果など現実的な観点からのアドバイスは、これから社会を生きていく上で非常に有益なものであったと思います。今回お世話になったみなさんの様になれるよう、努力していきたいと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

自らが社会のために何ができるかを考えることで、これから社会に出ていく実感が湧きました。また、論理的で現実性のある発表、提案にするために文章や資料をまとめる、発表構成を考える、効率的に作業を進められるようにするなどといった自分なりに努力した経験は、これからの自分に活きると思います。

私は学習サービスの提案をテーマとしてこの探究活動に取り組みましたが、資料やアンケートを活用しながら実際のニーズを考え、説得力のある提案にすることはもちろん、学生である自分自身の経験やあったらいいなと思うアイデアを盛り込んでプレゼンを作ることができました。

反省点としては具体的な実現方法やコストの検討が足りず、曖昧だったことだと思います。実際の社会に影響を与えるための活動には様々な困難がありますが、そのことへの考慮をもっと提案に盛り込むべきでした。来年度のMC探究では、提案の有効性は前提として、現実にしていくためにどうすべきかも深く追求して探究活動をしていきたいと思います。

(1) 探究テーマ [宗教二世問題と日本の宗教に対する偏見について]

(2) 探究内容

日本では宗教二世問題は度々問題になっている。例えば、安倍元首相銃撃事件を発端として明らかになった問題がある。この問題は大きく報道されSNSでも話題になった。その結果、被害者救済法が制定された。しかしこれは政教分離に違反するのではないかという考えもあり、混乱が起きている。このように宗教に関わる問題に対して混乱が生じるのは日本人の宗教に対する不理解が原因であると言える。実際に、多くの日本人は無宗教であり、この人たちは宗教に接する機会が少ない。こういう人たちの宗教に対する理解を深めるためにボランティア活動をしたいと思う。

(3) 訪問先 [明星大学]

(4) (3) からの学び

具体的にどういう方法で理解を深めるのかを考えること。例えば、死と宗教には密接な関係がある。冠婚葬祭は宗教に対する理解を深める機会になる。宗教に対する不理解と宗教に対する悪評の関係を明らかにすること。日本では戦後オーム真理教などカルト的な宗教が有名になった。宗教を積極的に理解しようとしないと、大きく報道されるこのようなカルト的宗教の印象が強くなる。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

他の人から意見を貰うことで、より客観的で論理的にするにはどうするべきかがわかった。元々興味のある分野だったが、この活動によってより深い知識を得ることができた。訪問先でのアドバイスから、新たな視点でこのテーマを考えることができた。同じ班の人と練習する中で、新たな知識を得ることができた。また、自分に活かせるアドバイスを貰うこともできた。プレゼンをする時の論理的な話の進め方について、多くの発見があった。活動の中で色々な人のプレゼンを見る機会があり、参考になった。自分の進路と結びつけて考えることで、自分の将来の展望がより具体的になった。この活動を通して自分の興味のある分野でどのように社会貢献ができるのかを考えることができた。

(1) 探究テーマ [日本の食品ロス～飲食店における食品ロスについて～]

(2) 探究内容

以前から海外には飢餓に苦しむ人が多くいる国がある一方、日本では飽食が当たり前になっているという現状に疑問を抱いていた為、このテーマで活動することを決めました。飲食店から発生する事業系食品ロスに焦点を当て、できる限り大規模な食品ロス削減を目指すにはどうすれば良いかを考え、「飲食店食品ロスプロジェクト」を提案しました。食品ロス削減店舗の周知、地域の中の食品ロスを削減したい飲食店同士を繋げることを目的とした企画です。

(3) 訪問先 [明星大学]

(4) (3) からの学び

東京研修にて明星大学様に訪問させていただいた際、問題解決の方法についてではなくその方法を実行した時の飲食店側の利益、お客さん側が抱く不満はどうかといった具体的な指摘をいただき、自分の考えが至っていなかった面に気づくことができました。ある問題に直面し、それを解決しようとした時には、問題だけに向き合うのではなく、その背景や周りの事象にも良く気を配り考えることが大切なのだと学ぶことができました。今後の進路選択等にも大変役に立つ学びを得ることができました。ありがとうございました。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

最初、日本・世界が抱える課題の解決と聞いたときは高校生が考えるにはハードルが高いと感じ、活動に対して大きな不安を持っていました。それでも、東京研修や探究発表会で発表できる提案を作ることができたのは、友人や家族、明星大学の方々が話を聞いて、様々な指摘やアドバイスをしてくれたからだと思っています。今年度のMC探究はあくまでも1人1人が課題を設定して活動するものでしたが、もし本当に1人きりで取り組んでいたらどこかで考えに行き詰まってしまっていたと思います。今年度の活動を通して、なんでも1人だけでこなそうとせず、適度に周りを頼ることも必要なのだと学ぶことができました。同時に、自分も周りの人から助けを求められた際に、力になれるような人間になりたいと思いました。

(1) 探究テーマ [女性差別問題]

(2) 探究内容

SDGsについて調べた際、女性差別が世界の課題の1つであることを知り、解決する必要があると考えました。女性差別とは単に男性と女性を分ける(区別)ことではなく、女性であることを理由に差をつけて取り扱うことや分け隔てる(差別)ことをいいます。原因としては児童婚などの風習や文化、広告やテレビなどメディアによる「性の役割」の強調があります。また、女性の意見が届きにくく社会がうまく発展しないため、この課題は日本国内の問題にとどまらず世界共通の課題であると考えました。さらに、課題の深刻さを示すために、世界で初等教育を一切受けられない女性が男性の3倍もいることや児童婚の割合が約5人に1人いるという事実をデータから明らかにし、改善・解決するためにどのようなことができるかを探究しました。

女性差別問題解決のためには、仕事と育児を両立でき、教育を受けられる環境づくりを整備することも大切なことです。しかし、今回私は人々に問題意識を持ってもらうために女性差別問題について学ぶ機会をつくることを重視しました。だから、「広告業」に就き、YouTubeやサイトの広告、CMなどで多くの人に発信できるような広告をつくるという方法でアプローチしたいと考えました。また、広告は日常生活で目にしやすく多くの人にこの課題を知ってもらいきっかけができるため、私が考えたアプローチは有効であると判断しました。

女性差別問題を解決するために一人ひとりができることは、身近に潜むジェンダーバイアスに気づくことです。そのため、この問題について正しく理解し、視野を広げて生活することが大切だと考えました。また、世界には他にもたくさんの課題があるため、それについて調べ、多くの人々の目に留まり立ち止まって考えてもらえるような広告をつくりたいです。

(3) 訪問先 [JCCソフト株式会社]

(4) (3)からの学び

JCCソフト株式会社様の東京本社へ訪問し、発表を行い、企業の方の客観的な視点からアドバイスをいただきました。データの数字を分かりやすく言い換えて説明していたことを褒めていただきました。頂いたアドバイスの中で特に改善したいと思ったことは、「相手が話を理解しやすくするために前提の説明をする」ことです。私が「差別」と「区別」の違いを聞かれた際に自分自身もその言葉の違いが曖昧であったことに気がつくことができました。だからこそ、言葉の定義をしっかりと説明することで、発表の内容を効果的に伝えることができると学びました。それを受け、自分の発表が聞き手を意識した発表になっていなかったため訪問後すぐにブラッシュアップをしました。学校で発表をした際には「差別」と「区別」の違いを、例を挙げて本題を話すことができ、訪問時より聞き手が理解しやすい発表になったと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

日本や世界の課題に対して、自分でデータを収集し、仮説を立ててアプローチを考えるのは初めてだったため苦戦することも多くありました。しかし、友人の発表を聞き、スライドの見やすさや話の進め方などを参考にして活動に取り組むことができました。そして、友人や企業の方から直接アドバイスをもらうことで聞き手を引き込む発表の仕方やさまざまな視点で物事を捉えることの大切さを学び、自分の発表をより良いものにすることができたと思います。また、私は将来やりたいことが見つからず悩んでいましたが、活動を通して自分が将来どのような職業に就きたいか、どのような職業に適正があるかを自分自身と向き合いながら真剣に考えることができ、良かったです。

(1) 探究テーマ [LGBTQ+に対する誤解や無知、不十分な法整備]

(2) 探究内容

持続可能な開発目標SDGsの目標番号5番（ジェンダー平等を実現しよう）と10番（人や国の不平等をなくそう）の2つの目標について調べ、LGBTQ+（レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー：性的少数者、クエスチョニング・プラス：性の在り方を決めていない人、性の多様性）という言葉や実際に性的少数者の人々が受けるいじめや差別があることを知ったために、LGBTQ+に対する誤解や無知からなるいじめ、差別があることや多様性社会に合った法整備が不十分であることは日本をはじめとする世界で解決すべき課題であると考えました。さらに、いじめや差別がある原因を様々なデータを読み取って明らかにしたり、日本にはない同性婚・パートナーシップ制度など、今後の多様性社会に必要な法整備が何かを調べたりして、私が目指している憧れの職業である「アニメーター」となったら、課題を解決するためにどのようなアプローチができるかを探究しました。私が「アニメーター」として課題解決のために行うアプローチとして、LGBTQ+を題材としたアニメ作品を企画、映像化し、正しい知識やLGBTQ+当事者の人々の想いや課題が解決する理想の未来の社会を視聴者に伝えるという方法を考えました。また、アニメ配信の拡大がわかるデータから私の考えた「アニメーター」としてのアプローチの有効性について考え、近年海外でも絶大な人気を誇る日本のアニメ作品は、言語や宣伝などを工夫することによって日本だけでなく世界にも発信力があるといえるため、私が考えたアプローチは有効であると判断しました。ただ、社会の課題はLGBTQ+に関するものだけではないため、他にも社会の課題を題材としたアニメ作品を制作し、視聴者ひとりひとりが様々な社会の課題に対して問題意識を持てるようなアニメ作品制作が出来たら良いと考えました。

(3) 訪問先 [JCCソフト株式会社東京本社]

(4) (3) からの学び

JCCソフト株式会社様の東京本社へ訪問し、発表について社会人、大人の視点から様々なアドバイスをいただきました。アドバイスをいただき、一番私自身の発表に欠けていたと気付けて良かったことは、「発表において、本題について話す前に前提知識をオーディエンスに示しておく必要がある」ということです。私の探究テーマである「LGBTQ+」は世間ではまだ完全に浸透した言葉という訳ではないため、言葉自体を知らない聴衆にもわかりやすく伝えるためには、まず初めに「LGBTQ+」という言葉の意味を説明しなければいけないということを教えていただきました。訪問後、学校でブラッシュアップしたプレゼンテーションをした際には「LGBTQ+」について言葉の説明を含めて発表したため、訪問時の発表よりも内容を効果的に伝えることができたと思います。

(5) MC探究Ⅱからの学び（1、2学期全体を通じて）

これからの社会を担う人材として解決していく必要がある社会の課題について考えたり、JCCソフト株式会社様への訪問で発表について客観的なご助言をいただいたりして、様々な視点から物事を見つめることの大切さを学びました。また、多くの意見やデータ・情報から正確且つ必要なものを発表や自分自身の考えに取り入れることの難しさも感じました。MC探究Ⅱを通して、SDGsの目標の詳細やLGBTQ+に関する課題を知って考えることで、未来の社会、自分の将来のキャリアや生き方について改めて深く考えることが出来て良かったと思います。

(1) 探究テーマ [日本のメディアリテラシー教育について]

(2) 探究内容

若者のスマホ所持率は年々増加している。特に、社会性に乏しく、人生経験の少ない子供は、SNS上でのトラブルに巻き込まれやすい。そのため、メディアリテラシー教育をすることはSNS上でのトラブルを防ぐのに効果的であるのではないかと仮説を立てた。埼玉県の小学校で行われていた、メディアリテラシー教育の効果を実証するプロジェクトをもとに仮説の有効性を証明し、主張をより強化させた。

(3) 訪問先 [JCCソフト株式会社東京本社]

(4) (3) からの学び

自分が1番問題視している誹謗中傷に対する解決策が弱いため、もっと効果的なもの考えた方が良いというフィードバックをいただき、アプリケーションシステムの改善を、より徹底的に行う方法を考える必要があるということがわかった。また、なぜ国語や数学の学力が高い児童はメディアリテラシー能力が伸びやすいのかを述べると、アプローチの有効性が高まるというフィードバックもいただき、因果関係を明確に述べるのが重要だとわかった。これらのことにより、自分には具体的な説明をする力が足りないと感じた。補足説明や具体例をとりあげることは、説明する相手の理解が高まることに繋がり、より説得力のある主張になるため、今後のプレゼンに活かしていきたい。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

今回テーマにしたメディアリテラシー教育は、最初は簡単に解決策が考えられるだろうと思っていたが、深いところまで考えていくうちにさまざまな問題点や考えるのが難しい部分が見つかり、どのテーマでも深いところまでじっくり考えていくことが重要であるということを知った。また、どんなに良い解決策を考えても、アプローチや根拠が弱ければ説得力のないものになってしまうことを学んだ。東京研修では、企業の方のアドバイスはどれも的確なものであり、働いている人たちの素晴らしさや経験の豊富さを感じた。1学期の時点ではまだ不安なことも多く、上手くまとめることができないのではないかと考えていたが、仲間と協力したり企業の方と関わったりすることで、多くの学びを得ることができ、それが自分の自信に繋がった。それにより、自分の主張をしっかりとグループに発表することができた。

(1) 探究テーマ [ヤングケアラー]

(2) 探究内容

ヤングケアラーの現状、課題、改善策

(3) 訪問先 [JCCソフト株式会社東京本社]

(4) (3) からの学び

JCCソフトの社長の方は「自分は小さな頃から数学が大好きで、それにとにかく打ちこんだ」と仰っており、実際にそれが今の仕事に関連しているので、私もそのような物を見つけ、熱心に打ち込みたいと思った。

(5) MC探究Ⅱからの学び(1、2学期全体を通じて)

私はヤングケアラーについての対策などをJCCソフトの皆様に長々と発表させていただきましたが、JCCソフト様からいただいた「それは、ヤングケアラー自身はどう感じるか？」というご指摘を頂いて、私が提示した解決策は私側の都合であって、当事者であるヤングケアラー自身の立場になって考えていなかったということがわかりました。この探究や企業の方のフィードバックから、これから何か物事を考えるときはさまざまな立場があることを念頭に置き、一面的なものの見方ではなくさまざまな角度から物事を考えていきたいと思いました。また研修から帰ってきて振り返ってみると、緊張して発表中にアイコンタクトが取れなかったり、資料の提示の仕方が適切ではないと思う場面も多かったので、スピーチ自体の質もまだまだ上げていかなければいけないと感じました。

今回の探究では、とにかくどうすれば問題が解決できるかを職業の立場から考えるということでもとても難しいものでした。しかし今回の探究で職業の可能性、社会的貢献度などがよくわかり、より職業選びに関心が向きました。自分は数学が大の苦手なのですが、JCCソフト様はそれまで通っていた大学の学部や経歴などはあまり関係なく、IT業界にも文系は役割があると聞いたので、もしかしたら将来JCCソフト様にお世話になることがあるかもしれません。今回は本当にありがとうございました。

またJCCソフトの社員の方々のとても優しい態度や丁寧なおもてなしにとっても感銘を受けました。プレゼンをするにあたって、私はとても緊張していましたが、企業の方々が温かく迎えていただき、お菓子などまでも用意してくださり、とても気がほぐれました。

私も社会人になり成人した暁には、JCCソフト様のような丁寧で温かい対応をし、人に接していきたいと思います。

(1) 探究テーマ [日本のIT人材不足]

(2) 探究内容

人材が不足している職を挙げ、中でも深刻と思われる技術職、エンジニアを取り上げ、急速な情報化に伴い増大したニーズに追いつかない人材供給に視点を当てて考察。まず、現在の市場について説明し、人材供給の課題を挙げる。また、この先どうなる恐れがあるのか説明し、解決する必要性を論じる。その後、解決のアプローチとして人材育成へ力を入れることを提案。そして良い感じに締めることができた。

(3) 訪問先 [JCCソフト株式会社東京本社]

(4) (3) からの学び

私のプレゼンテーションに対して多角的な視点からアドバイスを頂いた。まず、内容構成についてのアドバイスから発表順序への課題が洗い出せて、内容についても、本職の方からの現場の意見が聞くことができ、とても理解を深めることができ、より現実的な見解を得ることができた。また、エンジニアの仕事現場の見学をすることができ、プログラム作成に携わっている方にお話も聞くことができ、プログラミングのお話などを聞かせて頂いた。これは私の進路と重なるところもあるので、とても貴重な経験となった。

(5) MC探究Ⅱからの学び (1、2学期全体を通じて)

MC探究Ⅱでは日本または世界の持つ課題について探究してきたが、課題を見つける際の巨視的な視点、またそれについて調べる際の微視的な視点を使い分けることでより深く探究活動を行うことができ、また、これからの将来で必ず使うスキルを習得、向上させることができた。1年次でのMC探究Ⅰで、身近な地域での問題解決を目指す活動での経験を、今回のMC探究Ⅱでも活かすことが出来た。解決方法を模索する際は、より現実的かつ合理的な方法を探し、自分ができることにも結びつけて考えることができた。また、実際の問題を取り上げて探究することで、自分がこの社会の参加者だということへの実感や覚悟等を感じることができ、主体的な個人としての責任も感じることもできた。次年度は自分の進路とSDGsなどのことも含め総合的に探究し、自分の進路の見通しを立てていきたい。